

昆虫類



(1) レッドリスト種（昆虫類）の概要

レッドリスト種に選定した昆虫類は、252 種で、表 4-9 にカテゴリーごとの種数・概要を示します。

市内に生息すると推測される全昆虫種の約 10,000 種のうち、選定種は 2%程度にすぎません。しかし、分布や生息状況がよく調べられているチョウ類では、市内に記録のある 142 種のうち、約 3 割の 42 種が選ばれています。昆虫はあまりに種類が多いため、その現状を把握することは難しく、今後も継続した調査が求められます。

レッドリスト種の特徴として、草原や雑木林、堰や池沼の水辺等、人が維持管理してきた環境に生息していた種が多いことが挙げられます。また、高山帯に生息する種が含まれることも安曇野市の特徴といえます。

表 4-9 昆虫類レッドリスト種の概要

レッドリストカテゴリー	種数	選定した種の概要
絶滅 (EX)	7	・アカハネバッタ、タガメ、クロシジミ等を選定しました。
野生絶滅 (EW)	0	・野生絶滅に該当する種は選定されませんでした。
絶滅危惧 I 類 (CR+EN)	31	・山麓部・平野部に生息するオオクワガタや、オオルリシジミ等を選定しました。
絶滅危惧 II 類 (VU)	61	・高山帯に生息するクモマツマキチョウや、河川・水辺に生息するゲンジボタル等を選定しました。
準絶滅危惧 (NT)	140	・山地帯に生息するヒメギフチョウや、河川・水辺に生息するコオイムシ等を選定しました。
情報不足 (DD)	13	・河川・水辺に生息するオナガサナエ等を選定しました。

(2) 危惧される減少要因

レッドリスト種の絶滅・減少要因としては、直接的なものとして山麓部・平野部における各種開発が挙げられます。とりわけ草原・二次林・水辺等の生息環境が、この60年ほどの間に急速に減少・悪化しました。

さらに昆虫が人間とかかわる場合、一部の種が農業害虫・衛生害虫・不快昆虫であったことから、農薬等の過剰利用（下図円グラフの“水質汚濁”に含まれる）により、一律に駆除対象とされてきたことです。このため人間生活と殆ど関係のない残り大部分の昆虫たちまで巻き込まれ、激減してしまいました。そのことに関心も払われてこなかったのが実情です。

ごく一部の種ですが、オオルリシジミやゲンゴロウ類等は、マニアによって収集欲だけの非学術的な採集圧が加えられています。要因としてはわずかでも、減少に拍車をかける結果となっています。

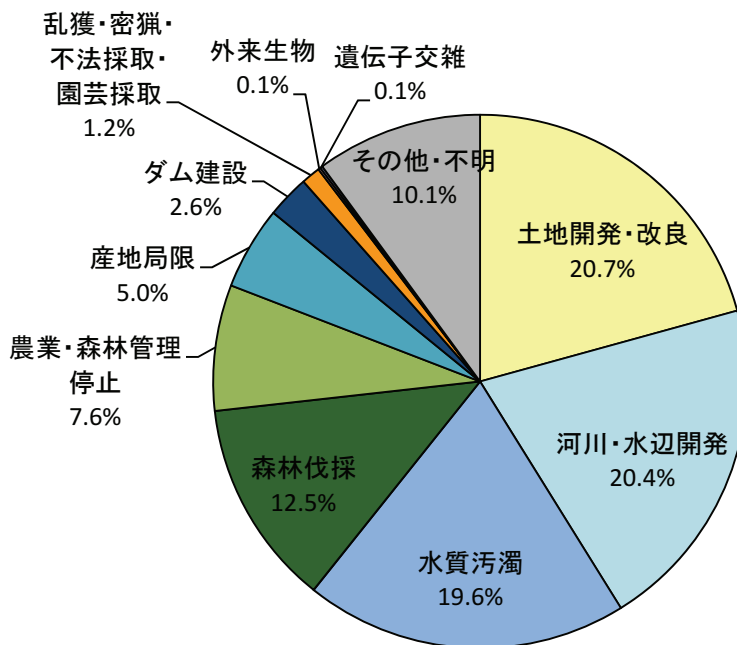


図 4-7 昆虫類レッドリスト種の減少要因の割合

アカハネバツタ (バッタ目 バツタ科)

Celes akitanus



生息環境



生息地



安曇野市：絶滅	長野県：絶滅	EX
EX	環境省：絶滅危惧ⅠA類	CR

●特徴：体長 25～40mm。体は暗褐色で、前翅や後脚腿節には黒褐色の紋があります。後翅の基半部が赤く、和名の由来となっています。成虫は7～10月に確認されていますが、詳しい生態などは不明です。

●生息環境：明るい林道やマツ林の下草などで確認されています。

●国内の分布：本州に分布します。全国でも1986年以降は記録がありません。

●市内の分布：1930年代に穂高有明で採集された標本が2個体あります。近年は確認されていないことから、絶滅したと考えられます。

●減少要因：草原が減少したことや農薬散布による生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 4, 10, 80

ヒゲナガヒナバツタ (バッタ目 バツタ科)

Schmidtiacris schmidti



生息環境



生息地



安曇野市：絶滅	長野県：絶滅危惧Ⅰ類	CR+EN
EX	環境省：—	—

●特徴：体長 18～25mm。体はやや細身で触角もやや長くみえます。体の色はやや白みがかった褐色です。最初に中房温泉で発見された際には新種とされましたが、現在は大陸産と同種に扱われています。

●生息環境：河川の砂礫地などに生息します。

●国内の分布：本州（東北地方から中部地方）に局地的に分布します。

●市内の分布：1930年代に中房川上流域で発見されました。その後は、1970年代の緻密な調査でも確認されていないことから、絶滅したと考えられます。

●減少要因：砂防ダムの建設などにより、河川敷の砂礫地が森林に遷移したことなどの生息地の悪化や減少が考えられますが、詳しいことはわかっていません。

参考文献 No. 4, 10, 80

タガメ (カメムシ目 コオイムシ科)

Lethocerus deyrollei



生息環境



生息地



安曇野市：絶滅	長野県：絶滅	EX
EX	環境省：絶滅危惧Ⅱ類	VU

●特徴：体長 48～65mm です。日本最大の水生昆虫で、体は灰褐色または褐色です。前脚は大きくて太い捕獲脚で、小魚や水生昆虫などを捕えます。雄はバナナのような芳香を放って雌を誘引し、交尾します。雌は水面上に出た水草の茎などに産卵します。

●生息環境：池沼、水田、小川などに生息します。

●国内の分布：本州から九州、南西諸島に分布します。

●市内の分布：1930年代に豊科で採集された標本があります。近年は確認されていないことから、絶滅したと考えられます。この標本は図鑑最大表示（65mm）を超えた71mmに達する大きな個体です。

●減少要因：農薬に極めて弱いことから、農薬が大量に使われた1960年代にはほぼいなくなったと考えられます。農業用水路のコンクリート化などによる生息地の悪化や減少も考えられます。

参考文献 No. 4

カワラハンミョウ (コウチュウ目 ハンミョウ科)

Chaetodera laetescripta



生息環境



●特徴：体長 14～17mm。体の背面は銅緑色で、上翅の側縁に沿って白色紋がありますが、地域変異が大きく、長野県内では縮小傾向が強いです。腹面は紫銅色で光沢があります。成虫は敏捷でよく飛翔します。幼虫、成虫ともに肉食性で、小昆虫などを捕食します。

●生息環境：河口や河川敷などの広大で清浄な砂地に生息します。

●国内の分布：北海道から九州に分布します。

●市内の分布：1930年代に豊科で採集された標本があります。それ以降は確認されていません。おそらく三川合流周辺の河川敷に生息していたと考えられます。これほど内陸部での記録は極めて貴重です。

●減少要因：河川敷の改修、治水工事、流水の水質悪化による生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 4, 80

安曇野市：絶滅	長野県：絶滅危惧Ⅰ類	CR+EN
EX	環境省：絶滅危惧ⅠB類	EN

クロシジミ (チョウ目 シジミチョウ科)

Niphanda fusca



生息環境



●特徴：開長 32～42mm。雄の翅表は光沢のある暗紫色で、雌は暗褐色です。年1回の発生で6～7月に出現しますが、雌は秋までみられます。幼虫はアブラムシが分泌する甘露をなめて成長しますが、3齢になるとクロオオアリに運び込まれて巣内で養育されます。

●生息環境：二次林の林縁や、灌木を混じえた草原などに生息します。

●国内の分布：本州から九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：1960年代まで穂高有明で確認されていました。近年は確認されていないことから、絶滅したと考えられます。

●減少要因：生息状況に関する記録が古く、情報も少ないため、絶滅した要因はわかっていません。

参考文献 No. 6, 11, 12, 33

安曇野市：絶滅	長野県：絶滅危惧ⅠB類	EN
EX	環境省：絶滅危惧ⅠB類	EN

オオウラギンヒョウモン (チョウ目 タテハチョウ科)

Fabriciana nerippe



生息環境



●特徴：開長 60～80mm。翅表は橙色に黒斑があり、後翅裏面には銀白紋があります。ウラギンヒョウモンに似ていますが、後翅裏面亜外縁の銀白紋は中央が凹み「M」字状となる特徴などで識別されます。成虫は7～9月に出現します。幼虫はスミレを食べます。

●生息環境：乾燥した草原に生息します。現存する生息地の多くは自衛隊の演習地や、野焼きによって維持管理されている比較的広い草原です。

●国内の分布：本州から九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：1960年代に穂高で確認された記録があります。近年は確認されていないことから、絶滅したと考えられます。県内の他地域の多くでも絶滅したと考えられています。

●減少要因：草原が減少したことなど、生息地の減少が考えられます。

参考文献 No. 11, 12, 33

安曇野市：絶滅	長野県：絶滅危惧ⅠA類	CR
EX	環境省：絶滅危惧ⅠA類	CR

ヒョウモンモドキ (チョウ タテハチョウ科)

Melitaea scotosia



生息環境



安曇野市：絶滅
EX

長野県：絶滅危惧ⅠA類	CR
環境省：絶滅危惧ⅠA類	CR

●特徴：開長 45～55mm。雄の翅表は明るい橙色ですが、雌は汚黄色から淡橙色で黒斑が発達します。コヒョウモンモドキより大型で、後翅裏面の斑紋は明瞭に異なります。年1回の発生で、6～7月に出現します。幼虫はタムラソウなどのアザミ類を食べます。

●生息環境：山地帯の溪流沿いや湿地などに生息します。

●国内の分布：本州に分布します。

●市内の分布：1960年代に豊科・明科で採集された標本があります。近年は確認されていないことから、絶滅したと考えられます。県内でも絶滅したと考えられています。

●減少要因：食草のタムラソウがある草原が減少したことによる生息地の減少が考えられます。

参考文献 No. 12, 33

トラフトンボ (トンボ エゾトンボ科)

Epithea marginata



イラスト

生息環境



安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類
CR+EN

長野県：絶滅危惧Ⅰ類	CR+EN
環境省：-	-

●特徴：体長 50～58mm。腹部には虎斑のような黒色と黄色の斑紋があり、和名の由来となっています。成虫は5～6月に出現します。雌は産卵弁の間に卵を放出して卵塊をつくり、腹端を水面に打水して産卵します。卵塊は水中で紐状になり、沈水植物に付着します。

●生息環境：平野部から山麓部の抽水植物や沈水植物が繁茂する池沼に生息します。幼虫は水底の沈積物の陰や泥の中に潜んでいます。

●国内の分布：本州から九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：豊科の溜池や三郷で確認されています。個体数はごく少ないと考えられます。

●減少要因：生息に適した森林に囲まれた池沼の開発や改修、農薬などによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 19

ハネビロエゾトンボ (トンボ エゾトンボ科)

Somatochlora clavata



生息環境



安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類
CR+EN

長野県：絶滅危惧Ⅱ類	VU
環境省：絶滅危惧Ⅱ類	VU

●特徴：体長 58～66mm。体は金属光沢のある緑色で黄斑がありますが、雄は成熟すると黄斑の大部分が消失します。成虫は7～9月に出現します。雌は単独で岸辺の苔類が生えた石の上や、砂泥が露出した浅瀬に飛来して、反復飛翔しながら間欠的に打泥産卵します。

●生息環境：平野部から山地帯の周囲に森林のある流れのゆるやかな細流や、水田、用水路などに生息します。幼虫は砂泥質の川底に生息します。

●国内の分布：北海道から九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：豊科の河川上流域で確認されています。個体数はごく少ないと考えられます。

●減少要因：元々、生息地が局地的なうえ、河川開発や用水路などの改修、農薬などによりさらに悪化や減少したことが考えられます。

参考文献 No. 7, 19

ハッチョウトンボ (トンボ目 トンボ科)

Nannophya pygmaea



生息環境



■ 湿地



■ 農作地

安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

CR+EN

長野県： —

—

環境省： —

—

●**特徴**：体長 17～21mm。未成熟の雄は橙色で、成熟すると赤化します。雌は黄色と褐色の縞模様です。成虫は6～8月に出現します。雌は単独で浅い水面を低く飛翔しながら薄緑色の卵塊をつくり、打水産卵します。雄は付近で警護することが多いです。

●**生息環境**：山麓部・平野部の低茎植物が繁茂する湿地や放棄水田などに生息します。幼虫は水底の腐植質や泥土の中に生息します。

●**国内の分布**：本州から九州に分布します。

●**市内の分布**：1980年代まで穂高牧で確認されていました。

●**減少要因**：元々、生息地が局地的であったことに加え、開発や農薬などによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No.

4, 6, 7, 11, 15

セグロイナゴ (バッタ目 バッタ科)

Shirakiacris shirakii



生息環境



■ 草原



■ 河川

安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

CR+EN

長野県：絶滅危惧Ⅰ類

CR+EN

環境省： —

—

●**特徴**：体長 26～40mm。体は褐色で、前胸背が平たく黒褐色となっている部分が、和名の由来となっています。後腿節は基部を除いて赤色です。成虫は8～11月に出現し、イネ科植物を食べます。セグロバッタという別名もありますが、イナゴの仲間です。

●**生息環境**：草原や堤防の法面などに生息します。

●**国内の分布**：本州から九州、その他離島に分布します。

●**市内の分布**：1930年代に穂高有明で採集された標本があります。

●**減少要因**：草原が減少したことや農薬散布による生息地の減少が考えられます。

参考文献 No.

4, 10, 80

ゴミアシナガサシガメ (カメムシ目 サンガメ科)

Myiophanes tipulina



生息環境



■ 森林



■ 草原

安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

CR+EN

長野県：絶滅危惧Ⅱ類

VU

環境省： —

—

●**特徴**：体長 16～17mm。体は淡褐色で、ガガンボのような細長い体形をしています。長毛を密生した脚には細かいゴミが絡み付いています。鎌状の前脚で小昆虫を捕食します。

●**生息環境**：里山的な環境に生息していますが、家屋の内外でみつけることが多いです。古い民家の床下などに生息している可能性もあります。

●**国内の分布**：本州から九州、その他離島に分布します。

●**市内の分布**：1930年代に豊科で採集された標本があります。

●**減少要因**：山麓部・平野部の二次林や草原が減少したことや農薬散布による生息地の悪化や減少が考えられますが、詳しいことはわかりません。

参考文献 No.

4, 18

ハリサシガメ (カメムシ目 サシガメ科)

Acanthaspis cincticrus



生息環境



安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

CR+EN

長野県：—

—

環境省：準絶滅危惧

NT

●特徴：体長 14~16mm。体は一様に黒く、直立長毛と平伏短毛に覆われます。前胸背側角は棘状に突出し、後葉に4つの黄褐色の楕円紋が横一列に並びます。主にアリ類を捕食しますが、体液を吸収した後は、その死体を背の上に付着する習性があります。

●生息環境：荒地などで確認されていますが、墓地などの人為的環境からもみつかっています。

●国内の分布：本州から九州に分布します。

●市内の分布：1930年代に穂高宮城で採集された標本があります。

●減少要因：山麓部・平野部の二次林や草原が減少したことや農薬散布による生息地の悪化や減少が考えられます。また捕食対象のアリの生息状況が影響している可能性もあります。

参考文献 No.

—

キオビツノカメムシ (カメムシ目 ツノカメムシ科)

Cyphostethus japonicus



イラスト

生息環境



安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

CR+EN

長野県：—

—

環境省：—

—

●特徴：体長約9mm。体の背面は緑色を帯びた褐色で、革質部は後縁に沿って広く黄褐色あるいは赤褐色を帯びます。

●生息環境：ヨーロッパの同属種はビャクシンなどの果実を吸汁することから、山麓部の自然度の高い針広混交林に生息すると考えられます。

●国内の分布：本州、四国に分布します。1950年代に安曇野市穂高と徳島県で採集されて以来、再発見されていません。

●市内の分布：1950年代に穂高で採集された標本があります。

●減少要因：山麓部・平野部が森林伐採され乾燥化したことや農薬散布による生息地の悪化や減少が考えられますが、詳しいことはわかりません。

参考文献 No.

103

ツヤキベリアオゴミムシ (コウチュウ目 オサムシ科)

Chlaenius spoliatus motschulskyi



生息環境



安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

CR+EN

長野県：—

—

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

VU

●特徴：体長 15~16mm。体は黒色で、背面に緑から赤銅色の光沢があります。上翅は第7条から外側と翅端が黄褐色です。夜行性で、水際を敏捷に走り回ります。成虫で越冬します。

●生息環境：河川や池沼などの水辺や湿地に生息します。

●国内の分布：本州、四国に分布します。

●市内の分布：1930年代に豊科で採集された標本があります。おそらく湧水池に生息していると考えられます。

●減少要因：河川開発や改修による湧水池の減少や周辺の乾燥、農薬散布による生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No.

—

クロゲンゴロウ (コウチュウ目 ゲンゴロウ科)

Cybister brevis



生息環境



生息地



河川
池沼
水田

安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

CR+EN

長野県：準絶滅危惧

NT

環境省：準絶滅危惧

NT

●特徴：体長 20～25mm。体はやや扁平な卵形です。体色は黒色で光沢があります。池沼などに生息し、夏季は灯火にも飛来します。成虫、幼虫ともに肉食性で、他の水生動物を捕食します。

●生息環境：水生植物の豊富な浅い池沼、湿地、水田、ゆるやかな流れの水路などに生息します。

●国内の分布：本州から九州に分布します。

●市内の分布：1930年代に豊科で採集された標本があります。

●減少要因：溜池、水田・湿地などの生息地が開発などにより減少したことや、農薬などによる水質の悪化が考えられます。

参考文献 No.

シマゲンゴロウ (コウチュウ目 ゲンゴロウ科)

Hydaticus bowringii



生息環境



生息地



河川
池沼

安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

CR+EN

長野県：絶滅危惧Ⅱ類

VU

環境省：準絶滅危惧

NT

●特徴：体長 13～14mm。体はやや扁平な楕円形で、光沢があります。頭部、前胸背は淡黄褐色で、後縁中央は黒色です。上翅は黒色で、4本の条紋と1対の小丸紋は淡黄褐色です。成虫、幼虫ともに、小型の水生動物を捕食します。夏季は灯火にも飛来します。

●生息環境：二次林に隣接し、水深が浅く水生植物の豊富な池沼、湿地などに生息します。

●国内の分布：北海道から九州、南西諸島、その他離島に分布します。

●市内の分布：1930年代に豊科で採集された標本があります。

●減少要因：溜池、水田・湿地などの生息地が開発などにより減少したことや、農薬などによる水質の悪化が考えられます。

参考文献 No.

4

オオクワガタ (コウチュウ目 クワガタムシ科)

Dorcus hopei binodulus



生息環境



生息地



安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

CR+EN

長野県：絶滅危惧Ⅰ類

CR+EN

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

VU

●特徴：体長 21～76mm。体は黒色で光沢がありますが、大型の雄ほど鈍くなります。体形は幅広く扁平で、小型の雄と雌の上翅には12条の点刻列があります。成虫は樹洞のあるクヌギの大木などに生息し、夜間に活動します。幼虫はクヌギなどの腐朽材を食べます。

●生息環境：山麓部・平野部の二次林に生息しますが、太い朽木が十分に供給される環境が必要です。

●国内の分布：北海道から九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：1930年代に穂高で採集された体長63mmの雄の標本があります。おそらく天蚕用のクヌギ林に生息していると考えられます。

●減少要因：幼虫が生息する落葉広葉樹の大木が減少していることや、農薬散布や採集による個体の減少が考えられます。近年は、ペット用の日本本土以外の個体との遺伝子交雑も懸念されます。

参考文献 No.

4

クロモンマグソコガネ (コウチュウ目 コガネムシ科)

Aphodius variabilis

安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

長野県：—

—

CR+EN

環境省：準絶滅危惧

NT



●特徴：体長 5～7mm。体は長楕円で、背面はあまり強く膨隆しません。体色は黒色から黒褐色で光沢があり、頭部、前胸背板の側縁は黄褐色で、上翅に黄褐色の斑紋があります。成虫は 10～3 月に出現し、初冬に多くみられます。動物の糞に集まります。

●生息環境：放牧地や河川敷の草原などの開けた環境に生息します。

●国内の分布：北海道から九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：1930 年代に明科上川手で採集された標本があります。

●減少要因：農業の近代化で牛馬が使われなくなったことや、家畜飼料に含まれる抗生物質、草原環境が減少したことによる生息地の悪化や減少が考えられますが、詳しいことはわかっていません。

参考文献 No. 4

シラカハナカミキリ (コウチュウ目 カミキリムシ科)

Judolia parallelopipeda

安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

長野県：絶滅危惧Ⅰ類

CR+EN

CR+EN

環境省：—

—



●特徴：体長 8～14mm。体は光沢のない黒色で、上翅は黄褐色の横帯状紋があります。成虫は 7～8 月に出現し、ナナカマドやハイマツの花を訪れます。また、森林限界付近の尾根沿いで、地面際を飛び回っている個体をみかけます。幼虫期の生態などは不明です。

●生息環境：高山帯に生息します。

●国内の分布：北海道、本州、その他離島に分布します。

●市内の分布：穂高・堀金の亜高山帯に生息し、1970 年代に常念岳周辺で確認されています。

●減少要因：森林伐採や植林による生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 6, 11, 138, 141

スミイロハナカミキリ (コウチュウ目 カミキリムシ科)

Nivellia extensa yuzawai

安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

長野県：絶滅危惧Ⅰ類

CR+EN

CR+EN

環境省：—

—



●特徴：体長 11～16mm。体色は光沢のない黒色です。前胸背板は中央部が縦にへこみ、淡色微毛をそなえます。上翅は点刻が密で、微毛をそなえます。成虫は 7～8 月に出現し、ショウマ類の花や常緑針葉樹の倒木上などでみられます。幼虫期の生態は不明です。

●生息環境：常緑針葉樹林を中心とした亜高山帯から高山帯にかけて生息します。

●国内の分布：本州中部の山岳地帯に分布します。

●市内の分布：穂高の亜高山帯に生息し、1970 年代に燕岳で記録されています。

●減少要因：森林伐採や植林による生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 52, 138, 141

ホシチャバネセセリ (チョウ目 セセリチョウ科)

Aeromachus inachus inachus



生息環境



安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

長野県：絶滅危惧ⅠB類

EN

CR+EN

環境省：絶滅危惧ⅠB類

EN

●特徴：開長 24～27mm。翅の表は茶褐色で、前翅には白点列があります。裏面は後翅が黄褐色で、前後翅ともに白色の点列があります。暖地では年2回発生しますが、寒冷な地域では年1回の発生で7～8月に出現します。幼虫はオオアブラススキを食べます。

●生息環境：森林の間の草原、疎林の周辺、谷筋の草原などに生息します。

●国内の分布：本州、その他離島に分布します。

●市内の分布：1970年代に豊科田沢で確認されています。

●減少要因：食草のアブラススキなどがある草原の減少が考えられます。

参考文献 No.

33

ギンイチモンジセセリ (チョウ目 セセリチョウ科)

Leptalina unicolor



生息環境



安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

長野県：準絶滅危惧

NT

CR+EN

環境省：準絶滅危惧

NT

●特徴：開長 30～34mm。前後翅表面は黒褐色で無紋です。後翅裏面は、和名の由来となった銀色の条線が中央部に入ります。暖地では年2～3回発生しますが、寒冷な地域では年1回の発生で6～7月に出現します。幼虫はイネ科のススキやチガヤなどを食べます。

●生息環境：日当たりの良い山地帯の草原に生息しますが、平野部の河川敷などでみられることもあります。

●国内の分布：本州、その他離島に分布します。

●市内の分布：1970年代前後に豊科・穂高・三郷・堀金で確認されています。

●減少要因：食草のススキやアブラススキがある草原の減少が考えられます。

参考文献 No.

4, 12, 18, 19, 33, 52

ミヤマチャバネセセリ (チョウ目 セセリチョウ科)

Pelopidas jansonis



生息環境



安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

長野県：絶滅危惧Ⅱ類

VU

CR+EN

環境省：—

—

●特徴：開長 35～40mm。翅の表面は黒褐色、裏面は赤みを帯びた褐色で、白斑があります。後翅裏面中室に顕著な銀白色の紋があり、類似種との区別点になります。年2回の発生で、4～6月と7～8月に出現します。幼虫はイネ科のススキやチガヤなどを食べます。

●生息環境：明るい草原に生息しますが、広い草原より農地周辺や林道沿いなどを好む傾向があります。

●国内の分布：本州から九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：穂高・三郷・堀金の山麓部で確認されています。堀金では2000年代にも確認されています。

●減少要因：食草のススキがある草原の減少が考えられます。

参考文献 No.

4, 12, 33, 52, 63

ツマグロキチョウ (チョウ目 シロチョウ科)

Eurema laeta betheseba



安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

長野県：絶滅危惧ⅠA類

CR

CR+EN

環境省：絶滅危惧ⅠB類

EN

●特徴：開長 35～40mm。翅表は黄色で、前翅先端部は黒色です。夏季と秋季に出現する個体の間には翅形や色彩などに差があり、夏型はキタキチョウに似ていますが、前翅端の角張りや黒縁のあらわれ方などで識別されます。幼虫はカワラケツメイを食べます。

●生息環境：河川敷のように土地が攪乱される荒地に生息します。

●国内の分布：本州から九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：穂高・三郷・堀金の山麓部に生息地が点在しますが、1980年代以降、個体数は減少しました。

●減少要因：食草のカワラケツメイがある草原の減少が考えられます。

参考文献 No. 4, 12, 33, 52

ヤマキチョウ (チョウ目 シロチョウ科)

Gonepteryx rhamni maxima



安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

長野県：絶滅危惧Ⅱ類

VU

CR+EN

環境省：絶滅危惧ⅠB類

EN

●特徴：開長約 60mm。翅表は雄が濃黄色で、雌は蒼白色です。前後翅中室外端に橙斑があります。スジボソヤマキチョウに似ていますが、前翅外縁の縁取りなどで識別されます。年1回の発生で7～8月に羽化し、成虫で越冬します。幼虫はクロツバラを食べます。

●生息環境：山麓部から山地帯の疎林や林縁に生息します。

●国内の分布：本州（東北地方北部、本州中部）に分布します。

●市内の分布：1970年代までは市内の広い範囲に生息し、用水路周辺に自生したクロツバラを食草にしていました。1980年代に個体数は激減し、1990年代以降はほとんど確認されていません。

●減少要因：圃場整備などにより食樹のクロツバラがなくなったことによる生息地の悪化が考えられます。

参考文献 No. 4, 12, 18, 19, 33, 52

ヒメシロチョウ (チョウ目 シロチョウ科)

Leptidea amurensis



安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

長野県：準絶滅危惧

NT

CR+EN

環境省：絶滅危惧ⅠB類

EN

●特徴：開長 40～50mm。夏型の翅表は白色で、前翅の先端部に黒斑があります。春型は灰白色で、翅表前翅端の黒鱗は発達が悪く、雌ではほとんど消失する個体もあります。年3回の発生で、4～5月と7～9月に2回出現します。幼虫はツルフジバカマを食べます。

●生息環境：山麓部・平野部から山地帯の日当たりの良い草原に生息します。

●国内の分布：北海道から九州に分布します。

●市内の分布：1970年代までは市内の広い範囲に生息していました。1980年代に個体数は激減し、1990年代以降は2000年代に穂高で確認されたのみです。

●減少要因：圃場整備などにより食草のツルフジバカマが減少したことによる生息地の悪化が考えられます。

参考文献 No. 4, 12, 19, 33, 52

アサマジミ (チョウ目 シジミチョウ科)

Lycaeides subsolanus



生息環境



安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

長野県：準絶滅危惧

NT

CR+EN

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

VU

●**特徴**：開長 26～35mm。雄の翅表の基部は青藍色ですが、発達の程度に個体差があります。雌は暗褐色です。年1回の発生で、6～7月に出現しますが、高地では7～8月に見られます。幼虫はナンテンハギなどを食べます。北アルプスの高地には別亜種が生息します。

●**生息環境**：日当たりの良い草原などに生息します。北アルプスでは溪流沿いの草原やガレ場などに生息します。

●**国内の分布**：北海道と本州（中部地方）に分布します。

●**市内の分布**：1960年代までは豊科に生息していました。穂高の亜高山帯でも確認記録があります。

●**減少要因**：生息状況に関する記録が古く、情報も少ないため、減少した要因はわかっていません。

参考文献 No. 4, 12, 19, 33

オオルリシジミ (チョウ目 シジミチョウ科)

Shijimiaeoides divinus barine



生息環境



安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

長野県：絶滅危惧ⅠB類

EN

CR+EN

環境省：絶滅危惧ⅠA類

CR

●**特徴**：開長 32～37mm。翅表は紫藍色で、雌は前翅に黒斑があります。年1回の発生で、5～6月に出現します。幼虫はクララの蕾や花穂を食べます。【長野県指定希少野生動植物】

●**生息環境**：堤防ののり面や、農地の畦畔などの明るい草原に生息します。畦畔の野焼きがメアカタマゴバチによる卵の寄生を減らし、発生率を高める効果がわかっています。

●**国内の分布**：本州、九州に分布します。

●**市内の分布**：1980年代までは市内の水田に生息地が点在していましたが、1990年を最後に野生では一度絶滅しました。その後、現地の個体の人工飼育などにより、堀金の生息地が復活しました。

●**減少要因**：圃場整備などにより、食草のクララがある草原が減少したことによる生息地の悪化や減少が考えられます。動力草刈機により農地の畦畔からクララがなくなったことも影響しています。

参考文献 No. 4, 12, 15, 19, 29, 33, 52, 63

コヒョウモンモドキ (チョウ目 タテハチョウ科)

Melitaea britomartis nippona



生息環境



安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

長野県：準絶滅危惧

NT

CR+EN

環境省：絶滅危惧ⅠB類

EN

●**特徴**：開長 35～45mm。翅表は橙色に黒斑がありますが、雌は淡色で黒斑が発達します。年1回の発生で、7～8月に出現します。越冬前の幼虫はクガイソウを食べますが、越冬後は広食性となることが知られていて、オオバコやオオイヌノフグリなども食べます。

●**生息環境**：山地帯から亜高山帯の草原や、溪流沿いの草原に生息します。

●**国内の分布**：本州（関東地方、中部地方）に分布します。

●**市内の分布**：穂高・三郷・堀金の山麓部の林道沿いなどに生息地が点在します。

●**減少要因**：食草のクガイソウがある草原が減少したことなどによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 4, 12, 18, 19, 33, 52

ヒメヒカゲ (チョウ目 ジャノメチョウ科)

Coenonympha oedippus annulifer

安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

長野県：絶滅危惧ⅠB類

EN

CR+EN

環境省：絶滅危惧ⅠA類

CR



生息環境



■ 草原

■ 湿地



●特徴：開長 35～40mm。翅表は暗褐色で無紋です。雌は翅表の色彩が淡く、裏面の眼状紋及び後翅眼状紋内側の白状が発達します。雄は前翅裏面の眼状紋が消失する個体もみられます。年1回の発生で、6～7月に出現します。幼虫はヒメカンスゲなどを食べます。

●生息環境：山麓部・平野部から亜高山帯の草原に生息します。乾燥した草原に多くみられますが、湿地にも生息します。

●国内の分布：本州中部から中国地方、その他離島に分布します。

●市内の分布：穂高有明や上原、三郷黒沢に生息地がありましたが、1980年代以降は確認されていません。

●減少要因：河川開発や森林化による河川敷の草原の減少や、薬剤散布などによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 4, 12, 19, 33, 52

クロヒカゲモドキ (チョウ目 ジャノメチョウ科)

Lethe marginalis

安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

長野県：絶滅危惧Ⅱ類

VU

CR+EN

環境省：絶滅危惧ⅠB類

EN



生息環境



■ 草原

■ 湿地



●特徴：開長 45～60mm。和名のとおりクロヒカゲに似ていますが、前翅裏面垂外縁の眼状紋列や、翅形などの特徴から識別されます。雌は翅形が幅広く地色は淡色で、前翅の斜白帯が明瞭です。年1回7～8月に出現します。幼虫はオオアブラススキなどを食べます。

●生息環境：山麓部から山地帯の二次林の林縁などに生息します。

●国内の分布：本州から九州に分布します。

●市内の分布：1920年代までは三郷小倉に生息地がありました。また、1980年代までは豊科大口沢で確認されていましたが、1990年代以降は確認されていません。

●減少要因：草原の減少による生息環境の悪化や減少が考えられますが、詳しいことはわかっていません。

参考文献 No. 4, 12, 19, 33, 52

ヒロバカレハ (チョウ目 カレハガ科)

Gastropacha quercifolia cerridifolia

安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

長野県：—

—

CR+EN

環境省：—

—



生息環境



■ 草原



●特徴：開長 48～75mm。色彩は地味で、枯れ葉に擬態しています。カレハガに似ていますが、翅が太く丸みを帯びます。後翅前縁の橙黄色はカレハガのように目立ちません。成虫は8月に確認されています。幼虫の食草は不明ですが、サクラ類で飼育されています。

●生息環境：草原に生息します。

●国内の分布：本州に分布します。

●市内の分布：1930年代に豊科で採集された標本があります。

●減少要因：草原が減少したことなどによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. —

ウスジロドクガ (チョウ目 ドクガ科)

Calliteara virginea

安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

長野県： —

—

CR+EN

環境省：準絶滅危惧

NT



●特徴：開長 45～64mm。翅は純白ですが、後翅の基部は淡褐色です。前翅の横線はやや不明瞭です。雄の胸背は鱗毛が密生し、隆起しています。成虫は年 1 回の発生で、5～6 月に出現します。幼虫はマメ科のハギ類を食べます。

●生息環境：山麓部・平野部から山地帯の草原に生息します。

●国内の分布：本州、四国に分布します。

●市内の分布：1930 年代に豊科で採集された標本があります。

●減少要因：草原が減少したことなどによる生息地の悪化や減少が考えられます。

生息環境



参考文献 No.

6

ゴマベニシタヒトリ (チョウ目 ヒトリガ科)

Rhyparia purpurata gerda Warnecke

安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

長野県： —

—

CR+EN

環境省：準絶滅危惧

NT



●特徴：開長 38～48mm。前翅は黄色で、灰褐色紋が帯状に連なります。後翅は橙色で黒色の斑紋があります。成虫は7月に出現します。雄は灯火に飛来しますが、雌は昼間に葉上や茎に静止している個体がみられます。幼虫はキンギンボクなどの葉を食べます。

●生息環境：山地帯の草原に生息します。

●国内の分布：本州中部に分布します。

●市内の分布：1930 年代に豊科田沢で採集された標本があります。

●減少要因：草原が減少したことなどによる生息地の減少が考えられます。

生息環境



参考文献 No.

—

マダラムラサキヨトウ (チョウ目 ヤガ科)

Eucarta amethystina

安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

長野県： —

—

CR+EN

環境省： —

—



●特徴：開長 28～34mm。前翅の地色は茶褐色から紫褐色で、内横線及び外横線内側に薄い桃花色の帯があらわれます。後翅は茶褐色で、内部は淡色です。成虫は年 2 回発生し、6 月と 8～9 月にみられます。幼虫はセリ科のニンジン、カワラボウフウなどを食べます。

●生息環境：山地帯に生息することや、食草のカワラボウフウの生育環境などから、山地帯の日当たりの良い草原に生息する可能性が考えられます。

●国内の分布：北海道、本州中部以北に分布します。

●市内の分布：1930 年代に豊科田沢で採集された標本があります。

●減少要因：減少要因は、情報が少ないためよくわかっていません。

生息環境



参考文献 No.

—

ヘリグロヒメヨトウ (チョウ目 ヤガ科)

Platysenta illustrata

安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

長野県：留意種

N

CR+EN

環境省：絶滅危惧ⅠB類

EN



イラスト

生息環境



●特徴：開長 25～27mm。前翅の地色は赤褐色で、外半部は翅脈に沿って濃色の筋があらわれます。縁毛は暗褐色で翅脈部に白斑を生じてまだら模様となります。成虫は6月と9月に出現します。幼虫の食草は不明ですが、中国ではキク科の記録があります。

●生息環境：中国でキク科を食草としていた記録があることから、草原性の種の可能性が考えられます。

●国内の分布：長野県松本市周辺で確認されています。

●市内の分布：1960年代に明科で確認されています。

●減少要因：減少要因は、情報が少ないためよくわかっていません。全国的にも1960年代後半以降、確認されていないことから、希少性は高いと考えられます。

参考文献 No.

6

ハイマダラクチバ (チョウ目 ヤガ科)

Autophila inconspicua

安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

長野県：—

—

CR+EN

環境省：—

—



生息環境



●特徴：開長 43～45mm。前翅の地色は灰黄色で、暗灰色の鱗片で覆われています。成虫は7月頃に羽化し、翌春まで活動せずに休眠すると考えられ、越冬後の4月にみられます。幼虫の食草は不明ですが、ヨーロッパ産の近縁種はマメ科植物を食べます。

●生息環境：内陸部の草原などで確認されています。

●国内の分布：北海道や本州中部に分布します。

●市内の分布：1930年代に豊科上川手で確認されています。この記録が長野県内も含めて唯一の記録です。

●減少要因：減少要因は、情報が少ないためわかっていません。全国的にも確認例がほとんどないことから、希少性は高いと考えられます。

参考文献 No.

—

キイトンボ (チョウ目 イトトンボ科)

Ceragriion melanurum

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県：—

—

VU

環境省：—

—



生息環境



●特徴：体長 31～48mm。全身が明るい黄色で、雄は成熟すると胸部が緑色になり、雌は腹部も緑色味が強くなる個体が見られます。成虫は6～9月に出現します。産卵期には池沼の抽水植物の多い場所に集まり、雌雄連結して水面近くの植物組織内に産卵します。

●生息環境：山麓部・平野部から山地帯の抽水植物の繁茂する池沼や湿地などに生息します。

●国内の分布：本州から九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：穂高牧で確認されています。

●減少要因：開発などによる湿地や休耕田などの減少、農薬などでの水質悪化による生息地の減少が考えられます。

参考文献 No.

6, 15, 19, 36

オゼイトトンボ (トンボ目 イトトンボ科)

Coenagrion terue



安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

VU

長野県：絶滅危惧Ⅱ類

VU

環境省：—

—

●特徴：体長 33～40mm。雄は鮮やかな青色で、成熟すると斑紋の青味が増します。雌は緑色と青色の2型がみられます。成虫は5～8月に出現します。産卵は雌雄連結で水面に浮いた植物組織内に行い、潜水産卵もみられます。雌単独での産卵も行います。

●生息環境：山地帯の抽水植物の豊富な湧水に繋がる小川や、湿地的性格を備えた池沼に生息します。

●国内の分布：北海道、本州中部以北に分布します。

●市内の分布：豊科・明科の山地帯の溜池で確認されています。

●減少要因：河川、池沼開発、用水路のコンクリート護岸、農薬などでの水質悪化などによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No.

19

ムカシヤンマ (トンボ目 ムカシヤンマ科)

Tanypteryx pryeri



安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

VU

長野県：—

—

環境省：—

—

●特徴：体長 63～80mm。体は黒地に黄色の斑紋があり、翅胸前面は淡褐色です。複眼は黒褐色です。成虫は5～7月に出現します。雌は水の浸み出る斜面や湿地を訪れ、単独で泥土や苔類の間に産卵します。幼虫は泥土や苔類の間に穴を掘って、その中で生活します。

●生息環境：山麓部から山地帯の周囲に樹林のある湿地や、水が浸み出した斜面などに生息します。

●国内の分布：本州、九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：烏川や黒沢川の河川上流域で確認されています。常に水がしたり落ち、ゼニゴケなどが一面におおうような崖などの特殊な環境に生息します。

●減少要因：河川沿いの林道の法面のコンクリート化などによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No.

4, 7, 11, 15, 36, 40, 45, 52, 69

アオサナエ (トンボ目 サナエトンボ科)

Nihonogomphus viridis



安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

VU

長野県：絶滅危惧Ⅰ類

CR+EN

環境省：—

—

●特徴：体長 57～65mm。胸部と腹部前半が鮮やかな緑色です。成虫は5～7月に出現します。羽化直後は水辺の近くの森林や草原で過ごしますが、産卵期には水辺に戻ってきます。雌は流れの上でホバリングしながら打空産卵しますが、打水産卵することもあります。

●生息環境：山麓部の樹林に囲まれた砂底の小河川の中流域や、池沼などに生息します。幼虫は砂礫底に生息します。

●国内の分布：本州から九州に分布します。

●市内の分布：明科の犀川で確認されています。近年、周辺地域では確認例が増えています。

●減少要因：河川開発や農薬などでの水質悪化による生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No.

59

カトリヤンマ (トンボ目 ヤンマ科)

Gynacantha japonica



生息環境



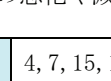
▶ 湿地



▶ 農作物地



▶ 河川



▶ 池沼

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県：絶滅危惧Ⅱ類

VU

VU

環境省：—

—

●特徴：体長 66～77mm。未熟個体は淡褐色ですが、成熟すると雄は胸部が緑色、腹部 2～3 節の斑紋が青色に変化します。雌は腹部の斑紋が緑色です。成虫は 6～10 月に出現し、黄昏飛翔します。雌は単独で湿地や水田の泥土などに静止して、泥の中に産卵します。

●生息環境：山麓部・平野部から山地帯の樹陰の多い池沼、水田、河川敷の水溜りなどに生息します。幼虫は水中の植物や落ち葉の中でみつけられます。

●国内の分布：北海道から九州、南西諸島、その他離島に分布します。

●市内の分布：豊科の水田などで確認されています。

●減少要因：土地造成による湿地の消失や河川・池沼の開発、農薬などによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No.

4, 7, 15, 18, 19

エゾエンマコオロギ (バッタ目 コオロギ科)

Teleogryllus infernalis



生息環境



▶ 湿地



▶ 農作物地

▶ 河川

▶ 池沼

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県：絶滅危惧Ⅱ類

VU

VU

環境省：—

—

●特徴：体長 20～33mm。体は黒色でエンマコオロギに似ていますが、頭部の眉斑が常に小さくて顔が黒いのが特徴です。若齢幼虫は腹部に白い帯があります。卵で越冬し、成虫は秋に出現します。鳴き声はエンマコオロギよりトレモロが速く、切って鳴きます。

●生息環境：河川の砂礫地で、石が転がっている場所に生息します。

●国内の分布：北海道、本州に分布します。

●市内の分布：1980 年代までは、烏川下流域の水が伏流している石の多い砂礫地で確認されています。

●減少要因：河川開発や農薬散布による生息地の減少が考えられます。また、砂礫地が汚泥に覆われることも影響すると考えられます。

参考文献 No.

10, 58, 80

イナゴモドキ (バッタ目 バッタ科)

Mecostethus parapleurus



生息環境



▶ 湿地



▶ 草原

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県：—

—

VU

環境省：—

—

●特徴：体長 25～30mm。体色は黄緑色、黄褐色、褐色の 3 型があり、雄は黄緑色が多く、雌は褐色が多くなります。前胸肩部の黒条はイナゴ類のようですが、前翅の径脈部まで繋がります。体は細く、翅は後腿節を超えます。成虫は 6～8 月に出現します。

●生息環境：イネ科植物の多い草原に生息しますが、山地帯の草原に多い傾向がみられます。

●国内の分布：北海道から九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：1930 年代に穂高有明で採集された標本があります。また、1980 年代には穂高草深で確認されています。

●減少要因：草原が減少したことや農薬散布による生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No.

4, 10

ツマグロバツタ (バッタ目 バツタ科)

Stethophyma magister



生息環境



安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

VU

長野県：—

—

環境省：—

—

●特徴：体長 33～49mm。雄は明るい黄褐色で、雌は枯草色です。翅は長く後腿節を超えますが、和名の由来となっている翅端の黒色部はまれに消失します。雌雄による差が大きく、地域変異や個体変異も多い種です。成虫は7～9月に出現します。

●生息環境：湿地や水辺などのイネ科の草原に生息します。

●国内の分布：北海道から九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：1930年代に穂高北穂高で採集された標本があります。

●減少要因：草原が減少したことや農薬散布による生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 4, 10

オニグルミクチナガオオアブラムシ (ヨコバイ目 アブラムシ科)

Stomaphis matsumotoi



生息環境



安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

VU

長野県：—

—

環境省：—

—

●特徴：体長 5～6mm です。体は暗褐色で、口吻が体長より長くなっています。オニグルミの幹につくられた蟻道内でアリと共生しています。確認された株の蟻道のみで世代を継承し、移住することはありません。

●生息環境：オニグルミが生育する山地の溪流沿いに生息します。オニグルミの樹皮にはコケが付着していることが多く、このことが蟻道内のアブラムシを乾燥から守っていると考えられます。

●国内の分布：1988年に烏川渓谷で発見された新種です。安曇野市以外では札幌市と佐渡で確認されています。

●市内の分布：烏川渓谷の3箇所を確認されています。寄主となるオニグルミの木は限定されており、個体数は多くはありません。

●減少要因：共生している蟻の死滅や、生息しているオニグルミの株の枯死によるものと考えられます。

参考文献 No. 105

アカガネオサムシ (コウチュウ目 オサムシ科)

Carabus granulatus telluris



生息環境



安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

VU

長野県：絶滅危惧Ⅱ類

VU

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

VU

●特徴：体長 20～24mm。体はほぼ黒色で、背面は鈍い銅色光沢があります。上翅には3条の鎖線状の隆条と、その間に強い隆条があります。後翅は退化していませんが、脆弱で飛翔できません。成虫は地表性で、カタツムリやミミズなどを食べます。

●生息環境：山麓部・平野部の良好な二次林が残る大型河川中流の河川敷に生息します。

●国内の分布：本州（東北地方から中部地方）に分布します。

●市内の分布：1990年代に三川合流周辺を中心に豊科高家から明科の睦橋までの犀川河川敷の5か所で確認されました。その後、生息地と個体数が激減しています。

●減少要因：河川開発による生息地の悪化や減少が考えられます。本種は飛翔できないため、生息地の減少は大きな脅威です。また、マニアによる採集圧も影響していると考えられます。

参考文献 No. 6, 19, 58, 80

セアカオサムシ (コウチュウ目 オサムシ科)

Hemicarabus tuberculatus

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県：絶滅危惧Ⅱ類

VU

VU

環境省：準絶滅危惧

NT



生息環境



●特徴：体長 16～22mm。頭部、前胸背板、上翅側縁部は赤銅色で弱く金緑色を帯びます。上翅には瘤状の隆起列があります。後翅は退化して飛翔できません。成虫は地表性で、肉食と考えられます。市内及び長野県内では幼虫期の生態は不明です。

●生息環境：山麓部・平野部から亜高山帯の自然林もしくは良好な二次林に隣接する乾燥した草原や裸地に生息します。

●国内の分布：北海道から九州に分布します。

●市内の分布：1930年代に豊科で採集された標本があります。湧水池近くに生息していると考えられます。

●減少要因：土地造成などによる生息地の悪化や減少が考えられます。本種は飛べないため、生息地が分断されることは大きな脅威です。また、農薬散布も影響していると考えられます。

参考文献 No. 4, 15, 80, 142

チョウセンマルクビゴミムシ (コウチュウ目 オサムシ科)

Nebria coreica

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県：絶滅危惧Ⅱ類

VU

VU

環境省：—

—



生息環境



●特徴：体長 8.5～10mm。体は暗褐色で脚は黄褐色です。後翅は退化していません。成虫は5月から出現しますが、幼虫期の生態などは不明です。

●生息環境：林縁などの湿った場所に生息します。長野県内では河川中流域の良好な草原がある河川敷で確認されています。

●国内の分布：本州（中部地方以北）に分布します。

●市内の分布：1990年代に三川合流周辺などの河川敷で初めて確認されました。生息個体数は少ないです。

●減少要因：河川開発や水質汚濁による生息地の悪化や減少が考えられます。特に生息地の乾燥化が影響していると考えられます。

参考文献 No. 19, 80

キベリマルクビゴミムシ (コウチュウ目 オサムシ科)

Nebria livida angulata

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県：絶滅危惧Ⅱ類

VU

VU

環境省：絶滅危惧ⅠB類

EN



生息環境



●特徴：体長 13～16mm。頭部は黒色で、前胸背、上翅側縁部、脚部は黄褐色です。背面、腹面ともに光沢があります。地表性で石の下などに生息します。成虫は肉食と考えられますが、幼虫期の生態などは不明です。

●生息環境：山麓部・平野部の大型河川中・下流域の河川敷で確認されています。

●国内の分布：北海道から九州に分布します。

●市内の分布：1990年代に三川合流周辺などの河川敷で初めて確認されました。生息個体数は少ないです。

●減少要因：河川開発や水質汚濁による生息地の悪化や減少が考えられます。特に生息地の乾燥化が影響していると考えられます。

参考文献 No. 80

シンシュウマルガタゴミムシ (コウチュウ目 オサムシ科)

Amara shinanensis

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県：絶滅危惧Ⅱ類

VU

VU

環境省：—

—



イラスト

生息環境



●特徴：体長約 11mm。体は黒色で光沢があります。複眼横の剛毛が 1 本でオオマルガタゴミムシに似ていますが、はるかに小型です。成虫は夏季に出現しますが、幼虫期の生態などは不明です。

●生息環境：河川中流域の河川敷に生息します。

●国内の分布：本州に分布します。

●市内の分布：1990 年代に三川合流周辺などの河川敷で初めて確認されました。生息個体数は少ないです。

●減少要因：河川開発や水質汚濁による生息地の悪化や減少が考えられます。特に生息地の乾燥化が影響していると考えられます。

参考文献 No. 6, 80

チビアオゴミムシ (コウチュウ目 オサムシ科)

Eochlaenius suvorovi

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県：—

—

VU

環境省：絶滅危惧ⅠB類

EN



イラスト

生息環境



●特徴：体長約 9mm。頭部、前胸背板、上翅は光沢のある深緑色で、前胸背板と上翅は金色の細毛に覆われます。脚は黄赤褐色です。

●生息環境：河川敷の草原や湿地に生息します。

●国内の分布：本州に分布します。

●市内の分布：2000 年代に明科東川手で確認されています。市内での生息地は限られ、個体数は減少していると考えられます。

●減少要因：土地造成などによる生息地の減少が考えられます。また、農薬散布も影響していると考えられます。

参考文献 No. 59

ヒメミズスマシ (コウチュウ目 ミズスマシ科)

Gyrinus gestroi

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

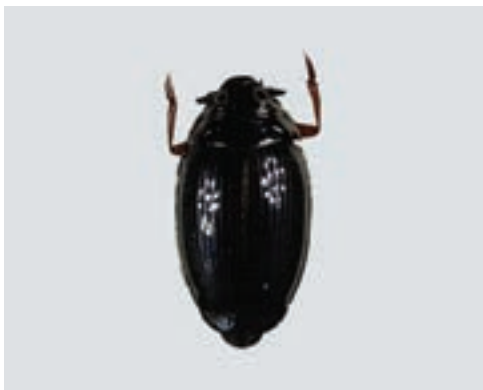
長野県：—

—

VU

環境省：絶滅危惧ⅠB類

EN



生息環境



●特徴：体長 4～5mm。体は長卵形で、背面は強く盛り上がります。体色は黒色で光沢があります。成虫は群れでみかけることが多く、水面を旋回しながら水に落ちた昆虫や小動物を捕食します。灯火にも飛来します。

●生息環境：水生植物の豊富な池沼や、流れのゆるやかな小河川などに生息します。

●国内の分布：本州から九州に分布します。

●市内の分布：1930 年代には市内各地で多数の個体が確認されましたが、現在ではほとんどみられません。個体数は非常に少ないと考えられます。

●減少要因：開発などによる溜池や水田・湿地の減少などによる生息地の減少、農薬や界面活性剤などによる水質の悪化が考えられます。

参考文献 No. 4, 61

ミズスマシ (コウチュウ目 ミズスマシ科)

Gyrinus japonicus



安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

VU

長野県：準絶滅危惧

NT

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

VU

●**特徴**：体長 6～7mm。体は黒青色の光沢があります。複眼は水面活動に適応して 2 分され、上方部は水面上に、下方は水面下に位置しています。成虫は水面を旋回して落下した昆虫などを捕食しますが、水面に浮いている死んだ魚なども好んで食べます。

●**生息環境**：池沼、水田、小河川などの流れのゆるやかな場所に生息します。

●**国内の分布**：北海道から九州に分布します。

●**市内の分布**：1930 年代に穂高で採集された標本があるほか、豊科や明科で確認されています。個体数は少ないと考えられます。

●**減少要因**：開発などによる溜池や水田・湿地の減少などによる生息地の減少、農薬や界面活性剤などによる水質の悪化が考えられます。

参考文献 No. 4, 51, 59, 61, 80

シジミガムシ (コウチュウ目 ガムシ科)

Laccobius bedeli



イラスト



安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

VU

長野県：—

—

環境省：絶滅危惧ⅠB類

EN

●**特徴**：体長約 3mm。上翅は褐色で多数の点刻列があります。かつては普通種とされていましたが、その多くはミユキシジミガムシやクナシリシジミガムシであり、確実な記録や生息地は非常に少ないことが判明しました。3 種は雄の交尾器による識別が確実です。

●**生息環境**：池沼など止水域に生息します。

●**国内の分布**：北海道から九州に分布します。

●**市内の分布**：犀川などの河川中流域で確認されています。

●**減少要因**：開発などによる溜池や水田・湿地の減少などによる生息地の減少、農薬や界面活性剤などによる水質の悪化が考えられます。

参考文献 No. 35, 44, 58, 61

ヤマトモンシデムシ (コウチュウ目 シデムシ科)

Nicrophorus japonicus



安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

VU

長野県：絶滅危惧Ⅱ類

VU

環境省：準絶滅危惧

NT

●**特徴**：体長 14～25mm。体は黒色で、触角先端の 3 節と上翅 2 対の帯紋は橙色です。成虫は夏季に出現します。腐肉に集まって土中に埋めて営巣します。成虫、幼虫ともに腐肉食で、幼虫は巣内で成虫に養育されます。

●**生息環境**：長野県内では山麓部・平野部の良好な二次林に生息しますが、河川敷でもみられます。

●**国内の分布**：本州から九州に分布します。

●**市内の分布**：1930 年代に穂高西穂高で採集された標本があり、1990 年代には三川合流周辺で確認されています。

●**減少要因**：山麓部・平野部の森林伐採や農薬散布による生息地の減少が考えられます。また、開発などにより餌となる動物の死体も減少した可能性があります。

参考文献 No. 142

コブナシコブスジコガネ (コウチュウ目 コブスジコガネ科)

Trox nohirai

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県： —

—

VU

環境省： —

—



生息環境



●特徴：体長 5～7mm。体は黒色で、背面に光沢があります。上翅の条溝内の点刻は強く、間室は強く膨隆します。以前は確認例の非常に少ない種でしたが、最近、フクロウの営巣後の樹洞内で、ペリットや動物死体などを食べていることが確認されました。

●生息環境：樹洞ができるような大木のある自然林や二次林に生息します。

●国内の分布：北海道から九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：1990年代に三川合流周辺の河畔林で確認されています。市内での生息地は限られ、個体数も少ないと考えられます。

●減少要因：本種が生息するフクロウの巣が、森林伐採などにより減少していると考えられます。

参考文献 No.

—

ミヤマダイコクコガネ (コウチュウ目 コガネムシ科)

Copris pecuarius

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県：準絶滅危惧

NT

VU

環境省： —

—



生息環境



●特徴：体長 17～24mm。体は黒色で、背面は半球状に強く膨隆します。雄は頭部に1本の角状突起と、前胸背に1対の丸い突起があります。成虫は初夏と秋季に出現し、シカやウシなどの糞に集まりますが、樹木のある日陰の糞に好んで集まる傾向があります。

●生息環境：山地帯の自然林や二次林を背景にした牧場や森林内で見られます。

●国内の分布：本州から九州に分布します。

●市内の分布：森林や放牧地に生息することから、1950年代までは穂高・三郷・堀金の山麓部に生息していたと考えられます。

●減少要因：農業の近代化で牛馬が使われなくなったことや家畜飼料に含まれる抗生物質による餌の減少や変化が考えられます。

参考文献 No.

4

ウエダエンマコガネ (コウチュウ目 コガネムシ科)

Onthophagus olsoufieffi

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

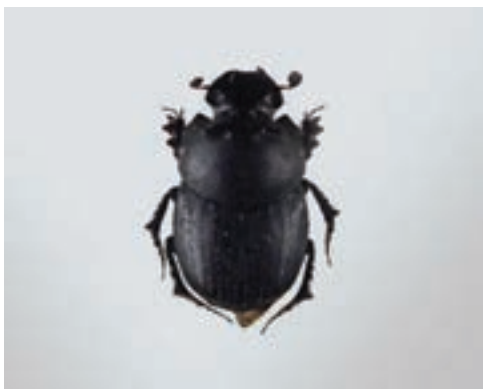
長野県：準絶滅危惧

NT

VU

環境省： —

—



生息環境



●特徴：体長 5～7mm。体は黒色で光沢が鈍く、背面は半球状に強く膨隆します。雄は頭部に先端が2又状になる角状突起があり、雌は先端が3歯状となる突起があります。成虫は早春と晩秋に出現し、イヌなどの糞や腐敗した動物質を食べます。

●生息環境：二次林に隣接する大型河川の河川敷の草原や、有機栽培などの農業による影響のない農地周辺の草原に生息します。

●国内の分布：本州に分布します。

●市内の分布：2000年代に堀金岩原の農地で確認されています。1930年代に松本市今井で採集された標本もあることから、安曇野を含む松本平に広く分布していたと考えられます。

●減少要因：草原が減少したことや農業散布による生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No.

—

マルエンマコガネ (コウチュウ目 コガネムシ科)

Onthophagus viduus

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県：—

—

VU

環境省：—

—



生息環境

●**特徴**：体長 5～9mm。体は長卵形で、背面は強く膨隆します。体色は黒色から黒褐色で、弱い緑銅色から紫銅色の光沢を帯び、上翅基部や翅端部に赤橙色の小紋があります。成虫は動物の糞に集まります。

●**生息環境**：山麓部・平野部の開けた場所や灌木の混じるような草原に生息します。

●**国内の分布**：北海道から九州、南西諸島、その他離島に分布します。

●**市内の分布**：かつては山麓部・平野部の草原や集落内で普通に確認されていました。

●**減少要因**：草原の開発、農業の近代化で牛馬が使われなくなったことや家畜飼料に含まれる抗生物質により、生息環境と餌の減少や変化が考えられます。

参考文献 No. 4

オオクロツヤマグソコガネ (コウチュウ目 コガネムシ科)

Aphodius japonicus

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県：絶滅危惧Ⅱ類

VU

VU

環境省：—

—



生息環境

●**特徴**：体長 9～10mm。体は黒色で光沢が強く、長卵形で背面はやや膨隆します。成虫は 7～8 月に出現し、高山帯の日当たりの良い砂礫地やお花畑などで人やカモシカなどの糞を食べていますが、幼虫期の生態は不明です。

●**生息環境**：亜高山帯から高山帯の日当たりの良い裸地や草原で見られます。

●**国内の分布**：本州（中部地方）に分布します。

●**市内の分布**：穂高・三郷・堀金の亜高山帯に分布し、2000 年代までは蝶ヶ岳への登山道沿いなどで確認されていました。生息地は限られており、個体数も多くありません。

●**減少要因**：山小屋のトイレの衛生が改善されたことなどによる餌の減少が影響していると考えられます。

参考文献 No. 6, 52, 80, 142

ヒメカンシヨコガネ (コウチュウ目 コガネムシ科)

Apogonia amida

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県：—

—

VU

環境省：—

—



生息環境

●**特徴**：体長 7～8mm。体は太短く丸みを帯びます。体色は黒色で銅紫色の光沢があります。新成虫は秋季に出現し、越冬して翌春に再び出現します。灯火に飛来しますが、群馬県では氷酢酸を用いたトラップで確認されています。

●**生息環境**：山麓部・平野部の河川敷の草原や、農地周辺の草原などでみられます。

●**国内の分布**：本州から九州、その他離島に分布します。

●**市内の分布**：1930 年代に豊科で採集された標本があります。

●**減少要因**：河川開発による岸辺の草原が減少したことや農薬散布などの生息地の減少が考えられます。

参考文献 No. 6, 19

オオチャイロハナムグリ (コウチュウ目 コガネムシ科)

Osmoderma opicum

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県：絶滅危惧Ⅰ類

CR+EN

VU

環境省：準絶滅危惧

NT



生息環境



●特徴：体長 26～36mm。体は暗赤褐色から黒褐色で、鈍い光沢があります。前胸背板の正中部に縦長の溝があり、その外側は雄で強く隆起し、雌は弱く隆起します。成虫は 7～9 月に出現し、大木の樹洞周辺で見られます。幼虫は樹洞内に堆積した朽木を食べます。

●生息環境：山地帯の面積の広い天然林で見られます。

●国内の分布：本州から九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：天然林に生息することから、穂高・三郷・堀金の山地帯から亜高山帯に生息していると考えられます。

●減少要因：森林伐採により幼虫が生息する樹洞のある大木が減少したことが考えられます。

参考文献 No.

4

トラハナムグリ (コウチュウ目 コガネムシ科)

Trichius japonicus

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県：絶滅危惧Ⅱ類

VU

VU

環境省：—

—



生息環境



●特徴：体長 12～16mm。体は黒色で、前胸背板、尾節板、腹面に灰白色から黄褐色の長毛が密生します。上翅は淡黄褐色で、側面に 3 対の黒紋があります。成虫は 5～8 月に出現し、シシウド、ノリウツギなどの花に集まります。幼虫は朽木で見つかっています。

●生息環境：山地帯の自然林や二次林内で見られます。

●国内の分布：北海道から九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：穂高・三郷・堀金の山地帯から亜高山帯に分布し、2000 年代に三郷北小倉で確認されています。個体数は少ないと考えられます。

●減少要因：森林伐採や植林による生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No.

52

シラホシハナムグリ (コウチュウ目 コガネムシ科)

Protaetia brevitarsis brevitarsis

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県：絶滅危惧Ⅰ類

CR+EN

VU

環境省：—

—



生息環境



●特徴：体長 20～25mm。体は光沢のある暗銅色から暗赤銅色で、白色小紋を散布します。成虫は昼行性で、クヌギなどの樹液に集まります。幼虫は朽木や腐葉土などを食べるとされていますが、飯綱高原などではフクロウの巣からも発見されています。

●生息環境：長野県内では山麓部・平野部の良好な二次林に生息します。

●国内の分布：北海道から九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：山麓部・平野部に分布し、1990 年代までは穂高有明の天蚕用のクヌギ林で確認されています。

●減少要因：猛禽類の巣と、樹液の出る二次林の両方がそろわないと生息できないため、森林伐採や農薬散布などの開発による生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No.

4, 80

ゲンジボタル (コウチュウ目 ホタル科)

Luciola cruciata



安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県：留意種

N

VU

環境省：—

—

●特徴：体長 15～18mm。体は黒色で、前胸背板の赤色斑に十字架状の黒色紋があります。成虫の出現は 6 月後半で、雄は腹部の第 6～7 節が発光しますが、雌は第 6 節だけが発光します。幼虫は水生で、カワニナ類を食べます。春に上陸して、土中で蛹化します。

●生息環境：比較的自然が保たれた河川敷で、周囲に樹木が生育する場所に生息します。

●国内の分布：本州から九州に分布します。

●市内の分布：山麓部・平野部の小河川や用水路で確認されています。

●減少要因：用水路のコンクリート化や農薬による水質汚染、それに伴う幼虫の餌であるカワニナの減少など、生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 4, 11, 15, 37, 38, 146

ダイヤモンドウ (コウチュウ目 テントウムシ科)

Coccinella hasegawai



安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県：絶滅危惧Ⅱ類

VU

VU

環境省：—

—

●特徴：体長 6～7mm。上翅に 5 つの黒紋があり、残った赤色部が逆の「大」字形に見えることが名前の由来です。ハイマツに寄生するアブラムシ類を捕食していると考えられていますが、詳細は不明です。

●生息環境：高山帯のハイマツ帯に生息します。

●国内の分布：本州中部の高山帯、その他離島に分布します。

●市内の分布：穂高・堀金の高山帯に分布し、稜線近くのハイマツ群落に生息しています。ハイマツ群落に発生するアブラムシ類を食べていると考えられます。

●減少要因：生息地は局地的で、個体数も少ないため、生息地の環境変化による生息状況への影響が大きいと考えられます。

参考文献 No. 80

ヤクハナノミ (ハナノミ目 ハナノミ科)

Yakuhananomia yakui



安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県：絶滅危惧Ⅱ類

VU

VU

環境省：—

—

●特徴：体長 8～10mm。背面は金色微毛を密生し、前胸背板は 3 つの黒紋が横に並びます。上翅や尾節板にも黒紋がありますが、光沢はありません。成虫は夏季にケヤキの老木で見られます。

●生息環境：山麓部・平野部の大木が残る良好な社寺林から、山地帯の天然林に生息します。

●国内の分布：北海道、本州に分布します。

●市内の分布：2010 年代に三郷の山麓部の黒沢川中流域で確認されています。大木のある森林に生息することから、生息地は限定されていると考えられます。

●減少要因：森林伐採による樹洞のある大木の減少、農薬散布などによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. —

クロオオハナノミ (コウチュウ目 オオハナノミ科)

Meteocus satanus

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県：絶滅危惧Ⅱ類

VU

VU

環境省：—

—



生息環境



●特徴：体長8～13mm。体色は雄が黒色で、雌は腹部が黄褐色から赤褐色です。成虫は夏季に出現し、下草などに静止する個体が見られます。他県では、朽ち木の割れ目への産卵が確認されています。幼虫はクロスズメバチの巣に運ばれ、ハチの幼虫に寄生します。

●生息環境：山地帯の溪流に隣接する天然林の林縁に生息します。

●国内の分布：北海道、本州、その他離島に分布します。

●市内の分布：寄主であるクロスズメバチ類に依存して生息するため、分布域は広いと考えられます。

●減少要因：生息地の悪化や減少、採集圧などにより、寄主であるクロスズメバチ類が減少していることが影響していると考えられます。

参考文献 No.

4

マメハンミヨウ (コウチュウ目 ツチハンミヨウ科)

Epicauta gorhami

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県：—

—

VU

環境省：—

—



生息環境



●特徴：体長12～18mm。体は光沢のない黒色で、頭部は頭楯と複眼周辺を除いて橙赤色です。寒冷地の個体は、上翅にある灰白色の縦条が不明瞭で消失するものもあります。成虫はマメ科植物や野菜などを食べます。幼虫はイナゴ類などの卵塊に寄生します。

●生息環境：山麓部・平野部から山地帯の草原や農地などに生息します。

●国内の分布：本州から九州に分布します。

●市内の分布：1930年代に豊科で採集された標本があります。また、2000年代に三郷の水田で集団が確認されていますが、継続的に確認されている場所はありません。

●減少要因：草原が減少したことや農薬散布による生息地の減少や悪化が考えられます。

参考文献 No.

4, 38, 66

マルクビツチハンミヨウ (コウチュウ目 ツチハンミヨウ科)

Meloe corvinus

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県：—

—

VU

環境省：—

—



生息環境



●特徴：体長7～27mm。体は黒藍色で、微弱な金属光沢があります。前胸背は横長で幅広いです。雄の触角の中間部はほとんど広がりません。幼虫はヒゲナガハナバチなどのハナバチ類の巣に寄生します。成虫は早春から初夏にかけて出現して雑草を食べます。

●生息環境：幼虫はハナバチ類に寄生することから、山地の草原に生息すると考えられます。

●国内の分布：北海道から九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：1930年代に中房川上流域で採集された標本がありません。

●減少要因：生息地の悪化や減少、農薬散布などにより、寄主であるハナバチ類が減少していることが影響していると考えられます。

参考文献 No.

4

オオツチハンミョウ (コウチュウ目 ツチハンミョウ科)

Meloe proscarabaeus

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県：情報不足

DD

VU

環境省：—

—



生息環境



●特徴：体長 11～30mm。体は黒藍色で微弱な金属光沢があり、強く密に点刻されます。前胸背は樽型です。オスの触角の中間部は少し広がります。幼虫はヒゲナガハナバチなどのハナバチ類の巣に寄生します。成虫は早春に出現します。

●生息環境：幼虫はハナバチ類に寄生することから、山麓部・平野部から山地帯の草原に生息すると考えられます。

●国内の分布：北海道、本州に分布します。

●市内の分布：1930年代に豊科で採集された標本があります。

●減少要因：生息地の悪化や減少、農薬散布などにより、寄主であるハナバチ類が減少していることが影響していると考えられます。

参考文献 No.

-

オトメクビアカハナカミキリ (コウチュウ目 カミキリムシ科)

Gaurotes otome

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県：絶滅危惧Ⅱ類

VU

VU

環境省：—

—



生息環境



●特徴：体長 8～10mm。頭部は黒色で、前胸は黒色や赤色などの個体変異があります。上翅は濃い緑色で金属光沢が強いです。6～8月に出現してハイマツの花に集まります。

●生息環境：亜高山帯から高山帯のハイマツ群落などに生息します。

●国内の分布：本州（中部地方）に分布します。

●市内の分布：穂高・三郷・堀金の亜高山帯から高山帯のハイマツ群落に生息し、1970年代に横通岳で確認されています。

●減少要因：生息地は局地的で、個体数も少ないため、生息地の環境変化による生息状況への影響が大きいと考えられます。

参考文献 No.

80, 141

シナノエゾハイロハナカミキリ (コウチュウ目 カミキリムシ科)

Rhagium heyrovskyi hayakawai

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県：絶滅危惧Ⅱ類

VU

VU

環境省：—

—



生息環境



●特徴：体長 13～17mm。上翅は黒色で淡赤褐色の斑紋がまだら状に混じります。体はややひらたく、触角は短いです。成虫は7月頃出現し、ツガ、トウヒなどの伐採木や立枯木に集まります。

●生息環境：亜高山帯のトウヒを中心とした常緑針葉樹林帯に生息します。

●国内の分布：本州中部に分布します。

●市内の分布：穂高・堀金の亜高山帯に生息し、1980年代に常念岳で確認されています。

●減少要因：森林伐採や植林による生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No.

80, 141

チャイロヒメコブハナカミキリ (コウチュウ目 カミキリムシ科)

Pseudosieversia japonica



生息環境



安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

VU

長野県：準絶滅危惧

NT

環境省：—

—

●特徴：体長 11～15mm。体は茶褐色で、腿節の中央から先端部はやや濃褐色です。成虫は7月頃に出現し、カツラの大木の寝際の樹幹やひこばえの葉上などにみられます。ノリウツギなどの花にも訪れます。幼虫期の詳しい生態は不明です。

●生息環境：山地帯から亜高山帯のカツラの大木が生育する天然林に生息します。

●国内の分布：本州に分布します。

●市内の分布：穂高・三郷・堀金の山地帯から亜高山帯に分布し、1980年代に燕岳から大天井岳周辺で確認されています。

●減少要因：森林伐採や植林による生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 4, 6, 138

ヨツボシカミキリ (コウチュウ目 カミキリムシ科)

Stenygrinum quadrinotatum



生息環境



安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

VU

長野県：絶滅危惧Ⅱ類

VU

環境省：絶滅危惧ⅠB類

EN

●特徴：体長 8～14mm。体は暗赤色で、上翅には黄白色の円紋が2対あり、その周辺は濃い褐色部分が広がります。成虫は6～8月に出現し、クリなどの花に集まります。灯火にも飛来します。幼虫はブナ科のクリ、クヌギ、コナラなどの枯枝を食べます。

●生息環境：山麓部・平野部から山地帯の二次林に生息します。

●国内の分布：北海道から九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：明科で確認されています。かつては市街地にも生息し、電灯に飛来する個体も確認されています。

●減少要因：森林伐採や開発により山麓部・平野部の二次林が減少したことによる生息地の減少や農薬散布による悪化が考えられますが、詳しいことはわかっていません。

参考文献 No. 4, 6, 19, 38, 80

スジグロオオハムシ (コウチュウ目 ハムシ科)

Galeruca spectabilis



生息環境



安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

VU

長野県：—

—

環境省：—

—

●特徴：体長約 9mm。体は暗褐色または黒褐色で、体腹面、触角、脚は黒色です。体背面は強い点刻を密布します。前胸背板の中央部に1対のくぼみを有し、側縁前方部に側縁に沿って顕著な溝があります。上翅は4対の隆起条を装います。生態の詳細は不明です。

●生息環境：山麓部・平野部の草原や耕作地、河川敷などに生息すると考えられますが、詳しいことはわかっていません。

●国内の分布：本州に分布します。

●市内の分布：2000年代に堀金岩原の農地で確認されたのみです。

●減少要因：草原が減少したことや農薬散布による生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. —

ウマノオバチ (ハチ目 コマユバチ科)

Euurobracon yokahamae



生息環境



安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

VU

長野県： —

環境省：準絶滅危惧

NT

●特徴：体長 15～24mm。体は黄褐色で、腹部は暗褐色を帯びることもあります。翅は黄褐色で外縁が広く暗褐色を帯びます。雌の産卵管はきわめて長く、体長の 7～9 倍に達します。シロスジカミキリの幼虫に寄生します。

●生息環境：山麓部・平野部の二次林に生息します。

●国内の分布：本州から九州に分布します。

●市内の分布：1930 年代に穂高西穂高で採集された標本があります。おそらく天蚕用のクヌギ林に生息していると考えられますが、元々個体数は多くありません。

●減少要因：森林伐採などにより、寄生するシロスジカミキリなどの大型カミキリムシが減少したことや農薬散布が影響していると考えられます。

参考文献 No.

—

トゲアリ (ハチ目 アリ科)

Polyrhachis lamellidens



生息環境



安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

VU

長野県： —

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

VU

●特徴：体長 7～8mm。頭部、脚、腹部は黒色で、胸部と腹柄節は赤褐色です。前胸、中胸、前伸腹節、腹柄節に刺状突起があり、腹柄節は大きく釣針状です。クロオオアリやムネアカオオアリなどの巣に一時的社会寄生し、立木の根際の樹洞などに営巣します。

●生息環境：天然林や二次林に生息します。

●国内の分布：本州から九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：2000 年代まで烏川の上流域や明科光で確認されています。近年は個体数が激減しています。

●減少要因：森林伐採や農薬散布による生息地の悪化や減少が考えられます。一時的に寄生するクロオオアリやムネアカオオアリは減少していないことから、詳しいことはわかっていません。

参考文献 No.

36, 59

ヤドリホオナガスズメバチ (ハチ目 スズメバチ科)

Dolichovespula adulterina montivaga



生息環境



安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

VU

長野県： —

環境省：情報不足

DD

●特徴：体長 14～18mm。体は全体的に黒色で、斑紋は象牙色または黄色です。全体に長毛が発達しています。頭楯板の黒帯は点状または棒状で、中央部下より下縁部に限定されます。シロオビホオナガスズメバチの巣に寄生する社会寄生性で、働きバチはいません。

●生息環境：山地帯から亜高山帯の天然林や二次林などに生息します。

●国内の分布：北海道、本州に分布します。

●市内の分布：1990 年代に三郷の山地帯で確認されています。労働寄生で働き蜂を欠くため、個体数は極めて少ないです。

●減少要因：森林伐採や農薬散布などにより、寄生するシロオビホオナガスズメバチが減少したことが影響していると考えられます。

参考文献 No.

52

ヤマトアシナガバチ (ハチ目 スズメバチ科)

Polistes japonicus japonicus

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県：—

—

VU

環境省：情報不足

DD



生息環境



●特徴：体長 15～18mm。体は黒色で、赤褐色から黄色の斑紋があります。前伸腹節の黄色の2縦線は、太く鋏形状に発達します。女王バチは5～6月頃に営巣を開始し、雄バチと新女王バチは8～9月に出現します。草本の葉裏や樹木の細枝などに営巣します。

●生息環境：山地帯の溪流に隣接する湿潤な天然林の林縁などに生息します。

●国内の分布：本州から九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：1930年代に穂高有明宮城で採集された標本があります。平野部に生息すると考えられます。

●減少要因：森林伐採や農薬散布などによる生息地の悪化や減少が考えられますが、詳しいことはわかっていません。

参考文献 No.

—

モンズズメバチ (ハチ目 スズメバチ科)

Vespa crabro flavofasciata

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県：情報不足

DD

VU

環境省：情報不足

DD



生息環境



●特徴：体長 19～28mm。頭部は橙色で単眼付近に黒斑があります。胸部から腹部は黒色で、赤褐色から黄色の斑紋があります。腹部の黄色帯が波形になることで、他種と識別されます。幼虫の餌としてセミ類を好んで狩ります。樹洞や天井裏などに営巣します。

●生息環境：山麓・平野部から山地帯の天然林や二次林に生息します。

●国内の分布：北海道から九州に分布します。

●市内の分布：山麓部・平野部に分布します。1930年代には豊科田沢、穂高有明、堀金烏川などで普通にみられました。

●減少要因：森林伐採などにより、主な餌であるセミ類が減少したことや農薬散布が影響していると考えられます。

参考文献 No.

63

ネグロクサアブ (ハエ目 クサアブ科)

Coenomyia basalis

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県：—

—

VU

環境省：情報不足

DD



生息環境



●特徴：体長 14～23mm。雌雄で大きさと色彩が異なり、雄は黒褐色で、腹部に1対の黄色紋があります。雌は赤褐色で、腹部の基部は黒褐色です。生態の詳細は不明ですが、大分県では天然林内の朽木で生息が確認されています。成虫は5～7月に確認されています。

●生息環境：山麓部から山地帯の天然林や二次林に生息すると考えられます。

●国内の分布：北海道から九州に分布します。

●市内の分布：2000年代に堀金岩原の農地で確認されています。近年は確認されていません。

●減少要因：森林伐採や農薬散布による生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No.

63

タカネキマダラセセリ (チョウ目 セセリチョウ科)

Carterocephalus palaemon satakei

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県：準絶滅危惧

NT

VU

環境省：準絶滅危惧

NT



生息環境



●特徴：開長 26～31mm。翅の表は茶褐色で黄橙色の斑紋があります。一世代にあしかけ3年を要します。2年目の冬は終齢幼虫で越し、そのまま摂食せずに蛹化します。幼虫はイワノガリヤスを食べます。【長野県指定天然記念物・長野県指定希少野生動物種】

●生息環境：亜高山帯の日当たりの良い林縁などに生息します。

●国内の分布：本州中部山岳地帯（北アルプス、南アルプス）に分布します。

●市内の分布：河川上流域沿いのイワノガリヤスが生育するガレ場などに生息し、烏川上流域の一の沢などで確認されています。

●減少要因：生息地は局地的で、個体数も少ないため、生息地の環境変化による生息状況への影響が大きいと考えられます。

参考文献 No. 4, 15, 33, 144

アカセセリ (チョウ目 セセリチョウ科)

Hesperia florinda

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県：準絶滅危惧

NT

VU

環境省：絶滅危惧ⅠB類

EN



生息環境



●特徴：開長 30～34mm。雄の翅の表は赤橙色で、前翅に黒色性標があり一条の銀灰色線をあらわします。雌は暗褐色で橙黄斑があります。幼虫はヒカゲスゲを食べます。年1回の発生で、7～8月に出現します。草原の上を敏速に飛翔して各種の花を訪れます。

●生息環境：山地帯の乾燥した草原に生息します。

●国内の分布：本州（中部地方）に分布します。

●市内の分布：かつては三郷黒沢や三郷スカイラインで確認されていました。近年は豊科・明科の一部で確認されているのみです。

●減少要因：食草のヒカゲスゲがある草原が減少したことによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 12, 19, 33, 52, 59

キマダラセセリ (チョウ目 セセリチョウ科)

Potanthus flavus flavus

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県：準絶滅危惧

NT

VU

環境省：—

—



生息環境



●特徴：開長 25～32mm。翅の表面の地色は黒色で、黄色の斑紋があります。雌の翅形は幅広く、雄との識別は比較的容易です。暖地では年2回発生しますが、寒冷な地域では年1回の発生で7～8月に出現します。幼虫はイネ科のススキなどを食べます。

●生息環境：山麓部・平野部の明るい草原などに生息しますが、立木を混じえたような草原に多くみられます。

●国内の分布：北海道から九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：2000年代に明科東川手で確認されています。生息地は局地的で、個体数は少ないと考えられます。

●減少要因：山麓部・平野部の二次林が管理されなくなり、林縁にススキが生育しなくなったことなどによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 4, 12, 18, 19, 33, 36, 52, 59

ヘリグロチャバナセセリ (チョウ目 セセリチョウ科)

Thymelicus sylvaticus



生息環境



安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

VU

長野県：—

—

環境省：—

—

●特徴：開長 26～32mm で前翅表外縁の黒帯が不鮮明です。年 1 回の発生で、7～8 月に出現します。幼虫はイネ科のカモジグサやヤマカモジグサなどを食べます。

●生息環境：森林と草原が入り混じった環境に生息しますが、明るい草原にもみられます。

●国内の分布：北海道から九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：穂高・三郷・堀金の山麓部や、豊科・明科の山麓部から山地帯に生息しています。個体数は少ないと考えられます。

●減少要因：カモジグサなどの食草がある草原が減少したことによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No.

4, 18, 19, 33, 36, 52, 59

クモツマキチョウ (チョウ目 シロチョウ科)

Anthocharis cardamines



生息環境



安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

VU

長野県：準絶滅危惧

NT

環境省：準絶滅危惧

NT

●特徴：開長 35～40mm。翅表は白色で、雄の前翅前半は橙色ですが、雌は橙色部がありません。年 1 回の発生で 5～6 月に出現しますが、標高 2,000m 以上では 7 月以降もみられます。幼虫はミヤマハタザオなどのアブラナ科植物の実や茎を食べます。【長野県指定天然記念物】

●生息環境：山地帯から亜高山帯の溪流の河川敷などに生息します。

●国内の分布：本州（中部地方）に分布します。

●市内の分布：中房川や烏川の上流域で確認されています。生息地は局地的です。

●減少要因：砂防ダムなどの建設により河床が安定したため、食草のミヤマハタザオなどが生育できなくなったことが影響していると考えられます。

参考文献 No.

4, 11, 12, 15, 18, 21, 33, 69

ウラジロミドリシジミ (チョウ目 シジミチョウ科)

Favonius saphirinus



生息環境



安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

VU

長野県：準絶滅危惧

NT

環境省：—

—

●特徴：開長 30～35mm。雄の翅表は金属光沢のある青色で、雌は暗褐色です。翅の裏面は銀白色から灰白色で暗色条があります。年 1 回の発生で、7～8 月に出現します。幼虫はカシワを食べます。ハヤシミドリシジミと混生しますが、本種の方がより局地的です。

●生息環境：カシワの生育する二次林に生息します。

●国内の分布：北海道から九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：豊科・明科の山地帯のカシワの生育する二次林に生息しています。個体数は少ないと考えられます。

●減少要因：カシワの生育する二次林が管理されなくなったことによる生息地の悪化が考えられます。

参考文献 No.

6, 11, 12, 19, 33, 59

オオゴマシジミ (チョウ目 シジミチョウ科)

Maculinea arionides takamukui

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県：準絶滅危惧

NT

VU

環境省：準絶滅危惧

NT



生息環境



●特徴：開長 33～46mm。翅表は雄が紫藍色で、雌は青藍色です。年1回の発生で、7～8 月に出現します。若齢幼虫はシジミ科のカメバヒキオコシなどの蕾や花穂を食べますが、4 齢幼虫はシワクシケアリの巢中に運び込まれて、アリの幼虫を食べて成長します。

●生息環境：山地帯から亜高山帯の溪流沿いや森林の間にある草原などに生息します。

●国内の分布：北海道から本州（中部地方以北）に分布します。

●市内の分布：烏川上流域沿いのカメバヒキオコシなどの食草がある場所に生息しています。個体数は少ないと考えられます。

●減少要因：生息地は局地的で、個体数も少ないため、生息地の環境変化による生息状況への影響が大きいと考えられます。

参考文献 No. 4, 11, 12, 33

ヒョウモンチョウ (チョウ目 タテハチョウ科)

Brenthis daphne rabdia

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県：留意種

N

VU

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

VU



生息環境



●特徴：開長 45～55mm。雄の翅表は明るい橙黄色ですが、雌は汚黄色で黒斑が発達します。コヒョウモンに酷似しますが、前翅外縁が直線状で、後縁角がより直角などの特徴で識別されます。年1回の発生で、6～8 月に出現します。幼虫はワレモコウ類を食べます。

●生息環境：山麓部から山地帯の乾燥した草原に生息します。

●国内の分布：北海道から本州（中部以北）に分布します。

●市内の分布：光城山や長峰山とその周辺で確認されています。2008 年以降、個体数が激減しています。

●減少要因：草刈りなどによる食草の減少が影響していると考えられます。

参考文献 No. 4, 33, 59

オオイチモンジ (チョウ目 タテハチョウ科)

Limenitis populi jezoensis

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県：準絶滅危惧

NT

VU

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

VU



生息環境



●特徴：開長 70～85mm。翅表は黒褐色に白斑・白帯があり、外縁には赤斑と青色の構造色を持つ光沢がみられます。雌は前翅の白斑と後翅の白帯が発達します。年1回の発生で、6～8 月に出現します。【長野県指定天然記念物・長野県指定希少野生動物種】

●生息環境：亜高山帯を中心に生息し、食樹のドロノキが生育する溪流沿いや、ヤマナラシが生育する山腹の林道沿いなどでみられます。

●国内の分布：北海道、本州に分布します。

●市内の分布：中房川上流域や烏川流域の一の沢周辺で確認されています。1960 年代には烏川流域の須砂渡付近でも確認されていました。

●減少要因：砂防ダムなどの建設により河床が安定したことによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 4, 6, 11, 12, 15, 18, 21, 33, 52, 69, 143

フタスジチョウ (チョウ目 タテハチョウ科)

Neptis rivularis insularum

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県： —

—

VU

環境省： —

—



生息環境



●**特徴**：開長 40～50mm。翅表は黒褐色に 2 条の白帯があり、和名はミスジチョウより白帯が 1 条少ないことに由来しています。雌は翅形が幅広く、白斑・白帯が発達します。年 1 回の発生で、6～8 月に出現します。幼虫はホザキシモツケやユキヤナギなどを食べます。

●**生息環境**：山麓部・平野部から山地帯のやや開けた草原や、林縁などに生息します。民家の庭先のユキヤナギで発生することもあります。

●**国内の分布**：本州に分布します。

●**市内の分布**：1930 年代に豊科で採集された標本があります。

●**減少要因**：森林伐採により、林縁に生えるホザキシモツケやユキヤナギなどの食樹が減少したことによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No.

—

キマダラモドキ (チョウ目 ジャノメチョウ科)

Kirinia epaminondas

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県：準絶滅危惧

NT

VU

環境省：準絶滅危惧

NT



生息環境



●**特徴**：開長 50～60mm。翅表は黄褐色で、雄は黄斑の発達が弱く斑紋が不明瞭ですが、雌は黄斑が強く発達します。雌の翅の裏面地色には白色と黄色の 2 型があります。年 1 回の発生で、6～8 月に出現します。幼虫はススキやカモジグサなどを食べます。

●**生息環境**：山麓部から山地帯の二次林の林縁などに生息します。

●**国内の分布**：北海道から九州に分布します。

●**市内の分布**：1960～1970 年代には穂高・三郷で確認されています。現在、生息地は局地的です。

●**減少要因**：開発などにより、食草のカモジグサやカササゲなどがある湿地が減少したことによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No.

4, 12, 19, 33, 52, 59

ツマジロウラジャノメ (チョウ目 ジャノメチョウ科)

Lasiommata deidamia interrupta

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県： —

—

VU

環境省： —

—



生息環境



●**特徴**：開長 50～55mm。第 1 化の個体は第 2 化より大型で、翅表の白斑が強くあらわれます。雌は翅表の白斑が鮮明にあらわれますが、雄は不明瞭です。山麓部では通常年 2 回の発生ですが、亜高山帯では 1 回の発生となります。幼虫はヒメノガリヤスなどを食べます。

●**生息環境**：山地帯から亜高山帯の岩肌が露出した崖や、稜線の岩場などに生息します。

●**国内の分布**：北海道から四国に分布します。

●**市内の分布**：穂高・三郷・堀金の山地帯から亜高山帯に分布し、主に河川上流域沿いの垂直に切り立つ岩場に生息しています。

●**減少要因**：法面工事などにより、食草がある岩場がコンクリートで固められたことなどによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No.

4, 12, 15, 18, 19, 21, 33, 52, 143

オオヒカゲ (チョウ目 ジャノメチョウ科)

Ninguta schrenckii



生息環境



安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

VU

長野県：絶滅危惧Ⅱ類

VU

環境省：—

—

●特徴：開長 60～75mm。翅表は淡褐色で後翅に黒円斑があり、後翅裏面には眼状紋があります。雌は地色が淡色で翅形がやや広く、後翅表の黒円斑列は大きく目立ちます。年 1 回の発生で、6～8 月に出現します。幼虫はオオカサスゲやテキリスゲなどを食べます。

●生息環境：溪流沿いや二次林の林縁などの湿性環境に生息し、森林化した放棄水田や日陰の湿地などにもみられます。

●国内の分布：北海道、本州に分布します。

●市内の分布：山麓部の二次林や食草のオオカサスゲが生育している湿地に生息しています。近年は穂高・三郷・堀金ではほとんど確認されなくなりました。

●減少要因：開発により、食草のオオカサスゲなどがある湿地が減少したことによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No.

12, 15, 19, 33, 36, 52, 63

フタスジギンエダシャク (チョウ目 シャクガ科)

Megaspilates mundataria



生息環境



安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

VU

長野県：—

—

環境省：—

—

●特徴：開長 34～37mm。前後翅とも純白で、前翅に 2 本の黒褐色の斜帯があります。後翅の外横線が不明瞭な個体があります。昼飛性のシャクガで、成虫は 5～6 月にみられます。

●生息環境：人為的な草刈りが継続されている草原に生息します。

●国内の分布：本州から九州に分布します。

●市内の分布：豊科・明科の山地帯の草原や河川中流域の河川敷で確認されています。

●減少要因：生息地は局地的で、個体数も少ないため、生息地の環境変化による生息状況への影響が大きいと考えられます。

参考文献 No.

—

ヒメスズメ (チョウ目 スズメガ科)

Deilephila askoldensis



生息環境



安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

VU

長野県：—

—

環境省：準絶滅危惧

NT

●特徴：開長約 50mm。前後翅の外縁は弱い鋸歯状で、肩板と胸部は赤褐色になります。幼虫はカワラマツバなどを食べます。年 1 回の発生で、6～9 月に出現します。

●生息環境：生息地は局地的で、火山性草原や河川敷などに生息します。

●国内の分布：北海道から九州に分布します。

●市内の分布：山地帯の食草のカワラマツバが生育しているごく限られた草原に生息しています。

●減少要因：食草のカワラマツバがある草原が減少したことによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No.

4, 59

オビカゲロウ (カゲロウ目 ヒラタカゲロウ科)

Bleptus fasciatus



生息環境



安曇野市：準絶滅危惧

長野県：情報不足

DD

NT

環境省：—

—

●特徴：体長 12～18mm。体は黄褐色で、前翅に黒色の帯状紋があります。幼虫は腹部背面・正中線上の突起構造と、第1腹鰓における糸状構造の発達が特徴的です。成虫は晩春から初夏に出現し、植物の葉上や葉下に静止していることが多いです。

●生息環境：河川源流域に生息します。幼虫は細流や小滝周辺の飛沫帯に生息します。

●国内の分布：本州から九州に分布します。

●市内の分布：中房川、烏川、黒沢川などの源流域に分布し、烏川左岸の延命水には多く生息しています。特殊な環境に適応しているため、分布域は局地的・散在的です。

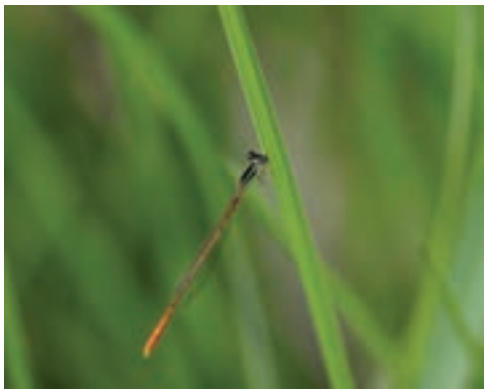
●減少要因：河川沿いの林道の法面のコンクリート化などによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No.

4, 36, 52

モートンイトトンボ (トンボ目 イトトンボ科)

Mortonagrion selenion



生息環境



■ 湿地
■ 農作地



■ 湖沼
■ 湧水地

安曇野市：準絶滅危惧

長野県：—

—

NT

環境省：準絶滅危惧

NT

●特徴：体長 22～32mm。雄は頭部から胸部が緑色で、腹部は緑色から尾部にいくほど橙色になります。雌は成熟過程で橙黄色から緑色へと大きく変化します。成虫は5～10月に出現します。雌は単独で水面付近の植物組織内に産卵します。

●生息環境：山麓部・平野部の水深の浅い湿地や休耕田などに生息しますが、泥深い環境を好みます。

●国内の分布：北海道から九州に分布します。

●市内の分布：山麓・平野部から山地帯の水田や溜池などに生息しています。

●減少要因：開発などによる湿地や休耕田などの減少、農薬散布による生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No.

6, 19, 52, 59, 66

ミヤマカワトンボ (トンボ目 カワトンボ科)

Calopteryx cornelia



生息環境



■ 草原



■ 河川

安曇野市：準絶滅危惧

長野県：準絶滅危惧

NT

NT

環境省：—

—

●特徴：体長 63～80mm。頭部、胸部は銅色で、腹部は雄が金緑色、雌が淡黄褐色です。翅は赤褐色で、後翅に濃褐色斑があります。成虫は5～9月に出現します。雌は単独で浅い水中の植物組織内に産卵しますが、水面上に適した植物が少ないと潜水産卵します。

●生息環境：山麓部・平野部から山地帯の溪流で、ツルヨシなどが繁茂している場所に生息します。幼虫は水草などにつかまって生活します。

●国内の分布：北海道から九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：黒沢川や濁沢の河川上流域などで確認されています。

●減少要因：河川の護岸化による岸辺のツルヨシ群落の減少や、農薬などによる生息地の減少、水質悪化が考えられます。

参考文献 No.

—

アオハダトンボ (トンボ目 カワトンボ科)

Calopteryx japonica



生息環境



安曇野市：準絶滅危惧

長野県：絶滅危惧Ⅱ類

VU

NT

環境省：準絶滅危惧

NT

●特徴：体長 55～63mm。雄の翅は多層膜干渉による構造色をもち、成熟すると青藍色に輝きます。雌には偽装紋と呼ばれる白い斑紋があらわれます。成虫は 5～7 月に出現します。雌は単独で浅い水中の植物組織内に産卵しますが、集団産卵や潜水産卵もおこないます。

●生息環境：山麓部・平野部の抽水植物や沈水植物が豊富な砂底の河川や用水路などに生息します。幼虫は水草などにつかまって生活します。

●国内の分布：本州から九州に分布します。

●市内の分布：豊科・明科の犀川中流域やその支流などで確認されています。

●減少要因：河川の護岸化による岸辺のツルヨシ群落の減少や農薬などによる生息地の減少、水質悪化が考えられます。

参考文献 No.

58, 59, 61, 146

ムカシトンボ (トンボ目 ムカシトンボ科)

Epiophlebia superstes



生息環境



安曇野市：準絶滅危惧

長野県：—

—

NT

環境省：—

—

●特徴：体長 45～56mm。体は黒地に黄色の斑紋があり、複眼は銀白色です。前翅と後翅の形がほぼ同じです。成虫は 5～6 月に出現し、樹林に囲まれた源流域を飛翔します。雌は単独で源流域の岸辺のフキ、ウワバミソウ、ワサビなどの茎や苔類の組織内に産卵します。

●生息環境：樹林に囲まれた山麓部から山地帯の河川上流域から源流域に生息します。幼虫は砂礫や岩石などに付着して生活します。

●国内の分布：北海道から九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：中房川、烏川、黒沢川の上流域で確認されています。

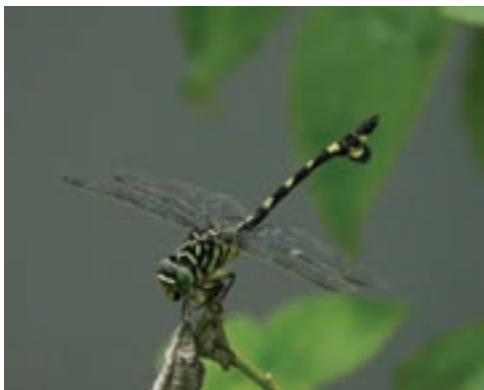
●減少要因：元々生息地が局地的であるうえ、河川開発などにより、生息地が悪化もしくは減少したと考えられます。

参考文献 No.

4, 7, 15, 23, 36, 52

ウチワヤンマ (トンボ目 サナエトンボ科)

Sinictinogomphus clavatus



生息環境



安曇野市：準絶滅危惧

長野県：準絶滅危惧

NT

NT

環境省：—

—

●特徴：体長 70～87mm。胸部と腹部前半が鮮やかな黄緑色です。雌雄ともに腹部第 8 節の側縁がウチワ状に広がります。成虫は 6～8 月に出現します。雌は単独でホバリングしながら、打水産卵します。卵は粘着性のある糸で連なり、水草に付着します。

●生息環境：山麓部・平野部の水面が開けた池沼に生息します。幼虫は水底の水草の間で見られます。

●国内の分布：本州から九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：明科の溜池などで確認されています。

●減少要因：開発などによる溜池や水田・湿地などの生息地の減少や、農薬などによる水質の悪化が考えられます。

参考文献 No.

59

サラサヤンマ (トンボ目 ヤンマ科)

Sarasaeschna pryeri



安曇野市：準絶滅危惧	長野県：絶滅危惧Ⅰ類	CR+EN
NT	環境省：—	—

●特徴：体長 57～68mm。体は黒地に黄色から緑色の斑紋があります。雌は翅の基部や、結節から翅端にかけて橙色斑が発達します。成虫は5～7月に出現します。雌は単独で湿地を訪れ、ホバリングを交えて地表近くを飛翔し、朽木などに静止して産卵します。

●生息環境：山麓部・平野部の森林に囲まれた湿地などに生息します。幼虫は湿地の中の水ゴケや枯草の下などで確認されています。

●国内の分布：北海道、本州、その他離島に分布します。

●市内の分布：堀金の山麓部の湿地で確認されています。

●減少要因：土地造成などによる湿地の減少などによる生息地の悪化や、減少が考えられます。

参考文献 No. —

ミルンヤンマ (トンボ目 ヤンマ科)

Planaeschna milnei



安曇野市：準絶滅危惧	長野県：準絶滅危惧	NT
NT	環境省：—	—

●特徴：体長 61～80mm。体は黒地に黄色の斑紋があります。成虫は6～10月に出現します。黄昏活動性が強く、夏季は朝夕に活動し、溪流沿いを飛翔します。雌は日中に溪流を訪れ、単独で流畔の朽木や倒木などに静止して、その組織内に産卵します。

●生息環境：山麓部から山地帯の森林に囲まれた流れのゆるやかな溪流に生息します。幼虫は砂泥質の川底などでみられます。

●国内の分布：北海道から九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：豊科・明科の河川上流域などで確認されています。

●減少要因：元々生息地が局地的であるうえ、河川開発によりさらに生息地が悪化や減少したことが考えられます。

参考文献 No. 19, 36, 59

ミネトワダカワゲラ (カワゲラ目 トワダカワゲラ科)

Scopura montana



安曇野市：準絶滅危惧	長野県：留意種	N
NT	環境省：—	—

●特徴：体長 13～35mm。体は暗褐色で、円筒形です。成虫は翅がなく、幼虫には水生生活をするための環状鰓が腹部末端にあります。成虫は晩夏から秋にかけて出現します。

●生息環境：河川源流域の細流の石の下や落葉の間などに生息します。

●国内の分布：本州に分布します。

●市内の分布：中房川、烏川、黒沢川などの源流域に生息し、やや傾斜のある細流で確認されています。特殊な環境に適応しているため、分布は局地的・散在的です。

●減少要因：河川沿いの林道の法面のコンクリート化などによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 36, 52

ノギカワゲラ (カワゲラ目 ヒロムネカワゲラ科)

Cryptoperla japonica

安曇野市：準絶滅危惧	長野県：準絶滅危惧	NT
NT	環境省：—	—



生息環境



●特徴：体長約 10mm。体は黄褐色で、頭部に方形の黒褐色紋があり、脚は黄色で、翅は透明です。成虫は6～7月に羽化します。

●生息環境：山地帯の溪流に生息しますが、ミヤマノギカワゲラよりやや下流に生息します。幼虫は山地の小流の石下などに生息しますが、飛沫のかかる岩の上にも多くみられます。

●国内の分布：本州から九州に分布します。

●市内の分布：烏川、黒沢川などの源流域に生息しています。細流の飛沫帯や水面上にまで露出する大礫の水際などで確認されています。

●減少要因：砂防ダム建設による生息地の悪化や減少が考えられます。一方、砂防ダムなどの人工構造物により造られた飛沫帯を利用することも知られています。

参考文献 No. 15, 52

ミヤマノギカワゲラ (カワゲラ目 ヒロムネカワゲラ科)

Yoraperla japonica

安曇野市：準絶滅危惧	長野県：—	—
NT	環境省：—	—



生息環境



●特徴：体長 10～12mm。体は黒褐色で、頭部、脚、翅脈などは褐色です。翅は褐色を帯びて不透明です。尾は前胸の幅より短く、黄色くて厚いです。

●生息環境：山地帯から亜高山帯の源流域に生息しますが、ノギカワゲラより上流に生息します。幼虫は源流域の飛沫帯の石裏や湿岩上などの水が飛び散るような場所に生息します。

●国内の分布：本州に分布します。

●市内の分布：烏川、黒沢川などの源流域に生息しています。細流の飛沫帯や水が滴り落ちる湿岩などで確認されています。特殊な環境に適応しているため、分布は局地的・散在的になりがちです。

●減少要因：源流域沿いにある林道法面がコンクリート化されたことによる、生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 36, 52, 69

ウスバカマキリ (カマキリ目 カマキリ科)

Mantis religiosa

安曇野市：準絶滅危惧	長野県：—	—
NT	環境省：情報不足	DD



生息環境



●特徴：体長 47～65mm。体色は淡緑色ですが、淡褐色の個体もみられます。後翅は無紋で、前脚基節の内側に黒色の楕円形の斑紋があります。卵鞘はやや長めの枕型で、壁や石の下などに産みつけられます。成虫は夏から秋に出現します。

●生息環境：河川敷などの明るく開けた草原に生息します。

●国内の分布：北海道から九州に分布します。

●市内の分布：1930年代に穂高有明で採集された標本があり、2000年代にも堀金や明科の犀川沿いで確認されています。

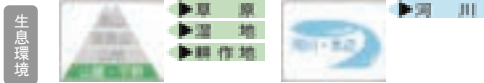
●減少要因：草原が減少したことや農薬散布による生息地の悪化や減少が考えられます。近年は、ハラビロカマキリとの競合で個体数が減少している可能性があります。

参考文献 No. 4, 59

クマコオロギ (バッタ目 コオロギ科)

Mitius minor

安曇野市：準絶滅危惧	長野県： —	—
NT	環境省： —	—



●特徴：体長 11～12mm。体は黒色で、脚は赤褐色です。顔の一部には平たいところがあります。成虫は8月頃に出現し、昼間からよく鳴きます。

●生息環境：水田付近などのやや湿った地表に生息します。

●国内の分布：本州から九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：1990年代に堀金の烏川上流域で確認されています。

●減少要因：湿った草原が減少したことや農薬散布による生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 40, 45

スズムシ (バッタ目 マツムシ科)

Meloimorpha japonicus

安曇野市：準絶滅危惧	長野県： —	—
NT	環境省： —	—



●特徴：体長約 17mm。体は黒色で、触角の基部や腿節の付け根などに白色部があります。雄の前翅は発音器が発達して翅幅が広がっています。成虫は8～10月に出現し、おもに夜間に鳴きます。野外では深い草むらに穴を掘って生息しています。

●生息環境：河川敷や森林の間の草原などに生息します。

●国内の分布：本州から九州、その他離島に分布します。北海道は人為的な分布とされています。

●市内の分布：山麓部・平野部の河川が伏流する場所に立地する二次林に生息しています。1950年代までは穂高正真院原で確認されました。

●減少要因：湿った草原が減少したことや農薬散布による生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 4, 10, 15

メスアカフキバッタ (バッタ目 バッタ科)

Parapodisma tenryuensis

安曇野市：準絶滅危惧	長野県： —	—
NT	環境省： —	—



●特徴：体長 20～33mm。翅が短く、雌は赤褐色をしています。雄も稀に赤化することがあります。また、雌の背面のみが赤褐色のセアカ型や、黒側帯が発達した火焰型などの地域変異や個体変異が知られています。成虫は7～10月に出現します。

●生息環境：明るい二次林の林縁の草が生えている場所に生息します。

●国内の分布：本州中部に分布します。

●市内の分布：豊科・明科に分布し、森林の林縁に生息しています。2000年代に豊科光で確認されています。

●減少要因：森林伐採や農薬散布による生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 38, 59

ハネナガイナゴ (バッタ目 バッタ科)

Oxya japonica



生息環境



安曇野市：準絶滅危惧
NT

長野県： —	—
環境省： —	—

●特徴：体長 17～40mm。前翅は後膝を越えて、翅端に向かって幅広くなります。コバネイナゴの長翅型に似ていますが、交尾器の形状で識別されます。成虫はコバネイナゴより早く羽化し、8～11月に出現します。イネ科植物を食害し、よく飛翔します。

●生息環境：水田やその周辺、湿性の草原にも生息します。

●国内の分布：本州から九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：1990年代に烏川の上流域で確認されています。また、2000年代に明科光で確認されています。

●減少要因：稲作の近代化による水田の環境が変化したことや、農薬散布による生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 18, 59

クモマヒナバッタ (バッタ目 バッタ科)

Chorthippus kiyosawai



生息環境



安曇野市：準絶滅危惧
NT

長野県： —	—
環境省： —	—

●特徴：体長 11～25mm。体は褐色で、胸部の腹面は黄色みが強く、後膝は黒化します。雌雄ともに翅が短く、雄でも前翅は5～6mm程度です。成虫は秋季に出現します。タカネヒナバッタとは垂直分布を違えて生息していると考えられます。

●生息環境：高山帯のお花畑や風衝草原に生息しますが、森林限界以下の溪流のガレ場にもいます。

●国内の分布：本州中部山岳地帯（北アルプス）に分布します。

●市内の分布：高山性のバッタで、1930年代に常念岳山頂で採集された個体によって新種記載されました。現在も穂高・堀金の高山帯で確認されています。

●減少要因：生息地は局地的で、個体数も少ないため、生息地の環境変化による生息状況への影響が大きいと考えられます。

参考文献 No. 4

タカネヒナバッタ (バッタ目 バッタ科)

Chorthippus intermedius



生息環境



安曇野市：準絶滅危惧
NT

長野県： —	—
環境省： —	—

●特徴：体長 16～21mm。体は黄褐色で、前翅に斑紋がありません。前胸背板の「く」の字状の白い細線は明瞭で、背面からは「X」字状にみえます。ヒナバッタより小型で、後膝は黒化します。成虫は6～8月に出現し、雄は後脚を翅に擦って発音します。

●生息環境：山地帯から亜高山帯の高原などに生息します。

●国内の分布：本州（東北地方南部から中部地方）に分布します。

●市内の分布：山地帯の草原に生息しています。1970年代から2000年代にかけて烏川上流域沿いの草原で確認されています。

●減少要因：山地帯の草原の森林化や植林による生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 4, 10, 11, 15, 18, 21

カワラバッタ (バッタ目 バッタ科)

Eusphingonotus japonicus



生息環境



安曇野市：準絶滅危惧

長野県： —

—

NT

環境省： —

—

●特徴：体長 25～43mm。体は灰青色で、河原の石の上では有効な隠蔽色となっています。後翅の中央部に褐色の半月帯があり、その内側は鮮やかな青色で、飛翔時にはよく目立ちます。成虫は 7～9 月に出現します。成虫、幼虫ともに動物食の傾向があります。

●生息環境：河川敷に生息します。

●国内の分布：本州から九州に分布します。

●市内の分布：1930 年代は乳川や穂高川でも確認されました。近年は犀川中流域や三川合流周辺で少数が確認されています。

●減少要因：河川開発による生息地の悪化や減少が考えられます。また、砂礫地が汚泥に覆われることも影響すると考えられます。

参考文献 No.

4, 10, 19, 44, 58

クルマバッタ (バッタ目 バッタ科)

Gastrimargus marmoratus



生息環境



安曇野市：準絶滅危惧

長野県： —

—

NT

環境省： —

—

●特徴：体長 35～65mm。体色は緑色と褐色の 2 型があります。前胸背板はアーチ状に盛り上がり、後縁部は鋭く突出します。後翅に半月状の黒帯があり、飛翔時に車輪のようにみえることが和名の由来です。成虫は 7～11 月に出現し、イネ科植物を好んで食べます。

●生息環境：イネ科植物の多い草原に生息します。

●国内の分布：本州から九州、南西諸島、その他離島に分布します。

●市内の分布：1930 年代に穂高有明で採集された標本があります。また、2000 年代に明科七貴で確認されています。

●減少要因：草原が減少したことや農薬散布による生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No.

4, 22, 38, 59

イボバッタ (バッタ目 バッタ科)

Trilophidia japonica



生息環境



安曇野市：準絶滅危惧

長野県： —

—

NT

環境省： —

—

●特徴：体長は 24～35mm。体は灰褐色で、暗褐色のまだら模様があり、地面上では有効な隠蔽色となっています。後腿節には通常 2 つの黒斑があります。前胸背板のイボ状の突起が和名の由来となっています。成虫は 7～11 月に出現し、各種の草を食べます。

●生息環境：農地や道ばたなどの地面が露出した場所に生息します。

●国内の分布：本州から九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：1930 年代に豊科で採集された標本があります。また、2000 年代に明科七貴と光で確認されています。

●減少要因：草原が減少したことや農薬散布による生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No.

59

シラキトビバナフシ (ナナフシ目 ナナフシ科)

Micadina sp.

安曇野市：準絶滅危惧

長野県： —

—

NT

環境省： —

—



生息環境



●特徴：体長 43～52mm。体は緑色で、背中と翅の合わせ目は紫紅色です。前胸背には「E」もしくは「三」の文字状の模様が明瞭で、後翅膜質部は淡い赤紅色です。7月下旬頃に成虫になり、晩秋までみられます。雌だけで繁殖する単為生殖です。学名は未決定です。

●生息環境：山麓部・平野部から山地帯のブナ科植物を含む森林に生息します。

●国内の分布：本州、四国に生息します。

●市内の分布：山麓部から山地帯で確認されています。

●減少要因：森林伐採や植林、農薬散布による生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No.

35, 36, 52

クロテングスケバ (カメムシ目 テングスケバ科)

Saigona ishidai

安曇野市：準絶滅危惧

長野県：情報不足

DD

NT

環境省： —

—



生息環境



●特徴：体長約 11mm。頭部が前方に突き出ていることがテングの名前の由来になっています。体は暗褐色で、頭部から胸部にかけて縦走する黄白色の隆起線があります。翅は透明で、脚の脛節は白と黒のみだ模様になっています。詳しい生態や寄主植物は不明です。

●生息環境：山地帯から亜高山帯の天然林や二次林の林縁部及び周辺の草原に生息します。

●国内の分布：北海道、本州（中部地方）に分布します。

●市内の分布：1990年代に烏川上流域沿いの森林の林縁で確認されています。林縁に生育するイネ科の植物が食草と考えられます。

●減少要因：森林伐採や植林、農薬散布による生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No.

4, 21, 36

タケウチトゲアワフキ (カメムシ目 トゲアワフキムシ科)

Machaerota takeuchii

安曇野市：準絶滅危惧

長野県： —

—

NT

環境省： —

—



生息環境



●特徴：翅端までの体長は約 8mm。小盾板の後部は長く伸びて、顕著な刺状突起となっています。体はほぼ黒色で、小盾板の基部の両側に黄斑があります。シナノキ、オオバボダイジュなどに寄生します。幼虫は木の枝や葉の裏などに石灰質の筒状の巣をつくります。

●生息環境：山麓部・平野部から山地帯の天然林や良好な二次林に生息します。

●国内の分布：本州から九州に分布します。

●市内の分布：1990年代に三郷で確認されています。食草はシナノキ、オオバボダイジュなどであり、良好な天然林に生息すると考えられます。

●減少要因：森林伐採や植林、農薬散布による生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No.

-

ミズカメムシ (カメムシ目 ミズカメムシ科)

Mesovelia vittigera

安曇野市：準絶滅危惧

長野県： —

—

NT

環境省： —

—



●特徴：体長 2～3mm。体は緑色で、淡色微毛を密生します。普通は無翅ですが、南方では有翅のものが多くなります。無翅型は単眼がありません。肉食性で、水面に落下した小昆虫などを捕食します。産卵は植物の組織内におこなわれます。

●生息環境：水草の多い池沼や湿地などに生息します。

●国内の分布：本州から九州、南西諸島に分布します。

●市内の分布：2000年代に明科で確認されています。

●減少要因：湿地や池沼の開発、農薬散布による生息地の悪化や減少が考えられます

生息環境



参考文献 No. 59

コオイムシ (カメムシ目 コオイムシ科)

Appasus japonicus

安曇野市：準絶滅危惧

長野県： —

—

NT

環境省：準絶滅危惧

NT



●特徴：体長 17～20mm。体は黄褐色または暗褐色です。前脚は鎌のような形をした捕獲脚で、中脚と後脚は遊泳脚になっています。雌は雄の背上に産卵する習性があります。小魚や昆虫類などを捕らえて口吻を刺し、体内に消化液を注入して体液を吸います。

●生息環境：水生植物が豊富な池沼、水田、河川の岸边などに生息します。

●国内の分布：北海道から九州に分布します。

●市内の分布：水田や水田脇の用水路、湧水地、河川の淀みなどに生息しています。特に三川合流周辺に多く生息しています。

●減少要因：河川開発や用水路のコンクリート化、水田から畑地への転作などによる生息地の悪化や減少が考えられます。かつて用いられた毒性の高い農薬も影響したと考えられます。

生息環境



参考文献 No. 4, 11, 36, 37, 51, 52, 59, 61, 63, 66, 144

オオコオイムシ (カメムシ目 コオイムシ科)

Appasus major

安曇野市：準絶滅危惧

長野県： —

—

NT

環境省： —

—



●特徴：体長 23～26mm。体は黒褐色で、コオイムシに似ていますが、体が大きく体色が濃いことなどで識別されます。生態はコオイムシと同様で、雌が雄の背上に産卵します。小魚や昆虫類などを捕らえて口吻を刺し、体内に消化液を注入して体液を吸います。

●生息環境：湿原や谷地などの水深が浅く、水温が低い水域に生息します。

●国内の分布：北海道から九州に分布します。

●市内の分布：明科で確認されています。

●減少要因：河川開発や用水路のコンクリート化、水田から畑地への転作などによる生息地の悪化や減少が考えられます。かつて用いられた毒性の高い農薬も影響したと考えられます。

生息環境



参考文献 No. 59

タイコウチ (カメムシ目 タイコウチ科)

Laccotrephes japonensis



生息環境



▶河川
▶池沼
▶用水路
▶湧水地

安曇野市：準絶滅危惧	長野県：準絶滅危惧	NT
NT		環境省： —

●特徴：体長 30～38mm。体は灰褐色または暗褐色です。前脚は捕獲脚で、腿節に突出した強い棘があり、小魚や水生昆虫などを捕えて体液を吸います。水底に静止し、長い呼吸管先端を水面に出して呼吸します。雌は水辺の草上などに白色の長い卵を産みつけます。

●生息環境：池沼、水田、小川などに生息します。

●国内の分布：本州から九州、南西諸島に分布します。

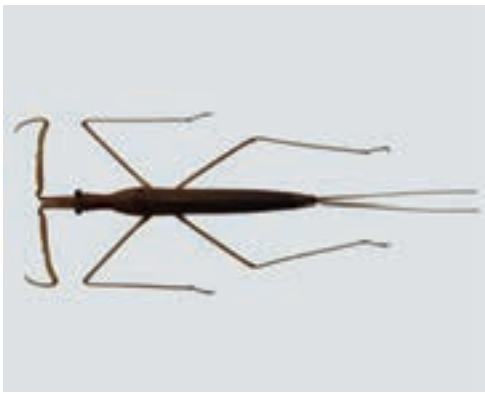
●市内の分布：水田や水田脇の用水路、湧水地、河川の淀みなどに生息しています。特に三川合流周辺に多く生息しています。

●減少要因：河川開発や用水路のコンクリート化、水田から畑地への転作などによる生息地の悪化や減少が考えられます。かつて用いられた毒性の高い農薬も影響したと考えられます。

参考文献 No. 4, 37, 52, 59, 63, 80, 144, 146

ヒメミズカマキリ (カメムシ目 タイコウチ科)

Ranatra unicolor



生息環境



▶河川
▶池沼
▶用水路
▶湧水地

安曇野市：準絶滅危惧	長野県： —	—
NT		環境省： —

●特徴：体長 24～32mm。体は棒状で細長く、淡褐色から淡黄褐色です。ミズカマキリより小型で、呼吸管も短く体長の2/3くらいです。前脚はカマキリのような捕獲脚で、水面に落ちた小昆虫などを捕えて体液を吸います。雌は水生植物の組織内に産卵します。

●生息環境：水生植物が豊富な池沼などに生息します。

●国内の分布：北海道から九州、南西諸島に分布します。

●市内の分布：水田や水田脇の用水路、湧水地、河川の淀みなどに生息しています。特に三川合流周辺に多く生息しています。

●減少要因：河川開発や用水路のコンクリート化、水田から畑地への転作などによる生息地の悪化や減少が考えられます。かつて用いられた毒性の高い農薬も影響したと考えられます。

参考文献 No. 4, 31, 36, 52, 61, 66, 144

ヨツモンカメムシ (カメムシ目 クヌギカメムシ科)

Urochela quadrinotata



生息環境



▶森林
▶雑木林

安曇野市：準絶滅危惧	長野県： —	—
NT		環境省： —

●特徴：体長 12～16mm。体は赤褐色で、背面は黒色点刻で蜜に覆われます。革質部には左右それぞれ2つの黒色小紋があります。ニレ科植物を好み、オヒヨウ、ハルニレ、ケヤキ、ハシバミなどの樹上で生活します。新成虫は9月に出現します。

●生息環境：ニレ科植物が生育する良好な二次林に生息します。

●国内の分布：北海道から九州に分布します。

●市内の分布：1930年代に堀金鳥川で採集された標本があり、2000年代には明科光で確認されています。

●減少要因：森林伐採や植林、農薬散布による生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 4, 59

シロヘリツチカメムシ (カメムシ目 ツチカメムシ科)

Canthophorus niveimarginatus

安曇野市：準絶滅危惧

長野県： —

—

NT

環境省：準絶滅危惧

NT



生息環境



●特徴：体長 6～8mm。体は楕円形で、体色は光沢の強い黒藍色です。体の側縁は黄白色に細く縁どられます。半寄生性植物のカナビキソウに寄生します。雌は卵を保護する習性があります。

●生息環境：河川敷や堤防などの日当たりの良い草原に生息します。

●国内の分布：本州から九州に分布します。

●市内の分布：2000 年代に烏川や黒沢川の上流域で確認されています。日当たりのよい草原に生息しています。

●減少要因：開発や森林への遷移、植林などにより草原や荒地が減少したこと、農薬散布による生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 36, 38, 52, 58

ナカボシカメムシ (カメムシ目 カメムシ科)

Menida musiva

安曇野市：準絶滅危惧

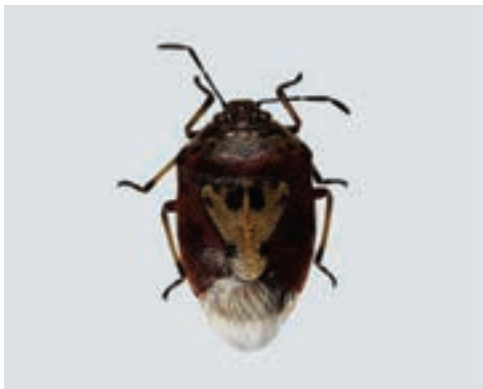
長野県： —

—

NT

環境省： —

—



生息環境



●特徴：体長 8～9mm。体は淡褐色で、黒い点刻があります。前胸背の中央に比較的明瞭な 4 個の黒斑が横に並びますが、小楯板にも数個の黒い紋があります。食草のクヌギ、コナラ、ミズナラなどに集まりますが、晩秋には家屋に侵入することもあります。

●生息環境：クヌギ、コナラ、ミズナラなどが生育する良好な二次林に生息します。

●国内の分布：北海道から九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：2000 年代に豊科・穂高の山麓部の二次林で確認されています。

●減少要因：開発や森林への遷移、植林などにより二次林が減少したこと、農薬散布による生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 38

ヒメカメムシ (カメムシ目 カメムシ科)

Rubiconia intermedia

安曇野市：準絶滅危惧

長野県： —

—

NT

環境省： —

—



生息環境



●特徴：体長 6～8mm。体は淡褐色で、黒色点刻を密に散りばめます。前胸背の前側縁と小楯板の後縁は黄褐色で、小楯板の前縁角に同色の微小斑があります。山地のカワラマツバ、マツヨイグサ、カワラニンジン、アゼスゲなどの植物に寄生します。

●生息環境：山地帯の草原に生息します。

●国内の分布：本州、四国に分布します。

●市内の分布：2000 年代に三郷北小倉や烏川流域で確認されています。

●減少要因：開発や森林への遷移、植林などにより二次林が減少したこと、農薬散布による生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 4, 6, 52, 58

フトハサミツノカメムシ (カメムシ目 ツノカメムシ科)

Acanthosoma crassicaudum

安曇野市：準絶滅危惧

長野県： —

—

NT

環境省： —

—



●特徴：体長 17～18mm。体は鮮やかな緑色で、前胸背側角の先端は多少黒ずみます。雄の生殖節のハサミ状突起は赤色で太く、後方に開きます。前胸背板の後側縁に顕著な歯状突起があります。イヌザクラ、ソメイヨシノなどのバラ科木本類に寄生します。

●生息環境：サクラ類を混じえた良好な二次林に生息します。

●国内の分布：本州から九州に分布します。

●市内の分布：2000年代に黒沢川流域や大口沢の二次林で確認されています。

●減少要因：開発や森林への遷移、植林などにより二次林が減少したこと、農薬散布による生息地の悪化や減少が考えられます。

生息環境



参考文献 No.

38, 52

タイリククロスジヘビトンボ (アミメカゲロウ目 ヘビトンボ科)

Parachauliodes continentalis

安曇野市：準絶滅危惧

長野県： —

—

NT

環境省： —

—



●特徴：開長 80～92mm。ヤマトクロスジヘビトンボに似ていますが、縁紋部の色彩や翅脈の形状などで識別されます。幼虫は水生昆虫などを捕食します。成虫は夜行性で、岸辺の樹冠などを飛翔し、灯火にも飛来します。昼間は岸辺の樹木や草の上などでみられます。

●生息環境：天然林や二次林に隣接する河川の上流域に生息します。

●国内の分布：本州から九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：2000年代に明科光で確認されています。

●減少要因：河川開発や農薬などによる生息地の悪化や減少が考えられます。

生息環境



参考文献 No.

59

ヤマトクロスジヘビトンボ (アミメカゲロウ目 ヘビトンボ科)

Parachauliodes japonicus

安曇野市：準絶滅危惧

長野県： —

—

NT

環境省： —

—



●特徴：開長 90～102mm。タイリククロスジヘビトンボに比べて翅が細長いです。幼虫は水生で、カワゲラ類やカゲロウ類の幼虫などを捕食します。成虫は夜行性で、樹液に集まり、灯火にも飛来します。昼間は岸辺の樹木や草本上などでみられます。

●生息環境：天然林や二次林に隣接する河川の上流域に生息します。幼虫は流れのゆるやかな淀みや支流などに生息します。

●国内の分布：本州から九州、南西諸島、その他離島に分布します。

●市内の分布：2000年代に長峰山で確認されています。

●減少要因：河川開発や農薬などによる生息地の悪化や減少が考えられます。

生息環境



参考文献 No.

19, 59

キスジラクダムシ (アミメカゲロウ目 キスジラクダムシ科)

Raphidia harmandi

安曇野市：準絶滅危惧

長野県： —

—

NT

環境省： —

—



生息環境



●特徴：開長約 20mm。ラクダムシに似ていますが、体が細長く、単眼を有し、翅の縁紋内に翅脈があることなどで識別されます。成虫は6～7月頃に出現します。雌は長い産卵管を持ち、木材や腐朽材に産卵します。幼虫は樹皮下などに生息し、小昆虫を食べます。

●生息環境：ブナ帯の天然林やそれに準じた二次林に生息します。

●国内の分布：本州、九州に分布します。四国は別種であることが明らかになりました。

●市内の分布：2000年代に烏川流域で確認されました。この場所では、ラクダムシより個体数が多く確認されています。枯れた大木の樹皮下などに潜んでいます。

●減少要因：森林伐採などにより生息場所である剥げかけた樹皮を残す大木が減少したこと、農薬散布による生息地の悪化が考えられます。

参考文献 No.

36

ラクダムシ (アミメカゲロウ目 ラクダムシ科)

Inocellia japonica

安曇野市：準絶滅危惧

長野県： —

—

NT

環境省： —

—



生息環境



●特徴：開長 15～20mm。体は黒色で、腹部に黄白色の斑紋があります。和名は、前胸が細長く、瘤のように膨れた中胸と後胸がラクダの背中にみえることに由来しています。成虫は4～7月に出現します。幼虫は樹皮下などに生息し、小昆虫を食べます。

●生息環境：アカマツを混じえた二次林や天然林に生息します。

●国内の分布：北海道から九州に分布します。

●市内の分布：2000年代に黒沢川中流域や烏川流域、明科中川手や長峰山で確認されています。

●減少要因：森林伐採などにより生息場所である剥げかけた樹皮を残す大木が減少したこと、農薬散布による生息地の悪化が考えられます。

参考文献 No.

4, 36, 52, 59

オオフトヒゲクサカゲロウ (アミメカゲロウ目 クサカゲロウ科)

Italochrysa nigrovenosa

安曇野市：準絶滅危惧

長野県： —

—

NT

環境省： —

—



生息環境



●特徴：前翅長約 30mm。日本最大級のクサカゲロウです。体は鮮やかな黄色で、前翅基半部の横脈は黒色になります。樹幹に産卵することが知られています。フトヒゲクサカゲロウ属の幼虫はアリ類の蛹を捕食します。

●生息環境：山麓部から山地帯の森林に生息すると考えられます。

●国内の分布：本州に分布します。全国的にも確認記録は非常に稀な種です。

●市内の分布：1990年代に三郷で確認されています。おそらく良好な天然林に生息すると考えられます。

●減少要因：幼虫の餌となるアリ類が減少した可能性があります。

参考文献 No.

—

カワラゴミムシ (コウチュウ目 カワラゴミムシ科)

Omopron aequalis

安曇野市：準絶滅危惧

長野県：準絶滅危惧

NT

NT

環境省：—

—



生息環境



●特徴：体長 5.5～6.5mm。体は半球形で、細長い触角や脚を持つ特異な体型をしています。橙色に黒色の斑紋がありますが、個体による変異が多いです。行動はすばやく、灯火によく集まります。

●生息環境：河川敷や湖畔の砂地に生息します。

●国内の分布：北海道から九州に分布します。

●市内の分布：1990年代まで三川合流周辺の河川敷に少数が確認されており、成虫は岸辺の砂礫地に生息していました。

●減少要因：河川開発と農薬による生息地の減少が考えられます。また、砂礫地が汚泥に覆われることも影響すると考えられます。

参考文献 No. 4, 22, 44, 59, 80

エリザハンミョウ (コウチュウ目 ハンミョウ科)

Cylindera elisae elisae

安曇野市：準絶滅危惧

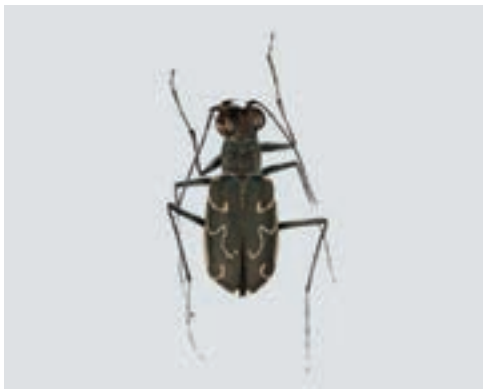
長野県：—

—

NT

環境省：—

—



生息環境



●特徴：体長 9～11mm。体の色彩は暗緑色から銅鋼色で、細長くくびれた斑紋があります。乾燥した地面より、やや湿った場所を好む傾向があります。

●生息環境：河川敷の砂地に生息します。

●国内の分布：北海道から九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：1930年代に豊科で採集された標本があります。おそらく三川合流周辺などの河川に分布し、湿った砂礫地などに生息していたと考えられます。

●減少要因：河川開発や農薬による生息地の悪化や減少が考えられます。特に生息地の乾燥化が影響していると考えられます。

参考文献 No. 4

ミヤマハンミョウ (コウチュウ目 ハンミョウ科)

Cicindela sachalinensis

安曇野市：準絶滅危惧

長野県：—

—

NT

環境省：—

—



生息環境



●特徴：体長 14～18mm。体の色彩は暗緑から暗褐色まで変化があります。体下面は緑赤色の光沢があります。地面を徘徊して、他の昆虫を捕らえて食べます。

●生息環境：亜高山帯の土砂の露出した斜面や林道沿いなどに生息します。

●国内の分布：北海道・本州・四国に分布します。

●市内の分布：2000年代まで山地帯で少数が確認されていましたが、近年は近縁なニワハンミョウと競合し、個体数は減少しています。

●減少要因：林道の舗装化により、林道に餌になる小昆虫が出てくるのが減少したことや、林道法面のコンクリート化による生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 4, 69, 143, 144

コハンミヨウ (コウチュウ目 ハンミョウ科)

Myriochile specularis

安曇野市：準絶滅危惧

長野県：絶滅危惧Ⅱ類

VU

NT

環境省：—

—



生息環境



●特徴：体長 11～13mm。体の色彩は光沢のない暗灰色で、上翅には白色紋が点在します。体形は細長く並行状です。

●生息環境：平野部の裸地などに生息します。

●国内の分布：本州から九州に分布します。

●市内の分布：2000年代まで黒沢川中流域沿いで確認されていましたが、近年は近縁なニワハンミョウと競合し、個体数が減少しています。

●減少要因：林道の舗装化により、林道に餌になる小昆虫が出てくる量が減少したことや、林道法面のコンクリート化による生息地の悪化が考えられます。

参考文献 No. 52, 80

クロカタビロオサムシ (コウチュウ目 オサムシ科)

Calosoma maximowiczii

安曇野市：準絶滅危惧

長野県：絶滅危惧Ⅱ類

VU

NT

環境省：—

—



生息環境



●特徴：体長 22～31mm。体は黒色で光沢があり、微弱ながら金緑色を帯びます。成虫は樹上でガ類の幼虫を捕食しますが、特にブナ林ではブナアオシャチホコの幼虫を好みます。クヌギの樹液にも集まります。後翅は発達して飛翔します。

●生息環境：山麓部・平野部から山地帯のブナ林もしくは良好な二次林に生息します。

●国内の分布：北海道から九州に分布します。

●市内の分布：1990年代まで穂高有明の天蚕用のクヌギ林で確認されています。

●減少要因：森林伐採により天蚕用のクヌギ林が減少したことや農薬散布による生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 19, 80

エゾカタビロオサムシ (コウチュウ目 オサムシ科)

Campalita chinense

安曇野市：準絶滅危惧

長野県：—

—

NT

環境省：—

—



生息環境



●特徴：体長 26～34mm。体は黒色で、背面は暗銅色から銅色を帯びます。上翅には3条の孔点列があります。夜行性で、地上を徘徊してガ類の幼虫などを捕食しますが、灯火に飛来することもあります。クロカタビロオサムシのように樹上でみつかるともあります。

●生息環境：山麓部・平野部の農地や草原などに生息しますが、山地帯でもみられます。生息地の近くには落葉広葉樹林があることが多いです。

●国内の分布：北海道から九州に分布します。

●市内の分布：1990年代まで高瀬川沿いの山麓部・平野部で確認されており、灯火に飛来する個体もいます。

●減少要因：森林伐採により落葉広葉樹林が減少したことや農薬散布による生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 52

オサムシモドキ (コウチュウ目 オサムシ科)

Craspedonotus tibialis

安曇野市：準絶滅危惧

長野県： —

—

NT

環境省： —

—



生息環境



●特徴：体長 20～24mm。体の背面は光沢のない黒色で、脛節と触角の第1節が黄褐色です。夜行性で、日中は砂の中や石の下などに隠れています。夜間に現れて、他の昆虫などを捕食します。灯火にも飛来します。

●生息環境：河川敷の砂地に生息します。

●国内の分布：北海道から九州に分布します。

●市内の分布：1990年代まで三川合流周辺の河川敷に少数が確認されています。成虫は岸辺の粘土質や砂礫地に生息しており、灯火に飛来することもあります。

●減少要因：河川開発や農業による生息地の悪化や減少が考えられます。特に生息地の乾燥化が影響していると考えられます。

参考文献 No.

4

オオシンシュウナガゴミムシ (コウチュウ目 オサムシ科)

Pterostichus cristatoides

安曇野市：準絶滅危惧

長野県：準絶滅危惧

NT

NT

環境省： —

—



生息環境



●特徴：体長 13～16mm。体は暗褐色で、光沢があります。雄の腹部末端はあまり突出しません。交尾器右側片は短く直線状です。成虫は春から出現しますが、昼間は林縁の石下に隠れています。

●生息環境：山地帯の天然林の溪流近くの林床に生息します。

●国内の分布：中部山岳地帯（北アルプス南部）に分布します。

●市内の分布：穂高・三郷・堀金の山地帯から亜高山帯に生息し、三股などで確認されています。ニセシンシュウナガゴミムシと似ていますが、市内で両種とも生息する場所はみつかっていません。

●減少要因：森林伐採による生息地の悪化や減少が考えられます。本種は飛べないため、砂防ダムや林道などにより生息地が分断され移動が困難になったことも影響していると考えられます。

参考文献 No.

80, 131

ニセシンシュウナガゴミムシ (コウチュウ目 オサムシ科)

Pterostichus himifuriho

安曇野市：準絶滅危惧

長野県： —

—

NT

環境省： —

—



生息環境



●特徴：体長 13～16mm。体は暗褐色で、光沢があります。雄の腹部末端はよく突出します。交尾器右側片は長くて湾曲します。成虫は春から出現しますが、昼間は林縁の石下に隠れています。

●生息環境：山地帯の天然林の溪流近くの林床に生息します。

●国内の分布：中部山岳地帯（北アルプス南部）に分布します。

●市内の分布：2000年代に中房川上流域などで発見され、新種として記載されました。穂高・三郷・堀金の山地帯から亜高山帯に生息しています。

●減少要因：森林伐採による生息地の悪化や減少が考えられます。本種は飛べないため、砂防ダムや林道などにより生息地が分断され移動が困難になったことも影響していると考えられます。

参考文献 No.

80, 131

ホソツヤゴモクムシ (コウチュウ目 オサムシ科)

Trichotichnus furihatai

安曇野市：準絶滅危惧	長野県：絶滅危惧Ⅱ類	VU
NT	環境省：—	—



イラスト

生息環境



●特徴：体長約 10mm。体は黒色から黒褐色で光沢があります。脚は褐色から赤褐色です。後翅は退化して飛翔できません。成虫は雪解け直後の春から初夏の短期間に出現します。

●生息環境：山地帯の原生林や良好な二次林の地表に生息します。

●国内の分布：本州（中房川上流域）にのみに分布します。

●市内の分布：1990 年代に中房川上流域沿いで発見され、新種として記載されました。固有種であり、生息地は局地的で、個体数は多くないと考えられます。

●減少要因：森林伐採による生息地の悪化や減少が考えられます。本種は飛べないため、砂防ダムや林道などにより生息地が分断され移動が困難になったことも影響していると考えられます。

参考文献 No. 80, 129

オオホソクビゴミムシ (コウチュウ目 ホソクビゴミムシ科)

Brachinus scotomedes

安曇野市：準絶滅危惧	長野県：—	—
NT	環境省：—	—



生息環境



●特徴：体長 11～15mm。頭部、胸部、触角、脚は黄褐色です。上翅の条溝は不明瞭で、鈍い隆条があります。昼間は石の下などに隠れていますが、夜になると地表を歩き回って昆虫類などを捕食します。外敵に襲われると、尾端から強烈なガスを噴射します。

●生息環境：二次林や隣接する農地、河川敷などに生息します。

●国内の分布：北海道から九州に分布します。

●市内の分布：1930 年代に豊科田沢で採集された標本があります。おそらく湧水地周辺に生息していると考えられます。

●減少要因：河川や湧水地の開発やこれらに隣接する森林の伐採、農薬散布などによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 4, 19, 40, 45, 52

クビボソコガシラミズムシ (コウチュウ目 コガシラミズムシ科)

Haliplus japonicus

安曇野市：準絶滅危惧	長野県：—	—
NT	環境省：情報不足	DD



生息環境



●特徴：体長約 3mm。体は淡黄褐色で、上翅の斑紋と点刻は暗褐色から黒褐色です。上翅の肩部は側方へあまりひろがらないので、楕円形をしています。頭頂の点刻は密で、前胸背板の基部両側に短い縦条があります。植食性で、藻類を食べていると考えられます。

●生息環境：水生植物が豊富な池沼、水田、休耕田などに生息します。

●国内の分布：北海道から九州に分布します。

●市内の分布：1930 年代に確認されています。生息地は局地的で、個体数も少ない種です。

●減少要因：開発などによる溜池や水田・湿地の減少などによる生息地の減少、農薬や界面活性剤などによる水質の悪化が考えられます。

参考文献 No. 31, 36, 61

コガシラミズシ (コウチュウ目 コガシラミズシ科)

Pelodytes intermedius

安曇野市：準絶滅危惧

長野県： —

—

NT

環境省： —

—



●特徴：体長 3～4mm。体は黄褐色で光沢を帯び、黒い斑紋があります。頭頂に黒紋がなく、後基節板の後縁がいちじるしく突出しています。成虫、幼虫ともに植食性で、糸状藻を食べます。灯火にもよく飛来します。

●生息環境：水生植物が豊富な池沼、水田、休耕田などに生息します。

●国内の分布：北海道から九州に分布します。

●市内の分布：2000年代に明科で確認されています。

●減少要因：開発などによる溜池や水田・湿地の減少などによる生息地の減少、農薬や界面活性剤などによる水質の悪化が考えられます。

参考文献 No. 4, 59, 61

生息環境



生息地



川

池沼

ケシゲンゴロウ (コウチュウ目 ゲンゴロウ科)

Hyphidrus japonicus

安曇野市：準絶滅危惧

長野県： —

—

NT

環境省：準絶滅危惧

NT



●特徴：体長 4～5mm。体は短卵形で、黄褐色の地色に黒い斑紋があります。雄の背面は光沢がありますが、雌は細かい網目状となるため光沢がありません。灯火にも飛来します。

●生息環境：池沼、水田、湿地などの止水域に生息します。

●国内の分布：北海道から九州に分布します。

●市内の分布：1930年代に市内の生息が確認されています。生息地は局地的で、個体数は少ないと考えられます。

●減少要因：開発などにより溪流の緩流環境や湧水地などの減少、農薬などによる水質悪化による生息地の減少が考えられます。

参考文献 No. 4

生息環境



生息地



川

池沼

キベリマメゲンゴロウ (コウチュウ目 ゲンゴロウ科)

Platambus fimbriatus

安曇野市：準絶滅危惧

長野県： —

—

NT

環境省：準絶滅危惧

NT



●特徴：体長は 7～8mm。体は長楕円形で、少し厚みがあります。体色は光沢のある黒色で、前胸背と上翅の側縁に黄白色の紋があります。体下面は赤褐色です。流水性で、流れのゆるやかな淀みの石の下や植物の間、岸辺の水際などに生息します。

●生息環境：平野部から山地帯の水質の良い河川や池沼に生息します。

●国内の分布：北海道から九州に分布します。

●市内の分布：豊科・明科などで確認されています。

●減少要因：開発などにより河川中流域の良好な淀み環境の消失、農薬などによる水質悪化による生息地の減少が考えられます。

参考文献 No. 4, 31, 58, 59, 61

生息環境



川

池沼

クロマメゲンゴロウ (コウチュウ目 ゲンゴロウ科)

Platambus nakanei

安曇野市：準絶滅危惧	長野県：—	—
NT	環境省：—	—



●特徴：体長約7mm。体は光沢のある黒色で、上翅側方後半に2つの小さな黄色紋があります。成虫は流れがゆるやかで落ち葉が溜まっているような環境を好みます。ホソクロマメゲンゴロウ、コクロマメゲンゴロウに似ていますが、雄の交尾器による識別が確実です。

●生息環境：山地帯の溪流や湧水のある湿地などに生息します。

●国内の分布：北海道から九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：黒沢川の上流域などで確認されています。

●減少要因：開発などにより溪流の緩流環境や湧水地などの減少、農薬などによる水質悪化による生息地の減少が考えられます。



参考文献 No.	22, 52, 63
----------	------------

ゲンゴロウ (コウチュウ目 ゲンゴロウ科)

Cybister japonicus

安曇野市：準絶滅危惧	長野県：準絶滅危惧	NT
NT	環境省：絶滅危惧Ⅱ類	VU



●特徴：体長 36～39mm。体は卵型で、比較的扁平です。体色は緑褐色で、強い光沢があります。頭部、胸部、上翅側縁部は淡黄褐色です。成虫、幼虫ともに肉食性で、他の水生動物を捕食します。夜間に飛翔し、灯火にも飛来します。

●生息環境：ヒルムシロ、オモダカなどの水生植物が豊富な池沼や放棄水田、湿地に生息します。

●国内の分布：北海道から九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：1990年代末頃まで溜池などで確認されています。

●減少要因：開発などによる溜池や水田・湿地の減少などによる生息地の減少、農薬や界面活性剤などによる水質の悪化が考えられます。



参考文献 No.	4, 18, 80
----------	-----------

オオミズスマシ (コウチュウ目 ミズスマシ科)

Dineutus orientalis

安曇野市：準絶滅危惧	長野県：—	—
NT	環境省：準絶滅危惧	NT



●特徴：体長7～12mm。体は金属光沢を帯びた黒色で、前胸背と上翅の側縁は黄白色です。上翅側縁後方に顕著な棘状突起をそなえ、先端は鋭く突出します。成虫は水面で円を描くように泳ぎ、落下した昆虫などを捕食します。

●生息環境：池沼、水田、休耕田などの止水域に生息します。

●国内の分布：北海道から九州に分布します。

●市内の分布：1930年代に穂高で少数が確認されています。生息地は局地的で、個体数は少ないと考えられます。

●減少要因：開発などによる溜池や湿地の減少などによる生息地の減少、農薬や洗剤の界面活性剤による水質の悪化が考えられます。



参考文献 No.	4, 18
----------	-------

コミズスマシ (コウチュウ目 ミズスマシ科)

Gyrinus curtus

安曇野市：準絶滅危惧

長野県： —

—

NT

環境省：絶滅危惧IB類

EN



生息環境



川
池

●特徴：体長 4～6mm。ミズスマシ、ミヤマミズスマシに似ていますが、前胸と上翅の側片はあきらかに赤褐色を呈し、上翅は雄雌とも光沢があります。前胸背前縁の横条とその点刻は中央で広く消失し、腹部末節の微細印刻は基部でのみあきらかに認められます。

●生息環境：池沼などの止水域や、流れのゆるやかな小河川などに生息します。

●国内の分布：北海道から九州に分布します。

●市内の分布：豊科などで確認されています。

●減少要因：開発などによる河川の緩流環境や淀み、池沼の減少、それに農薬や界面活性剤などによる水質の悪化など、生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 58, 144

ガムシ (コウチュウ目 ガムシ科)

Hydrophilus acuminatus

安曇野市：準絶滅危惧

長野県：準絶滅危惧

NT

NT

環境省：準絶滅危惧

NT



生息環境



農作物地



池
沼

●特徴：体長 33～40mm。体は黒色で、背面に強い光沢があります。背面は膨隆して、後胸腹板に大きな突起をそなえます。成虫は草食性の強い雑食性で、おもに落ち葉などの腐食物を食べますが、幼虫は肉食性で、モノアラガイなどの巻貝や水生昆虫を捕食します。

●生息環境：池沼、湿地、休耕田などの水域に生息します。

●国内の分布：北海道から九州に分布します。

●市内の分布：山麓部・平野部の水田や溜池で確認されています。また、明科の犀川中流域でも確認されています。

●減少要因：溜池や水田の減少、農薬などによる水質悪化などの生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 4, 22, 36, 51, 59, 80, 144

エンマムシモドキ (コウチュウ目 エンマムシモドキ科)

Syntelia histeroides

安曇野市：準絶滅危惧

長野県：準絶滅危惧

NT

NT

環境省： —

—



生息環境



森林



●特徴：体長 12～15mm。体は細長い円筒形で、上翅に6～7本の点刻溝があります。体色は黒色で、強い光沢があります。成虫はハルニレの樹液に集まるほか、倒木や立ち枯れでもみられます。幼虫は肉食性で、朽木中のコウチュウ類の幼虫を食べていると考えられます。

●生息環境：山地帯の天然林や二次林に生息します。

●国内の分布：北海道から九州に分布します。

●市内の分布：2000年代まで明科潮沢谷などで確認されています。かつては山麓部・平野部に広く分布していたと考えられます。個体数は少ないと考えられます。

●減少要因：森林伐採や植林、農薬散布による生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 4

エンマムシ (コウチュウ目 エンマムシ科)

Merohister jekeli

安曇野市：準絶滅危惧

長野県： —

—

NT

環境省： —

—



生息環境



●特徴：体長 6～12mm。体は丸みをおび黒色で、上翅には条溝がはいります。成虫は春から秋に現れ、動物の死体や糞に集まります。

●生息環境：天然林や二次林などに生息します。

●国内の分布：北海道から九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：1930 年代に穂高有明で採集された標本があり、2000 年代には三郷温で確認されています。個体数は少ないと考えられます。

●減少要因：山麓部・平野部の住宅地での衛生管理の進歩により、餌であるハエ幼虫などの発生源となる動物の糞、汚物などが減少したこと、農薬散布が影響していると考えられます。

参考文献 No. 4, 44

ホンドヒロオビモンシテムシ (コウチュウ目 シテムシ科)

Microphorus investigator latifasciatus

安曇野市：準絶滅危惧

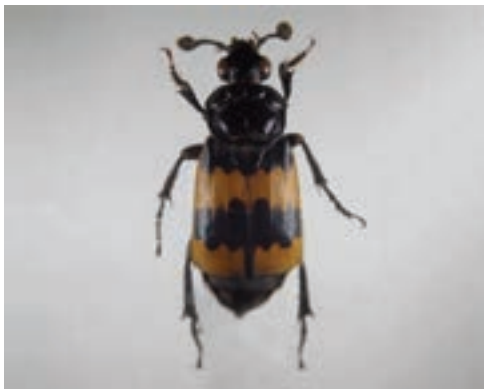
長野県：準絶滅危惧

NT

NT

環境省： —

—



生息環境



●特徴：体長 15～22mm。体は黒色で、上翅は橙色に黒色の帯紋があります。触角の先端 3 節は橙色です。成虫は腐肉に集まって土中に埋めて営巣します。幼虫は巣内で成虫に養育されて成長します。

●生息環境：山地帯の天然林や二次林に生息します。

●国内の分布：本州から九州に分布します。

●市内の分布：穂高・三郷・堀金の山地帯から亜高山帯に生息し、1990 年代まで烏川上流域や三郷スカイラインなどで確認されました。生息地は局地的で、個体数は少ないと考えられます。

●減少要因：森林伐採やそれに伴う乾燥化などの生息地の悪化や減少が考えられます。また、開発などにより餌となる動物の死体も減少した可能性があります。

参考文献 No. 80, 142

ツノグロモンシテムシ (コウチュウ目 シテムシ科)

Microphorus vespilloides

安曇野市：準絶滅危惧

長野県：準絶滅危惧

NT

NT

環境省： —

—



生息環境



●特徴：体長 10～20mm。体は黒色で上翅 2 対の帯紋は橙色ですが、触角先端には橙色部がありません。成虫は夏季に出現します。腐肉に集まって土中に埋めて営巣します。成虫、幼虫ともに腐肉食で、幼虫は巣内で成虫に養育されます。

●生息環境：山地帯から亜高山帯の天然林や良好な二次林に生息します。

●国内の分布：北海道、本州（中部以北）に分布します。

●市内の分布：1930 年代に烏川上流域の一の沢で採集された標本があります。穂高・三郷・堀金の山地帯から亜高山帯に生息すると考えられます。

●減少要因：森林伐採やそれに伴う乾燥化などの生息地の悪化や減少が考えられます。また、開発などにより餌となる動物の死体も減少した可能性があります。

参考文献 No. 36, 142, 144

ビロウドヒラタシテムシ (コウチュウ目 シテムシ科)

Oiceoptoma thoracicum



生息環境



安曇野市：準絶滅危惧	長野県：絶滅危惧Ⅱ類	VU
NT	環境省：—	—

●特徴：体長は 13～15mm。体は楕円形で扁平です。体色は前胸背板が暗赤色で、上翅が黒色です。体の背面は横じわ状の起伏と微細な毛に覆われてビロウド状です。成虫は夏季に出現し、腐肉に集まって食べます。幼虫も腐肉食と考えられますが、詳細は不明です。

●生息環境：山地帯の天然林や良好な二次林に生息します。

●国内の分布：北海道、本州中部以北に分布します。

●市内の分布：天然林に生息することから、穂高・三郷・堀金の山地帯から亜高山帯に生息していると考えられます。

●減少要因：森林伐採やそれに伴う乾燥化などの生息地の悪化や減少が考えられます。また、開発などにより餌となる動物の死体も減少した可能性があります。

参考文献 No. 142

オニヒラタシテムシ (コウチュウ目 シテムシ科)

Thanatophilus rugosus



イラスト

生息環境



安曇野市：準絶滅危惧	長野県：絶滅危惧Ⅱ類	VU
NT	環境省：—	—

●特徴：体長 9～12mm。体は楕円形で扁平です。体色は黒色で、背面は微細な汚灰色毛に覆われたビロウド状です。上翅には格子状の横じわがあります。成虫は夏季に出現し、腐肉に集まって食べます。幼虫も腐肉食と考えられますが、詳細は不明です。

●生息環境：山麓部・平野部の良好な二次林に生息しますが、河川敷でもみられます。

●国内の分布：本州から九州に分布します。

●市内の分布：1930 年代に豊科で採集された標本があり、2000 年代には三郷北小倉で確認されています。個体数は少ないと考えられます。

●減少要因：森林伐採やそれに伴う乾燥化、農薬散布などによる生息地の悪化や減少が考えられます。餌となる野生動物死体の減少も影響しています。

参考文献 No. 52, 142

ヒメヒラタシテムシ (コウチュウ目 シテムシ科)

Thanatophilus sinuatus



イラスト

生息環境



安曇野市：準絶滅危惧	長野県：—	—
NT	環境省：—	—

●特徴：体長 10～13mm。体は楕円形で扁平です。体色は黒色で、背面は灰色または金灰色の細かい毛に覆われています。上翅の間室は平坦です。成虫は春から晩秋まで出現し、腐肉に集まって食べます。

●生息環境：山麓部・平野部の二次林や、河川敷などの開けた環境に生息します。

●国内の分布：北海道から九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：2000 年代に黒沢川中流域で確認されています。個体数は少ないと考えられます。

●減少要因：森林伐採やそれに伴う乾燥化、農薬散布などによる生息地の悪化や減少が考えられます。餌となる野生動物死体の減少も影響しています。

参考文献 No. 36, 52

コクシヒゲハネカクシ (コウチュウ目 ハネカクシ科)

Velleius setosus

安曇野市：準絶滅危惧

長野県： —

—

NT

環境省： —

—



生息環境



●特徴：体長 16～19mm。体は黒色で光沢があります。前翅側面は黄色を帯びます。触角中間部はやや羽毛状に広がり、先端節は水滴型です。本種を含むクシヒゲハネカクシの仲間は樹液や腐った果物に集まり、幼虫はスズメバチの巣内からみつかります。

●生息環境：山麓部から山地帯の良好な落葉広葉樹林に生息します。

●国内の分布：北海道から九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：1930年代に穂高西穂高で採集された標本があります。生息地は局地的で、個体数は少ないと考えられます。

●減少要因：森林伐採や農薬散布などによる生息地の悪化や減少が考えられます。また幼虫の生息するスズメバチ類の採集圧も影響していると考えられます。

参考文献 No. 4

ヒメオオクワガタ (コウチュウ目 クワガタムシ科)

Nipponodorcus montivagus montivagus

安曇野市：準絶滅危惧

長野県：準絶滅危惧

NT

NT

環境省： —

—



生息環境



●特徴：体長 22～58mm。体は黒色で、鮫肌状の弱い光沢があります。成虫は主に昼間活動しますが、灯火にも飛来します。沢沿いや林道沿いのヤナギ類、ハンノキ類などの細枝に集まります。幼虫はブナやミズナラなどの大木の立ち枯れや倒木の材部を食べます。

●生息環境：山地帯から亜高山帯の天然林や二次林で、太い朽木が十分に供給される環境に生息します。

●国内の分布：北海道から九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：2000年代まで中房川や烏川の上流域で確認されています。かつては穂高・三郷・堀金の山地帯から亜高山帯に広く生息していましたが、生息地は局地的で個体数は少ないと考えられます。

●減少要因：森林伐採により幼虫が生息する大木が減少したことが考えられます。またマニアによる採集圧も影響していると考えられます。

参考文献 No. 52, 80

トウカイコリクワガタ (コウチュウ目 クワガタムシ科)

Platycerus takakuwai takakuwai

安曇野市：準絶滅危惧

長野県： —

—

NT

環境省： —

—



生息環境



●特徴：体長 7～12mm。光沢がやや強く、雄は青緑から緑銅色で、雌は緑銅色、銅色、暗褐色と変異が多く、紫色を帯びた個体もみられます。成虫は昼行性で、5月頃にミズナラやブナなどの新芽に飛来します。幼虫はミズナラやブナなどの軟腐朽材を食べます。

●生息環境：山地帯から亜高山帯のブナなどの天然林に生息します。

●国内の分布：本州、四国に分布します。

●市内の分布：穂高・三郷・堀金の山地帯から亜高山帯に分布し、烏川上流域で確認されています。生息地は局地的で個体数は多くないと考えられます。

●減少要因：森林伐採により幼虫が生息する大木が減少したことが考えられます。またマニアによる採集圧も影響していると考えられます。

参考文献 No. -

ムネアカセンチコガネ (コウチュウ目 センチコガネ科)

Bolbocerosoma nigroplagiatum

安曇野市：準絶滅危惧

長野県：準絶滅危惧

NT

NT

環境省：—

—



生息環境



●特徴：体長 10～16mm。体は幅広い卵型で、半球状に強く膨隆します。体色は黄褐色から赤褐色で黒紋がありますが、個体変異が多いです。成虫は夏季に出現し、草原の芝地に多くみられます。動物の糞に生えた菌類などに集まり、灯火にも飛来します。

●生息環境：山地帯の二次林に隣接した芝地や牧場などの草原環境に生息します。

●国内の分布：北海道から九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：山麓・平野部の草原に生息していると考えられます。近年は確認されていませんが、豊科・明科と境を接する松本市側には生息しています。

●減少要因：生活様式の変化により草原が減少したことや農薬散布による生息地の減少や悪化が考えられます。

参考文献 No. 4, 80

ヒゲブトハナムグリ (コウチュウ目 コガネムシ科)

Amphicoma pectinata

安曇野市：準絶滅危惧

長野県：準絶滅危惧

NT

NT

環境省：—

—



生息環境



●特徴：体長 7～10mm。体色は雄が暗銅色または暗緑銅色で、雌は頭部と前胸背板が緑銅色、上翅は暗赤紫銅色です。雄の触角は大きく発達します。成虫は 5～7 月に出現します。雄は活発に飛翔し、雌は花に集まります。幼虫は主に砂地に生息します。

●生息環境：山麓部・平野部から山地帯の二次林に隣接した河川敷の草原や農地に生息します。

●国内の分布：本州、四国に分布します。

●市内の分布：1930 年代に豊科で採集された標本があります。生息地は局地的で、個体数は少ないと考えられます。

●減少要因：河川開発や農薬散布などによる生息地の減少や悪化が考えられます。本種はどの生息地でも非常に狭い範囲に出現するため、特に生息地の減少や悪化の影響を受けやすい種です。

参考文献 No. 4

オオヒラタハナムグリ (コウチュウ目 コガネムシ科)

Neovalgus fumosus

安曇野市：準絶滅危惧

長野県：準絶滅危惧

NT

NT

環境省：—

—



生息環境



●特徴：体長 7～10mm。体は黒色で、雄は黄褐色の斑紋があります。成虫は 5～8 月に出現し、雄はシシウドなどの白い花に集まりますが、雌はミズナラ、ブナ、ケヤキなどの樹皮下や古木の樹洞で見られます。幼虫は樹洞内部の朽木屑を食べると考えられます。

●生息環境：山麓部・平野部から山地帯の大木のある天然林や二次林、社寺林に生息します。

●国内の分布：北海道から九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：烏川上流域で確認されています。標高に関係なく、大木のある森林に生息します。生息地は局地的と考えられます。

●減少要因：森林伐採により幼虫が生息する樹洞のある大木が減少したこと、農薬散布による生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 36

アオアシナガハナムグリ (コウチュウ目 コガネムシ科)

Gnorimus subopacus

安曇野市：準絶滅危惧	長野県： —	—
NT	環境省： —	—



●特徴：体長 17～22mm。体は緑黄色から銅褐色で、白斑が散在します。上翅には2対の弱い縦隆条があります。成虫は6～8月に出現し、シシウド、ノリウツギなどの花に集まりますが、樹液に来ることもあります。雌は立ち枯れや樹洞の腐食質に産卵します。

●生息環境：山地帯から亜高山帯の森林に生息します。

●国内の分布：北海道から九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：穂高・三郷・堀金の山地帯から亜高山帯に生息し、2000年代に三郷スカイラインで確認されています。個体数は少ないと考えられます。

●減少要因：森林伐採や植林による生息地の悪化や減少が考えられます。



参考文献 No.	4, 52
----------	-------

アカマダラハナムグリ (コウチュウ目 コガネムシ科)

Anthracophora rusticola

安曇野市：準絶滅危惧	長野県：絶滅危惧Ⅱ類	VU
NT	環境省： —	—



●特徴：体長 14～20mm。体は赤褐色で、小黑斑を散布したまだら模様となっています。新成虫は晩夏に出現し、越冬して春から初夏に交尾・産卵します。クヌギなどの樹液や花に飛来します。幼虫は猛禽類や大型鳥類の巣材の中で育つことが判明しています。

●生息環境：山麓部・平野部の良好な二次林に生息します。

●国内の分布：北海道から九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：山麓部・平野部の二次林や社寺林に生息しています。個体数は少ないと考えられます。

●減少要因：猛禽類の巣と、樹液の出る二次林の両方がそろわないと生息できないため、森林伐採などの開発や農薬散布による生息地の悪化や減少が考えられます。



参考文献 No.	-
----------	---

オオクシヒゲコメツキ (コウチュウ目 コメツキムシ科)

Tetrigus lewisi

安曇野市：準絶滅危惧	長野県： —	—
NT	環境省： —	—



●特徴：体長 22～35mm。体の背面は黒褐色から黒色で、黄褐色の毛に密に覆われます。触角は第4～10節が櫛歯状で、雄は分枝が長くなります。成虫は夏季に出現し、マツなどの樹木上から発見されます。幼虫はサクラなどの朽木中に生息します。

●生息環境：山麓部・平野部の針広混交林、二次林、マツ林などに生息します。

●国内の分布：北海道から九州、南西諸島、その他離島に分布します。

●市内の分布：山麓部・平野部の二次林に生息していると考えられます。

●減少要因：森林伐採やそれに伴う乾燥化と農薬散布による生息地の悪化や減少が考えられます。



参考文献 No.	-
----------	---

ミヤマヒサゴコメツキ (コウチュウ目 コメツキムシ科)

Homotechnes motschulskyi

安曇野市：準絶滅危惧

長野県：情報不足

DD

NT

環境省：—

—



生息環境



●特徴：体長7～13mm。体は黒から黒褐色で、やや強い光沢があります。前胸と上翅の中央部両側は弧状で、前胸と上翅の間がややくびれたヒョウタン形をしています。後翅が退化して飛べないため、色彩や形態などに地域変異があります。

●生息環境：山地帯の溪流に隣接する天然林に生息します。

●国内の分布：本州、四国に分布します。地域による変異が激しく、数十の亜種が記録されています。

●市内の分布：三郷や明科の京ヶ倉で確認されています。天然林または自然度の高い二次林内の石の下に生息しています。市内には複数の亜種（地域変異）が分布すると考えられます。

●減少要因：森林伐採や農薬散布による生息地の悪化や減少が考えられます。飛翔できないので道路の建設などにより生息地が分断され、移動が困難になったことも影響していると考えられます。

参考文献 No.

52

キンムネヒメカネコメツキ (コウチュウ目 コメツキムシ科)

Kibunea ignicollis

安曇野市：準絶滅危惧

長野県：—

—

NT

環境省：—

—



生息環境



●特徴：体長7～8mm。頭部と前胸背板は赤金色と黄緑色の強い金属光沢で、上翅は紫色の鈍い金属光沢があります。

●生息環境：山地帯の良好な落葉広葉樹林の林縁などに生息します。

●国内の分布：北海道、本州、九州に分布します。

●市内の分布：黒沢山や長峰山で確認されています。天然林または自然度の高い二次林に生息し、林縁のカエデ類などの落葉広葉樹の花に飛来します。個体数は少ないと考えられます。

●減少要因：森林伐採や植林、林道工事などによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No.

52

フタキボシカネコメツキ (コウチュウ目 コメツキムシ科)

Limoniscus kraatzi nihonicus

安曇野市：準絶滅危惧

長野県：準絶滅危惧

NT

NT

環境省：—

—



イラスト

生息環境



●特徴：体長8.5～12mm。体は細長く平行で、表面は真鍮色の金属光沢があります。上翅中央部では斑紋部を除いて黒褐色となります。成虫は早春に出現します。

●生息環境：山地帯のブナ、ミズナラ、スギなどの天然林に生息します。

●国内の分布：本州、四国に分布します。

●市内の分布：黒沢山や長峰山で確認されています。天然林または自然度の高い二次林に生息し、林縁のカエデ類などの落葉広葉樹の花に飛来します。個体数は少ないと考えられます。

●減少要因：森林伐採や植林、林道工事などによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No.

-

マサタカシブリトジョウカイ (コウチュウ目 ジョウカイボシ科)

Yukikoa masatakai

安曇野市：準絶滅危惧	長野県：準絶滅危惧	NT
NT	環境省：—	—



生息環境



●特徴：体長 9.6～14.3mm。体は黄褐色から赤褐色で、頭部、脚、腹面は黒褐色です。体形からみて、飛翔できないと思われます。成虫は夏季に出現し、石の上やクマザザの葉上などでみられます。

●生息環境：亜高山帯の天然林の林縁に生息します。

●国内の分布：中部山岳地帯（北アルプス）に分布します。

●市内の分布：穂高・三郷・堀金の山地帯から亜高山帯に生息し、1930年代に中房川で採集された標本があります。林床のササ類に生息すると考えられます。

●減少要因：森林伐採や林道工事などによる生息地の悪化や減少が考えられます。メスは飛べないため、林道工事による生息地の分断も影響すると考えられます。

参考文献 No.

-

ヘイケボタル (コウチュウ目 ホタル科)

Luciola lateralis

安曇野市：準絶滅危惧	長野県：—	—
NT	環境省：—	—



生息環境



●特徴：体長 7～10mm。体は黒色で、前胸背板の赤色斑に太くて黒い縦条があります。雄は腹部の第 6～7 節、雌は第 6 節に淡黄色の発光器があります。幼虫の食性は広く、カワニナやタニシなどの貝類のほか、ツリガネムシやイトミミズなどの水生生物も食べます。

●生息環境：水田、湿地、流れのゆるやかな小河川などに生息します。

●国内の分布：北海道から九州に分布します。

●市内の分布：山麓部・平野部の水田や小河川、水路などに生息しています。

●減少要因：圃場整備などにより、水田の「どんぶら」や溜池が減少したことや、用水路のコンクリート化などによる生息地の減少、農業などによる水質悪化が考えられます。

参考文献 No.

4, 15, 40, 45, 52, 59, 146

ヒメボタル (コウチュウ目 ホタル科)

Hotaria parvula

安曇野市：準絶滅危惧	長野県：準絶滅危惧	NT
NT	環境省：—	—



生息環境



●特徴：体長 7～9mm。体は黒色で、前胸背板の赤色斑の前縁に褐色紋があります。陸生のホタルで、雄は腹部に 2 節、雌は 1 節の黄白色の発光器があり、黄金色のフラッシュ光を点滅させます。雌は後翅が退化して飛翔できません。幼虫は陸生貝類などを食べます。

●生息環境：山麓部から亜高山帯の天然林や二次林に生息します。

●国内の分布：本州から九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：烏川上流域などに生息し、1950 年代までは数多く確認されていました。体格の違いによる 2 系統があるとされ、市内で確認されているのは西日本型です。

●減少要因：森林伐採や林道工事などによる生息地の悪化や減少が考えられます。メスは飛べないため、林道工事による生息地の分断も影響すると考えられます。

参考文献 No.

4, 11, 63

ムネクリイロボタル (コウチュウ目 ホタル科)

Cyphonocerus ruficollis



生息環境



安曇野市：準絶滅危惧

長野県： —

—

NT

環境省： —

—

●特徴：体長 7～9mm。体は黒色で、前胸背板が栗色をしています。発光器があり、弱いながらも連続光を放ちます。幼虫は落ち葉の下や浅い土中に生息して、ウスカワマイマイなどの陸生巻貝やミミズ、サワガニの死体などを食べます。

●生息環境：山麓部・平野部から山地帯の二次林などに生息します。

●国内の分布：本州から九州に分布します。

●市内の分布：1990年代に烏川上流域と明科潮沢谷に隣接する森林で確認されています。個体数は少ないと考えられます。

●減少要因：森林伐採や林道工事、農薬散布などによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 35, 36

ナガサキアオジョウカイモドキ (コウチュウ目 ジョウカイモドキ科)

Cordylepherus xantholoma



生息環境



安曇野市：準絶滅危惧

長野県： —

—

NT

環境省： —

—

●特徴：体長約 7mm。上翅は暗い金緑色で、前頭部などは橙色です。普通種のツマキアオジョウカイモドキに似ていますが、大型で触角先端部が細いことなどで識別されます。成虫は春季に出現します。

●生息環境：平野部の低茎草原に生息するとされています。

●国内の分布：本州（福島県以西）、九州に分布します。

●市内の分布：犀川の河川敷などで確認されています。生息地は局地的で、個体数も少ないと考えられます。

●減少要因：河川や湧水地の開発やこれらに隣接する森林の伐採、農薬散布などによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. -

ルリヒラタムシ (コウチュウ目 ヒラタムシ科)

Cucujus miszechi



生息環境



安曇野市：準絶滅危惧

長野県：準絶滅危惧

NT

NT

環境省： —

—

●特徴：体長 20～27mm。体は細長い長方形で、いちじるしく扁平です。体色は黒色で、上翅は青藍色です。大木の樹皮下に生息し、成虫で越冬します。

●生息環境：山地帯の天然林に生息します。

●国内の分布：北海道から九州に分布します。

●市内の分布：天然林に生息することから、穂高・三郷・堀金の山地帯から亜高山帯に生息していると考えられます。

●減少要因：森林伐採による生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 4

ミドリオオクスイ (コウチュウ目 オオクスイムシ科)

Helota cereopunctata

安曇野市：準絶滅危惧	長野県：準絶滅危惧	NT
環境省：—		—



●特徴：体長 8～9mm。体側はほぼ平行で、やや扁平です。体色は黒色で、銅色から緑銅色の光沢があります。上翅は点刻列があり、黄色で丸い斑紋が4つあります。成虫は樹液に集まります。

●生息環境：山地帯の溪流に隣接する天然林の林縁に生息します。

●国内の分布：北海道、本州、九州に分布します。

●市内の分布：穂高・三郷・堀金の山地帯に分布し、烏川上流域や三郷スカイライン沿いの森林などで確認されています。生息地は局地的で個体数は少ないと考えられます。

●減少要因：森林伐採や植林による生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 36, 52

オオキノコムシ (コウチュウ目 オオキノコムシ科)

Encaustes praenobilis

安曇野市：準絶滅危惧	長野県：準絶滅危惧	NT
環境省：—		—



●特徴：体長 16～36mm。体は黒色で、前胸背板、上翅肩部、翅端部に赤色紋があります。成虫は夏季に出現し、サルノコシカケなどの多孔菌類に集まります。夜行性で灯火にも飛来します。幼虫はサルノコシカケなどの多孔菌類に穿孔します。

●生息環境：山地帯の溪流に隣接する天然林の林縁に生息します。

●国内の分布：北海道、本州、九州に分布します。

●市内の分布：天然林に生息することから、穂高・三郷・堀金の山地帯から亜高山帯の森林に生息していると考えられます。

●減少要因：森林伐採や植林による生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 4

ジュウサンホシテントウ (コウチュウ目 テントウムシ科)

Hippodamia tredecimpunctata timberlakei

安曇野市：準絶滅危惧	長野県：絶滅危惧Ⅱ類	VU
環境省：—		—



●特徴：体長は 5～6mm。前胸背板中央部は前縁を除いて黒色で、上翅は橙色の地色に 13 個の黒紋があります。他のテントウムシ類に比べて、平たくて長い体形をしています。肉食性で、アブラムシ類を捕食します。

●生息環境：山麓部・平野部の良好な水質の湖岸草原及び湿地に生息します。

●国内の分布：北海道から九州に分布します。

●市内の分布：2000年代から2010年代に、豊科の犀川中流域や三郷温で確認されています。生息地は局地的で、個体数は少ないと考えられます。

●減少要因：池沼や用水路の改修や湧水地の開発により岸辺のヨシ原が減少したこと、農薬散布による生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 58

ジュウロクホシテントウ (コウチュウ目 テントウムシ科)

Sospita oblongoguttata

安曇野市：準絶滅危惧	長野県：絶滅危惧Ⅱ類	VU
NT	環境省：—	—



生息環境



●特徴：体長7～8mm。体は黄褐色で、上翅に16個の黄白色の斑紋があります。生態の詳細は不明ですが、成虫、幼虫ともに肉食性と考えられます。他県では越冬中の成虫や、灯火に飛来した個体などが確認されています。

●生息環境：山地帯の溪流に隣接する良好なマツ林の林縁に生息します。

●国内の分布：本州、九州に分布します。

●市内の分布：1990年代に三郷スカイラインで確認されています。生息地は局地的で、個体数は少ないと考えられます。

●減少要因：森林伐採や薬剤散布による生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 38, 52, 80

ココノホシテントウ (コウチュウ目 テントウムシ科)

Coccinella explanata

安曇野市：準絶滅危惧	長野県：絶滅危惧Ⅱ類	VU
NT	環境省：—	—



生息環境



●特徴：体長5～7mm。体は半球状で、橙色の地色に黒色紋が9個並びます。生態の詳細は不明ですが、同属のナナホシテントウと同様と考えられます。成虫で越冬します。

●生息環境：山麓部・平野部の湿潤な二次林の林縁や河川敷に生息します。

●国内の分布：北海道、本州に分布します。

●市内の分布：1990年代に烏川上流域で確認されています。水辺のヤナギ類などに発生するアブラムシを食べていると考えられます。生息地は局地的で、個体数は少ないと考えられます。

●減少要因：河川や湧水地の開発やこれらに隣接する森林の伐採、農薬散布などによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 36

ヤマトアザミテントウ (コウチュウ目 テントウムシ科)

Henosepilachna niponica

安曇野市：準絶滅危惧	長野県：準絶滅危惧	NT
NT	環境省：—	—



生息環境



●特徴：体長5.5～8.5mm。上翅は濃赤褐色で黒色の斑紋があります。食草はアザミ類ですが、ジャガイモ畑に侵入してオオニジュウヤホシテントウと混成することがあります。

●生息環境：山地帯の溪流に隣接する湿潤な天然林の林縁に生息します。

●国内の分布：北海道、本州に分布します。

●市内の分布：1990年代まで黒沢川中流域で確認されていました。林道沿いの林縁に生息しますが、生息地は局地的で、個体数は少ないと考えられます。

●減少要因：林道の整備が進んだことにより、道ばたのアザミ類が減少したことが影響していると考えられます。

参考文献 No. 4, 36, 52

ナカブサツチビロウドムシ (コウチュウ目 アカハネムシ科)

Dendroides nakabusana

安曇野市：準絶滅危惧	長野県：準絶滅危惧	NT
NT	環境省：—	—



生息環境



●特徴：体長 13～17mm。体は褐色から暗褐色で、光沢は弱い。成虫は夏季に出現しますが、夜行性で昼間は樹洞や樹皮下に隠れています。灯火にも集まります。中房川上流域で発見され、新種として記載されました。ツチイロビロウドムシとの区別は曖昧です。

●生息環境：山地帯から亜高山帯の針葉樹の混じる天然林に生息します。生息するには立ち枯れた木が必要です。

●国内の分布：本州（関東地方、中部地方）に分布します。

●市内の分布：1930年代に中房川上流域で発見されました。生息地は局地的で、個体数は少ないと考えられます。

●減少要因：森林伐採により樹洞のある大木が減少したことが影響していると考えられます。

参考文献 No.

-

ケブカマルクビカミキリ (コウチュウ目 カミキリムシ科)

Atimia okayamensis

安曇野市：準絶滅危惧	長野県：準絶滅危惧	NT
NT	環境省：—	—



生息環境



●特徴：体長 5～8mm。体は黒色で、灰緑色の微毛で覆われています。上翅は光沢のある黒点が並びます。成虫は早春と秋に出現します。秋に羽化した成虫はネズミサシの樹皮下で越冬します。幼虫はネズミサシの衰弱枝を食べます。

●生息環境：山麓部・平野部の寄主植物のネズミサシが生育する森林に生息します。

●国内の分布：本州に分布します。

●市内の分布：1960年代に豊科田沢で確認されています。生息地は局地的で、個体数も少ない種です。

●減少要因：森林伐採により食樹であるネズミサシが減少していることや、農薬散布が影響していると考えられます。

参考文献 No.

19, 80, 141

トホシハナカミキリ (コウチュウ目 カミキリムシ科)

Brachyta punctata

安曇野市：準絶滅危惧	長野県：—	—
NT	環境省：—	—



生息環境



●特徴：体長 9～15mm。頭部と前胸背板は黒色です。上翅は黄色で10個の黒紋がありますが、斑紋の変異がいちじるしく、黒色部の多い個体も出現します。成虫は6～8月に出現し、ウサギギクやハクサンフウロなどの花に集まります。幼虫期の生態は不明です。

●生息環境：亜高山帯から高山帯の草原に生息します。

●国内の分布：北海道、本州に分布します。

●市内の分布：穂高・三郷・堀金の亜高山帯に分布し、1970年代に常念岳で確認されています。生息地は局地的で、個体数も少ない種です。

●減少要因：森林伐採や植林による生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No.

4, 144

ベニバナカミキリ (コウチュウ目 カミキリムシ科)

Paranaspia anaspidoides

安曇野市：準絶滅危惧	長野県：準絶滅危惧	NT
環境省：—		—



生息環境



●特徴：体長8～14mm。体は黒色で、上翅は暗赤色です。成虫は6～8月まで標高を追って出現し、ケヤキなどの大木の空洞部や周辺のひこばえに静止している個体が見られます。ノリウツギなどの花にも訪れます。幼虫はケヤキなどの樹洞内部の枯死部を食べます。

●生息環境：山麓部・平野部から亜高山帯に生息します。

●国内の分布：北海道から九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：標高に関係なく、大木のある森林に生息しています。風により高山帯まで吹き上げられることもあり、1980年代に燕岳から大天井岳かけて確認されています。

●減少要因：森林伐採により、樹洞のある大木が減少したことや農薬散布が影響していると考えられます。

参考文献 No. 6, 138

アラメハナカミキリ (コウチュウ目 カミキリムシ科)

Sachalinobia rugipennis

安曇野市：準絶滅危惧	長野県：準絶滅危惧	NT
環境省：—		—



生息環境



●特徴：体長12～19mm。体色は黒に近い銅褐色で、上翅の中央部には横長の黄色紋があります。上翅にはアラメ状の彫刻と大きな点刻があります。成虫は6～7月に出現し、枯死後やや経過して樹皮が剥げ落ちたオオシラビソなどの立ち枯れた木で見られます。

●生息環境：亜高山帯の常緑針葉樹林に生息します。

●国内の分布：北海道、本州に分布します。

●市内の分布：穂高・三郷・堀金の山地帯から亜高山帯に生息し、1970年代に中房川上流域の森林で確認されています。

●減少要因：森林伐採や植林による生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 80, 141

オニホソコバナカミキリ (コウチュウ目 カミキリムシ科)

Necydalis gigantea gigantea

安曇野市：準絶滅危惧	長野県：絶滅危惧Ⅱ類	VU
環境省：—		—



生息環境



●特徴：体長17～34mm。体は細長で、上翅は短く、後翅と腹部が露出し、ヒメバチ類に似た体形をしています。成虫は7～8月に出現し、クワの古木や樹洞のあるケヤキに集まり、葉裏などに静止する姿が見られます。幼虫はクワやケヤキの枯死部を食べます。

●生息環境：山麓部・平野部から山地帯のクワの古木や、空洞部のあるケヤキが生育する場所などに生息します。

●国内の分布：北海道から九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：2000年代に明科で確認されています。かつてはクワ畑や社寺林などに広く生息していたと考えられます。個体数は少ないと考えられます。

●減少要因：クワの古木などに依存するため、クワ畑の開発や転用による生息地の減少が考えられます。また、農薬散布も影響していると考えられます。

参考文献 No. -

アカアシオオオカミキリ (コウチュウ目 カミキリムシ科)

Chloridolum japonicum

安曇野市：準絶滅危惧

長野県：絶滅危惧Ⅱ類

VU

NT

環境省：—

—



生息環境



●特徴：体長 25～30mm。体の背面は光沢のある緑色で、腹面や脚は赤褐色です。雄の触角は体長の約 2 倍あります。成虫は 7～8 月に出現し、クヌギの樹液に集まります。夜行性で、灯火にも飛来します。幼虫はクヌギやコナラなどの枯れ枝に寄生します。

●生息環境：山麓部・平野部のクヌギの大木が混じる二次林に生息します。

●国内の分布：本州から九州に分布します。

●市内の分布：1970 年代まで穂高有明の天蚕用のクヌギ林で確認されています。豊科・明科側の松本市との境界付近では生息していると考えられます。

●減少要因：森林伐採や農薬散布などによる生息環境の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 80, 141

アオカミキリ (コウチュウ目 カミキリムシ科)

Schwarzerium quadricolle

安曇野市：準絶滅危惧

長野県：—

—

NT

環境省：—

—



生息環境



●特徴：体長 21～30mm。体の背面は緑色で金属光沢があります。前胸は側面に 2 対の突起があり、後方のは大きく先端が鋭く尖ります。成虫は 6～7 月に出現し、ノリウツギやリョウブなどの花に集まります。幼虫はイロハモミジやクリなどの生木を食べます。

●生息環境：天然林や二次林に生息します。

●国内の分布：北海道から九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：1990 年代に三郷スカイラインで確認されています。落葉広葉樹林に生息しますが、生息地は局地的で、個体数は少ないと考えられます。

●減少要因：森林伐採やカラマツ、スギの植林によって良好な二次林が減少したことや農薬散布の影響が考えられます。

参考文献 No. 52, 59

コトラカミキリ (コウチュウ目 カミキリムシ科)

Plagionotus pulcher

安曇野市：準絶滅危惧

長野県：—

—

NT

環境省：準絶滅危惧

NT



生息環境



●特徴：体長 12～16mm。体は黒色で、頭部、前胸背板、上翅に黄色の帯があります。色彩や形態からスズメバチ類に擬態していると考えられます。成虫は 5～8 月に出現し、落葉広葉樹の伐採木や倒木に集まります。幼虫はクヌギ、ミズナラなどの枯死部を食べます。

●生息環境：ブナ科植物が生育する天然林や二次林に生息します。

●国内の分布：本州から四国に分布します。

●市内の分布：2000 年代に明科潮沢谷で確認されています。かつては山麓部・平野部に広く分布していたと考えられます。個体数は少ないと考えられます。

●減少要因：森林伐採やカラマツ、スギの植林によって良好な二次林が減少したことや農薬散布の影響が考えられます。

参考文献 No. 59

トラフカミキリ (コウチュウ目 カミキリムシ科)

Xylotrechus chinensis

安曇野市：準絶滅危惧

長野県： —

—

NT

環境省： —

—



●特徴：体長 15～25mm。体は黒色で、黄褐色から赤褐色と、黒色の短毛で被われています。スズメバチ類やアシナガバチ類に擬態していると考えられます。成虫はクワ、クリ、リンゴなどの木に集まり、葉や枯れ木の樹皮を食べます。幼虫はクワの材を食べます。

●生息環境：古木のあるクワ畑や、ヤマグワが生育する二次林などに生息します。

●国内の分布：北海道から九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：養蚕用のクワ畑に生息することから、かつては山麓部・平野部に広く分布していたと考えられます。

●減少要因：クワ畑の開発や転用などによる生息地の減少や農薬散布による悪化が考えられます。

生息環境



参考文献 No.

4

ムモンベニカミキリ (コウチュウ目 カミキリムシ科)

Amarysius sanguinipennis

安曇野市：準絶滅危惧

長野県：絶滅危惧 I 類

CR+EN

NT

環境省： —

—



●特徴：体長 12～17mm。体は黒色で、上翅は斑紋のない赤色です。成虫は5～6月に出現し、ウツギ、イボタノキなどの花に集まります。松本市ではケヤキの細枝から新成虫が確認されています。県外ではカシワや、コナラなどの材から幼虫が確認されています。

●生息環境：山麓部・平野部から山地帯の落葉広葉樹林などに生息します。

●国内の分布：本州、九州に分布します。

●市内の分布：1930年代には穂高有明や三郷で確認され、2000年代には豊科高家で確認されています。個体数は少ないと考えられます。

●減少要因：森林伐採や植林による生息地の減少や農薬散布による悪化が考えられます。

生息環境



参考文献 No.

4, 80, 141

オオセイボウ本土亜種 (ハチ目 セイボウ科)

Stilbum cyanurum pacificum

安曇野市：準絶滅危惧

長野県： —

—

NT

環境省：情報不足

DD



●特徴：体長 12～20mm。体は頭部と胸部が緑色で、背面は紫色を帯びます。第1腹背板は緑色、第2腹背板は紫色、第3腹背板は濃紫色です。第3腹背板後縁には鋭い4歯があります。翅は暗色にくもりがあります。スズバチやトックリバチ類の巣に寄生します。

●生息環境：トックリバチ類は樹木などに営巣することから、社寺林や二次林などに生息すると考えられます。

●国内の分布：本州から九州に分布します。

●市内の分布：山地帯に生息しています。近年では、光城山で確認されています。

●減少要因：寄主となる大型のドロバチ類やアナバチ類が森林伐採などにより減少したこと、農薬散布が影響していると考えられます。

生息環境



参考文献 No.

-

キオビホオナガスズメバチ本州亜種 (ハチ目 スズメバチ科)

Dolichovespula media sugare



生息環境



安曇野市：準絶滅危惧
NT

長野県： —	—
環境省：情報不足	DD

●特徴：体長 14～22mm。体は黒色で、橙黄色から黄色の斑紋がありますが、女王バチは全体がほぼ橙黄色で、雄バチは斑紋が発達します。女王バチは5～6月頃に営巣を開始し、雄バチと新女王バチは8～9月に出現します。灌木の枝や家屋の軒下などに営巣します。

●生息環境：山麓部・平野部から亜高山帯の天然林や二次林に生息します。

●国内の分布：本州に分布します。

●市内の分布：山麓部から山地帯の森林に生息しています。

●減少要因：森林伐採や土地開発などによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 52

シロオビホオナガスズメバチ (ハチ目 スズメバチ科)

Dolichovespula pacifica



生息環境



安曇野市：準絶滅危惧
NT

長野県： —	—
環境省： —	—

●特徴：体長 11～18mm。体は全体が黒色で、白色の斑紋があります。頭楯の中央黒帯は発達し、上縁から下縁に達します。女王バチは5～6月頃に営巣を開始し、雄バチと新女王バチは8～9月に出現します。樹木の枝や家屋の軒下などの開放的な場所に営巣します。

●生息環境：山地帯から亜高山帯の天然林や二次林に生息します。

●国内の分布：北海道から四国に分布します。

●市内の分布：山麓部から山地帯の森林に生息しています。

●減少要因：森林伐採による生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 18, 52, 144

クロスズメバチ (ハチ目 スズメバチ科)

Vespula flaviceps



生息環境



安曇野市：準絶滅危惧
NT

長野県： —	—
環境省： —	—

●特徴：体長 10～15mm。体は全体的に黒色で、白色または象牙色の斑紋があります。頭楯の中央黒帯は錨状で、下端に到達しません。県内ではシダクロスズメバチとともに、幼虫や蛹を珍味として食用にする習慣があります。主に土中に営巣します。

●生息環境：山麓部・平野部から亜高山帯の天然林や二次林などに生息します。

●国内の分布：北海道から九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：山麓部・平野部から山地帯に生息しています。近年、個体数は激減しています。

●減少要因：山麓部・平野部の開発や農薬散布による生息地の悪化や減少が考えられます。「すがれ追い」が採集圧になっている可能性もあります。

参考文献 No. 15, 18, 36, 38, 52, 58, 59, 67

チャイロスズメバチ (ハチ目 スズメバチ科)

Vespa dybowskii



生息環境



安曇野市：準絶滅危惧	長野県：情報不足	DD
NT		環境省： —

●特徴：体長 17～29mm。体色は頭部から胸部が赤褐色で、腹部は黒色です。社会寄生性で、女王バチはキイロスズメバチやモンズズメバチの巣に侵入して、相手の女王バチを殺して巣を乗っ取り、その働きバチに自身の働きバチを育てさせます。

●生息環境：山麓部・平野部から山地帯の天然林や二次林に生息します。

●国内の分布：北海道、本州に分布します。

●市内の分布：山麓部・平野部に生息し、1930年代に穂高有明や堀金烏川などで確認されています。現在もこれらの地域では、少数が確認されています。

●減少要因：森林伐採や土地開発などによる生息地の減少や農薬散布による悪化が考えられます。モンズズメバチの減少も影響していると考えられます。

参考文献 No. 63

トモンハナバチ (ハチ目 ハキリバチ科)

Anthidium septemspinosum



生息環境



安曇野市：準絶滅危惧	長野県： —	—
NT		環境省： —

●特徴：体長約 14mm。体は黒色で、腹背板の両側に明瞭な黄色の斑紋があります。竹筒やヨシの筒などに営巣し、巣の仕切り材にヨモギの葉の綿毛を使います。成虫は夏季に出現します。

●生息環境：河川敷や開けた草原などに生息します。

●国内の分布：本州に分布します。

●市内の分布：2000年代に黒沢川下流域などで確認されています。

●減少要因：草原が減少したことや農薬散布による生息地の悪化や減少が考えられます。

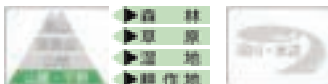
参考文献 No. 22, 52, 58

クロマルハナバチ (ハチ目 ミツバチ科)

Bombus ignitus



生息環境



安曇野市：準絶滅危惧	長野県： —	—
NT		環境省：準絶滅危惧

●特徴：体長 9～23mm。体は黒色で、腹部第4節以降は赤褐色です。雄バチは鮮黄色で、胸部中央と腹部第3節が黒色です。女王バチは5～6月頃に営巣を開始し、雄バチと新女王バチは8～9月に出現します。ノネズミなどの穴を利用して、土中に営巣します。

●生息環境：山麓部・平野部から山地帯の森林や草原などに生息します。

●国内の分布：本州から九州に分布します。

●市内の分布：山麓部から山地帯に生息しています。

●減少要因：草原が減少したことや農薬散布による生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 22, 36, 52, 59

ナガマルハナバチ (ハチ目 ミツバチ科)

Bombus consobrinus wittenburgi

安曇野市：準絶滅危惧

長野県：情報不足

DD

NT

環境省：情報不足

DD



生息環境



●特徴：体長 15～22mm。体は黄褐色で、胸背部の中央に赤褐色の帯があります。腹部の第3節は黒色で、第4節から尾端は灰褐色です。女王バチは6月頃に営巣を開始し、雄バチと新女王バチは8～9月に出現します。地表や土中などに営巣します。

●生息環境：山地帯から亜高山帯の森林や草原に生息します。

●国内の分布：本州（東北地方南部から中部地方）に分布します。

●市内の分布：山麓部から山地帯に生息しています。

●減少要因：山地帯の草原が森林に遷移することや植林により減少したこと、農薬散布による生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 18, 21, 36, 52, 69

ホンシュウハイロマルハナバチ (ハチ目 ミツバチ科)

Bombus deuteronymus maruhanabachi

安曇野市：準絶滅危惧

長野県：絶滅危惧Ⅱ類

VU

NT

環境省：—

—



生息環境



●特徴：体長 8～16mm。体は全体的に灰白黄色で、胸部と腹部第1～2節は淡褐色です。女王バチは6～7月頃に営巣を開始し、雄バチと新女王バチは9～10月に出現します。日当たりの良い開けた場所で、イネ科雑草などの根元近くの枯れ草などに営巣します。

●生息環境：山地帯から亜高山帯の草原などに生息します。

●国内の分布：本州（東北地方、中部地方）に分布します。

●市内の分布：穂高・三郷・堀金の山地帯から亜高山帯に生息しています。

●減少要因：生息地は局地的で、個体数も少ないため、生息地の環境変化による生息状況への影響が大きいと考えられます。

参考文献 No. 80

オオハサミシリアゲ (シリアゲムシ目 シリアゲムシ科)

Panorpa bicornuta

安曇野市：準絶滅危惧

長野県：—

—

NT

環境省：—

—



生息環境



●特徴：体長 14～15mm。体は黒色で、雄の第8腹節の両側後端は細く尖ります。翅の斑紋は個体による変異が大きく、ハクサンシリアゲと区別しにくいものもあります。雑食性で、生きた昆虫類や死骸、液果、鳥の糞などを食べます。成虫は5～8月に出現します。

●生息環境：山地帯から亜高山帯の天然林に生息します。

●国内の分布：本州に分布します。

●市内の分布：穂高・三郷・堀金の亜高山帯から高山帯に生息しています。

●減少要因：生息地は局地的で、個体数も少ないため、生息地の環境変化による生息状況への影響が大きいと考えられます。

参考文献 No. 4, 143

スカシシリアゲモドキ (短翅型) (シリアゲムシ目 シリアゲモドキ科)

Panorpodes paradoxus (short wing form)

安曇野市：準絶滅危惧

長野県： —

—

NT

環境省： —

—



生息環境



●特徴：体長約 12mm。体は黄褐色または暗褐色です。雄の翅は無紋ですが、雌は無紋から暗褐色斑紋の発達したもので変異があります。高標高域では雌の翅が短くなる短翅型が出現します。夜行性で花に集まって花粉を食べています。7～8月に出現します。

●生息環境：平野部から高山帯まで広範囲に生息しますが、短翅型は亜高山帯から高山帯の森林などに生息します。

●国内の分布：本州から九州に分布します。短翅型は本州中部の山岳や東北地方北部などで確認され、地域による翅の変異があります。

●市内の分布：穂高・三郷・堀金の山地帯から亜高山帯に生息しています。

●減少要因：森林伐採や植林による生息地の悪化や減少が懸念されます。

参考文献 No.

4, 35, 36, 52

エサキニセヒメガガンボ (ハエ目 ニセヒメガガンボ科)

Protanyderus esakii

安曇野市：準絶滅危惧

長野県： —

—

NT

環境省：情報不足

DD



イラスト

生息環境



●特徴：体長約 7mm。体は淡褐色で、翅には顕著な淡褐色の斑紋があります。翅の後縁は基部近くで直角に強く張り出しています。幼虫は水生で、流れのゆるやかな砂礫底に生息しています。成虫は7～10月に出現し、灯火に飛来した個体が確認されています。

●生息環境：山麓部・平野部の河川中流から下流域に隣接する草原や二次林などに生息します。

●国内の分布：本州から九州に分布します。

●市内の分布：穂高・堀金地域で確認されています。

●減少要因：元々、生息地が局地的なうえ、河川開発や農薬散布などによりさらに悪化や減少したことが考えられます。

参考文献 No.

36

ミカドガガンボ (ハエ目 ガガンボ科)

Holorusia mikado

安曇野市：準絶滅危惧

長野県： —

—

NT

環境省： —

—



生息環境



●特徴：体長 30～38mm。日本最大のガガンボで翅はいちじるしく褐色を帯び、前縁部は黄褐色を呈します。脚は黄褐色で、各節の末端部は黒褐色です。幼虫は水生で、腐食物などを食べます。成虫は6～8月に出現します。

●生息環境：山麓部・平野部から山地帯の溪流沿いの二次林や草原に生息します。幼虫は溪流近くの砂地に生息します。

●国内の分布：本州から九州に分布します。

●市内の分布：穂高・堀金地域で確認されています。

●減少要因：河川開発、圃場整備や用水路のコンクリート化などによる生息地の減少、農薬などによる水質悪化が考えられます。

参考文献 No.

22, 36, 40, 45, 66

ニッポンクモガタガガンボ (ハエ目 ガガンボ科)

Chionea niponica



生息環境



安曇野市：準絶滅危惧
NT

長野県：—	—
環境省：—	—

●特徴：体長約 6mm。体色は褐色で、前翅は退化しています。冬季に出現しますが、脚は細長く、雪上を歩く姿はクモに似ています。日本に分布するクモガタガガンボは、3種が記載されていますが、詳しい生態などは十分に解明されていません。

●生息環境：山地帯の森林に生息すると考えられます。雪上を歩く個体がよく観察されています。

●国内の分布：北海道、本州、九州に分布します。

●市内の分布：穂高・三郷・堀金の山地帯から亜高山帯に生息しています。

●減少要因：元々、生息地が局地的なうえ、河川開発やダム建設、農薬散布などによりさらに悪化や減少したことが考えられます。

参考文献 No. 36

ミヤマコマドアミカ (ハエ目 アミカ科)

Agathon montanus montanus



イラスト

生息環境



安曇野市：準絶滅危惧
NT

長野県：—	—
環境省：—	—

●特徴：体長 5~7mm。胸部は暗褐色で、翅は透明です。脚は黄色で、腿節の先端部と脛節の基部が暗褐色です。幼虫は渓流性で、急流の水面下の岩石上に生息しています。通常春季に羽化しますが、高地では夏季に羽化します。成虫は溪流の周辺に生息します。

●生息環境：幼虫は山地帯の溪流の急流部の石上に生息します。

●国内の分布：本州から九州に分布します。

●市内の分布：1990年代に黒沢川の黒沢の滝周辺で確認されています。

●減少要因：元々、生息地が局地的なうえ、河川開発やダム建設、農薬散布などによりさらに悪化や減少したことが考えられます。

参考文献 No. -

ニホンアミカモドキ (ハエ目 アミカモドキ科)

Deuterophlebia nipponica



生息環境



安曇野市：準絶滅危惧
NT

長野県：準絶滅危惧	NT
環境省：絶滅危惧Ⅱ類	VU

●特徴：体長 2~3mm。体は暗褐色で、単眼はありません。雄の触角は非常に長く、体長の3倍に達します。年に数回出現しますが、成虫の寿命は数時間です。雄の出現はまれで、単為生殖の可能性も示唆されています。幼虫はケイソウ類を食べます。

●生息環境：幼虫は山地帯の溪流の急流部の石上に生息します。

●国内の分布：本州、九州に分布します。

●市内の分布：1990年代に黒沢川の黒沢の滝周辺で確認されています。

●減少要因：河川開発やダム建設などによる河川源流域の河道安定化や、ダム下流部における水質の悪化などによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 2, 36, 52, 69

オオコシボソハナアブ (ハエ目 ハナアブ科)

Doros conopseus

安曇野市：準絶滅危惧

長野県： —

—

NT

環境省： —

—



生息環境



●特徴：体長約 15mm。腹部前半は細くくびれて、黒地に黄色横紋があり、アシナガバチ類に似ています。前翅前縁は黒色です。

●生息環境：山麓部の自然度の高い落葉広葉樹林に生息します。

●国内の分布：北海道、本州に分布します。

●市内の分布：1990年代に三郷スカイラインで確認されています。

●減少要因：森林伐採やカラマツ、スギの植林や農薬散布による生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 52

ツノヒゲハナアブ (ハエ目 ハナアブ科)

Callicera aurata

安曇野市：準絶滅危惧

長野県： —

—

NT

環境省： —

—



生息環境



●特徴：体長は約 15mm。長い触角が特徴的です。全身が金緑色を帯びた光沢ある黒色で、黄褐色の微毛で覆われます。

●生息環境：山地帯の天然林や二次林などに生息します。

●国内の分布：本州に分布しますが、分布域は局地的です。

●市内の分布：2000年代に三郷スカイラインで確認されています。出現期間が短いため、確認することが困難な種です。

●減少要因：森林伐採やカラマツ、スギの植林による生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 52

タカネベッコウハナアブ (ハエ目 ハナアブ科)

Volucella bombylans

安曇野市：準絶滅危惧

長野県： —

—

NT

環境省： —

—



生息環境



●特徴：体長は約 20mm。全身が黄褐色の密な短毛で覆われます。ベッコウハナアブに似ていますが、顔面が黄色であることで区別できます。

●生息環境：北アルプスの森林限界付近のダケカンパ林の林床で確認されています。

●国内の分布：現時点では、北アルプスのみで確認されています。

●市内の分布：穂高・三郷・堀金の亜高山帯から高山帯に生息し、2010年代に大滝山で確認されています。個体数は少ないと考えられます。

●減少要因：生息地は局地的で、個体数も少ないため、生息地の環境変化による生息状況への影響が大きいと考えられます。

参考文献 No. 140, 148

クモマトラフバエ (ハエ目 クロバエ科)

Xanthotryxus mongol



イラスト

生息環境



山 岳



安曇野市：準絶滅危惧
NT

長野県：—	—
環境省：—	—

●特徴：体長約12mm。黄金色が目立ちます。成虫は7～8月頃に出現しますが、個体数は少ないです。

●生息環境：本州の高山地帯に生息します。

●国内の分布：本州に分布します。

●市内の分布：穂高・三郷・堀金の亜高山帯から高山帯に分布し、2010年代に大滝山で確認されています。個体数は少ないと考えられます。

●減少要因：生息地は局地的で、個体数も少ないため、生息地の環境変化による生息状況への影響が大きいと考えられます。

参考文献 No. 140

オオナガレトビケラ (トビケラ目 ナガレトビケラ科)

Hymalopsyche japonica



生息環境



山 岳



安曇野市：準絶滅危惧
NT

長野県：準絶滅危惧	NT
環境省：準絶滅危惧	NT

●特徴：開張40～50mm。頭部は黄褐色で、胸部と腹部は灰赤褐色です。前翅は灰黄色で、淡黒褐色の斑紋があります。成虫は5～7月に出現し、昼間に溪流周辺を飛翔します。灯火にも飛来します。幼虫は水生で、ブユやカゲロウなどの幼虫を捕食します。

●生息環境：山地帯から亜高山帯の溪流に生息します。幼虫は溪流の滝や早瀬に生息します。

●国内の分布：本州、四国に分布します。

●市内の分布：黒沢川上流域などで確認されています。

●減少要因：河川開発などによる生息地の悪化や減少が考えられます。標高の高い河川源流域溪の巨礫の間や礫下に生息するため、詳しいことはわかっていません。

参考文献 No. 36, 52, 69

ベニモンマダラ (チョウ目 マダラガ科)

Zygaena nippona nippona



生息環境



山 岳



安曇野市：準絶滅危惧
NT

長野県：準絶滅危惧	NT
環境省：準絶滅危惧	NT

●特徴：開長23～33mm。前翅は光沢のある暗灰色で、5～6個の紅色斑紋があります。後翅は紅色で外縁部は黒色です。腹部は青黒色あるいは暗褐色で末端の4節は薄い朱色です。成虫は昼行性で、7～8月に出現します。幼虫はクサフジやツルフジバカマを食べます。

●生息環境：火山性草原や河川敷などの明るい草原に生息します。

●国内の分布：北海道、本州に分布します。

●市内の分布：山麓部のクサフジの生える草原や林縁で確認されています。

●減少要因：食草のクサフジがある草原が減少したことによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 4, 63

スジグロチャバナセセリ (チョウ目 セセリチョウ科)

Thymelicus leoninus leoninus

安曇野市：準絶滅危惧

長野県：絶滅危惧Ⅱ類

VU

NT

環境省：準絶滅危惧

NT



生息環境



●特徴：開長 28～31mm。雌雄で斑紋が異なります。雄は翅表面の地色が赤みを帯びた濃橙色で、翅脈、前後翅外縁、後翅前縁は黒色です。雌はヘリグロチャバナセセリに酷似します。年 1 回の発生で、7～8 月に出現します。幼虫はイネ科のカモジグサなどを食べます。

●生息環境：疎林や林縁付近の草原に生息します。

●国内の分布：北海道から九州に分布します。

●市内の分布：豊科・明科の山麓部から山地帯の草原や林縁で確認されているほか、犀川の河川敷で多くの個体が確認されることもあります。穂高・三郷・堀金の山麓部では近年減少しています。

●減少要因：カモジグサなどの食草のイネ科植物がある草原が減少したことによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No.

4, 12, 33, 38, 52, 58, 59

ジャコウアゲハ (チョウ目 アゲハチョウ科)

Byasa alcinous alcinous

安曇野市：準絶滅危惧

長野県：—

—

NT

環境省：—

—



生息環境



●特徴：開長 75～100mm。雄の翅表は黒色で、絹糸状の光沢があります。雌は黄灰色から暗灰色で、後翅黒縁中に赤色から黄色の弦月紋が明瞭にあらわれます。寒冷地では年 2 回の発生ですが、第 3 化を生じることもあります。幼虫はウマノスズクサなどを食べます。

●生息環境：林縁、河川の堤防、農地、墓地などの明るい環境に生息します。

●国内の分布：本州から九州、南西諸島、その他離島に分布します。

●市内の分布：豊科・明科の犀川中流域で少数が確認されています。かつては三郷中萱にも生息地がありました。

●減少要因：元々、食草のウマノスズクサがある場所が限られているため、分布域も局地的でした。近年、分布域は拡大傾向にあり、温暖化が影響していると考えられます。

参考文献 No.

4, 12, 19, 33, 52, 58, 59

ヒメギフチョウ (チョウ目 アゲハチョウ科)

Luehdorfia puziloi inexpecta

安曇野市：準絶滅危惧

長野県：留意種

N

NT

環境省：準絶滅危惧

NT



生息環境



●特徴：開長 45～55mm。翅表は黄色に黒色の帯があります。ギフチョウより小さく、後翅表面亜外縁に橙色斑がないことで識別できます。年 1 回の発生で 4～5 月に出現しますが、亜高山帯では 6 月以降にみられることもあります。幼虫はウスバサイシンを食べます。

●生息環境：山麓部から亜高山帯の二次林やカラマツ林に生息します。

●国内の分布：北海道、本州に分布します。

●市内の分布：穂高・三郷・堀金の山麓部と、光城山や長峰山の周辺で確認されています。

●減少要因：二次林が管理されなくなり、林内が暗くなったことによる生息地の悪化が考えられます。食草のウスバサイシンと蜜源のカタクリの生育状況も影響していると考えられます。

参考文献 No.

4, 11, 12, 15, 19, 21, 29, 33, 36, 46, 52, 59, 63

ミヤマモンキチョウ (チョウ目 シロチョウ科)

Colias palaeno sugitani

安曇野市：準絶滅危惧	長野県：準絶滅危惧	NT
NT	環境省：準絶滅危惧	NT



●特徴：開長約 45mm。翅表は雄が黄色で、雌が白色です。前翅外縁の黒帯に黄斑や白斑がないことでモンキチョウと識別されますが、紛らわしい個体もあります。年 1 回の発生で、7～8 月に出現します。幼虫はクロマメノキなどを食べます。【長野県指定天然記念物】

●生息環境：森林限界以上の亜高山帯から高山帯の草原に生息します。

●国内の分布：北アルプスと浅間山周辺に分布します。

●市内の分布：穂高・堀金の高山帯の稜線部で確認されています。

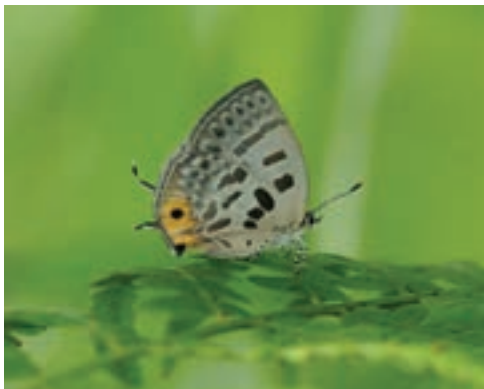
●減少要因：現時点では個体数の減少はみられませんが、今後温暖化により高山帯の環境が変化した場合、生息地が減少するなどの影響が懸念されます。

参考文献 No. 4, 6, 11, 15, 33, 70, 143, 144

ウスイロオナガシジミ (チョウ目 シジミチョウ科)

Antigius butleri

安曇野市：準絶滅危惧	長野県：—	—
NT	環境省：—	—



●特徴：開長 30～35mm。近縁種のミズイロオナガシジミに比べて翅表の地色が淡褐色となることが、和名の由来です。翅の裏面は灰白色で、灰褐色の斑紋があります。年 1 回の発生で、7～8 月に出現します。幼虫はミズナラやカシワなどを食べます。

●生息環境：山地帯の落葉広葉樹林に生息します。

●国内の分布：北海道から九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：穂高・三郷・堀金の山地帯のミズナラ林で確認されています。

●減少要因：元々個体数は多くない種です。穂高・三郷・堀金の山地帯のミズナラ林には、未確認の生息地がある可能性があります。

参考文献 No. 4, 6, 18, 33, 52

クロミドリシジミ (チョウ目 シジミチョウ科)

Favonius yuasai

安曇野市：準絶滅危惧	長野県：準絶滅危惧	NT
NT	環境省：—	—



●特徴：開長 35～40mm。翅表は暗褐色で、雄は外縁の黒帯部を除いて銅色の光沢があります。年 1 回の発生で 6～7 月に出現しますが、雌は秋まで生き残り産卵します。幼虫はクヌギやアベマキを食べます。終齢幼虫は昼間樹幹に降りて皺曲部に潜んでいます。

●生息環境：クヌギが生育する落葉広葉樹林に生息し、林縁に多くみられます。

●国内の分布：本州から九州に分布します。

●市内の分布：山麓部から山地帯のクヌギ林で確認されています。

●減少要因：食樹のクヌギがある二次林が管理されなくなり、林内が暗くなったことや、クヌギ林の減少による生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 6, 12, 19, 33, 36, 52, 59, 63

ウラナミアカシジミ (チョウ目 シジミチョウ科)

Japonica saepestriata



生息環境



安曇野市：準絶滅危惧	長野県：準絶滅危惧	NT
NT		環境省： —

●特徴：開長 40～45mm。翅表は赤橙色で、雌は前翅端に黒帯があります。裏面の橙色は淡く、黒条が規則的に並びます。年1回の発生で、6～7月に出現します。幼虫はクヌギやコナラなどを食べます。若いクヌギ林を好む傾向があります。

●生息環境：主に山麓部のクヌギなどが生育する落葉広葉樹林に生息します。

●国内の分布：北海道から四国に分布します。

●市内の分布：山麓部の二次林で確認されています。近年、穂高・三郷・堀金の個体数が著しく減少しています。

●減少要因：食樹のクヌギがある二次林が管理されなくなり、林内が暗くなったことや、クヌギ林の減少による生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 4, 12, 19, 33, 38, 52, 59

ミヤマシジミ (チョウ目 シジミチョウ科)

Lycaeides argyrognomon praeterinsularis



生息環境



安曇野市：準絶滅危惧	長野県：準絶滅危惧	NT
NT		環境省：絶滅危惧IB類

●特徴：開長 22～30mm。雄の翅表は藍紫色で、雌は暗褐色です。翅の裏面は雄が灰色で、雌は灰褐色です。後翅裏面の橙色帯外側の黒斑上に金属様藍色鱗が強く発達します。年に複数回発生し、成虫は5～9月にみられます。幼虫はコマツナギを食べます。

●生息環境：日当たりの良い河川敷や堤防の草原、火山性草原などに生息します。

●国内の分布：本州（東北地方南部から中部地方）に分布します。

●市内の分布：中房川や犀川の中流域及び穂高・三郷・堀金の山麓部の林縁などで確認されています。生息地は局地的です。

●減少要因：河川開発により食樹のコマツナギが減少したことが影響していると考えられます。また、草刈りによる影響も考えられます。

参考文献 No. 4, 6, 12, 19, 33, 52, 58, 59, 63

ムモンアカシジミ (チョウ目 シジミチョウ科)

Shirozua jonasi



生息環境



安曇野市：準絶滅危惧	長野県：準絶滅危惧	NT
NT		環境省： —

●特徴：開長 38～42mm。翅表は橙色で雄は通常無紋ですが、雌は前翅端に黒帯があります。年1回の発生で、7～9月に出現します。幼虫はクヌギなどに寄生するアブラムシ類やカイガラムシ類を食べます。クサアリ類と偏利共生関係にあることが知られています。

●生息環境：山麓部から山地帯の二次林に生息します。

●国内の分布：北海道、本州に分布します。

●市内の分布：主に山麓部の二次林で確認されています。山地帯のミズナラ林でも確認されています。

●減少要因：二次林が管理されなくなり、林内が暗く空間がなくなったことによる生息地の悪化が考えられます。

参考文献 No. 4, 12, 19, 33, 52, 59

クロツバメシジミ (チョウ目 シジミチョウ科)

Tongeia fischeri



生息環境



安曇野市：準絶滅危惧
NT

長野県：留意種	N
環境省：準絶滅危惧	NT

●特徴：開長 22～26mm。翅表は雌雄ともに黒色です。裏面は淡い黄褐色または灰白色で、白い縁取りのある黒点があります。寒冷地では年 3 回の発生で、5～9 月にみられます。幼虫はベンケイソウ科のツメレンゲなどの葉肉内に潜入して内部を食べます。

●生息環境：河川敷や護岸、人家の石垣、露岩地や岩場などに生息します。

●国内の分布：本州（中部地方）から九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：中房川や犀川の中流域で確認されています。生息地は食草のツメレンゲやオノマンネングサが生えている護岸などに限定されています。

●減少要因：河川開発や河川敷が森林に遷移したことにより、食草のツメレンゲの減少が影響していると考えられます。

参考文献 No. 4, 12, 19, 33, 58, 59

コヒオドシ (チョウ目 タテハチョウ科)

Aglais urticae connexa



生息環境



安曇野市：準絶滅危惧
NT

長野県：準絶滅危惧	NT
環境省：—	—

●特徴：開長約 50mm。翅表は赤橙色で、黒い模様があります。年 1 回の発生で新成虫は 7 月から出現しますが、多くは羽化後すぐに高山帯へ移動します。秋から翌春は低標高の溪流沿いなどでもみられます。幼虫はエゾイラクサなどを食べます。【長野県指定天然記念物】

●生息環境：発生地は山地帯から亜高山帯の森林や溪流沿いなどですが、高山帯へ移動した個体はお花畑でよくみられます。

●国内の分布：北海道、本州に分布します。

●市内の分布：夏季から秋季には高山帯、それ以外の季節は、中房川、烏川、黒沢川などの河川上流域に生息しています。春には、エゾイラクサに黒い幼虫の集団が確認されます。

●減少要因：砂防ダムなどの建設により河床が安定し遷移が進んだことにより、食草のエゾイラクサが減少したものと考えられます。

参考文献 No. 4, 6, 11, 12, 15, 21, 33, 52, 143, 144

ウラギンスジヒヨウモン (チョウ目 タテハチョウ科)

Argyronome laodice japonica



生息環境



安曇野市：準絶滅危惧
NT

長野県：—	—
環境省：絶滅危惧Ⅱ類	VU

●特徴：開長 55～70mm。翅表は橙色に黒斑があります。裏面は後翅中央を縦に走る銀白色の不連続な帯があり、その外縁側は一樣に赤褐色となります。年 1 回の発生で、6～10 月までみられますが、平地では盛夏に休眠します。幼虫はタチツボスミレなどを食べます。

●生息環境：森林に隣接した明るい草原に生息しますが、湿原やその周辺にもみられます。

●国内の分布：北海道から九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：穂高・三郷・堀金の山地帯にある林道沿いの開けた場所や、豊科・明科の山地帯の草原で確認されています。生息地は局地的で、個体数は少ないと考えられます。

●減少要因：二次林や草原の管理がおこなわれなくなり、生息地が暗く空間のない環境になったことによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 4, 12, 18, 1933, 36, 52, 59, 66

クモマベニヒカゲ (チョウ目 ジャノメチョウ科)

Erebia ligea takanonis



安曇野市：準絶滅危惧	長野県：留意種	N
NT	環境省：準絶滅危惧	NT

●特徴：開長 40～45mm。色彩斑紋はベニヒカゲに似ていますが、後翅裏面外縁の橙色帯の内側に白帯があらわれることで識別されます。年1回7～8月に出現しますが、一世代にあしかけ3年を要します。幼虫はホンモンジスゲなどを食べます。【長野県指定天然記念物】

●生息環境：亜高山帯の草原や、高山帯のお花畑などに生息します。

●国内の分布：北海道、本州（中部地方）に分布します。

●市内の分布：中房川や一の沢などの河川源流域の稜線直下及び稜線周辺で確認されています。タニスゲ、ホンモンジスゲなどがある沢沿いなどに生息しています。

●減少要因：生息地は局地的で、個体数も少ないため、生息地の環境変化による生息状況への影響が大きいと考えられます。

参考文献 No. 4, 6, 12, 15, 33, 70, 143, 144

ベニヒカゲ (チョウ目 ジャノメチョウ科)

Erebia nipponica nipponica



安曇野市：準絶滅危惧	長野県：留意種	N
NT	環境省：準絶滅危惧	NT

●特徴：開長 35～50mm。翅表は焦茶色で橙色帯があります。雌の翅表橙色帯は淡色で幅広く、黒色眼状紋には微小白点があります。年1回の発生で7～9月に出現します。幼虫はホンモンジスゲ、ヒメノガリヤスなどを食べます。【長野県指定天然記念物】

●生息環境：亜高山帯の草原や、高山帯のお花畑などに生息します。垂直分布は上限、下限ともに、クモマベニヒカゲより広いことが知られています。

●国内の分布：北海道から本州（中部地方以北）に生息します。

●市内の分布：中房川や一の沢などの河川源流域の稜線直下及び稜線周辺で確認されています。タニスゲ、ホンモンジスゲなどがある沢沿いなどに生息しています。

●減少要因：生息地は局地的で、個体数も少ないため、生息地の環境変化による生息状況への影響が大きいと考えられます。

参考文献 No. 4, 6, 11, 12, 15, 33, 70, 143, 144

タカネヒカゲ (チョウ目 ジャノメチョウ科)

Oeneis norma asamana



安曇野市：準絶滅危惧	長野県：準絶滅危惧	NT
NT	環境省：準絶滅危惧	NT

●特徴：開長 40～50mm。翅表は暗褐色で、雌は地色が明るく眼状紋が発達します。年1回7～8月に出現しますが、一世代にあしかけ3年を要します。幼虫はヒメスゲ、イワスゲなどを食べます。【長野県指定天然記念物】

●生息環境：森林限界以上の高山帯のガレ場に生息します。

●国内の分布：北アルプスと八ヶ岳に分布します。

●市内の分布：穂高・堀金の高山帯に生息し、ハイマツ群落で確認されています。

●減少要因：生息地は局地的で、個体数も少ないため、生息地の環境変化による生息状況への影響が大きいと考えられます。

参考文献 No. 4, 6, 11, 15, 33, 70, 143, 144

フチグロトゲエダシヤク (チョウ目 シヤクガ科)

Nyssiodes lefuarius



安曇野市：準絶滅危惧

長野県：情報不足

DD

NT

環境省： -

-

●特徴：開長 10～30mm。翅は橙黄色から黄褐色で、外縁は黒から黒褐色に幅広く縁どられます。雌は翅が退化しています。雄は雌のフェロモンを感知すると、旋回しながら近づいて交尾します。昼行性で、早春に出現します。

●生息環境：草原性で、河川敷などで確認されています。

●国内の分布：北海道から九州に分布します。

●市内の分布豊科・明科の山麓部にある水田で確認されています。生息地は局地的と考えられます。

●減少要因：生息地は局地的で、個体数も少ないため、生息地の環境変化による生息状況への影響が大きいと考えられます。

参考文献 No. 59

ヒメキシタヒトリ (チョウ目 ヒトリガ科)

Parasemia plantaginis



安曇野市：準絶滅危惧

長野県：準絶滅危惧

NT

NT

環境省： -

-

●特徴：開長 42～47mm。翅の色彩や斑紋は雌雄で異なりますが、地理的にも変異が著しく、多くの亜種に分けられています。北アルプスに生息するものは雌雄ともに黒色部が広くなります。成虫は昼行性で、7月に出現します。幼虫はオオバコなどを食べます。

●生息環境：亜高山帯の草原に生息します。

●国内の分布：北海道、本州に分布します。

●市内の分布：堀金の亜高山帯で確認されています。ガレ場のある開けた草原に生息します。生息地は局地的と考えられます。

●減少要因：生息地は局地的で、個体数も少ないため、生息地の環境変化による生息状況への影響が大きいと考えられます。

参考文献 No. 4, 35, 52, 69, 143, 144

ガガンボカゲロウ (カゲロウ目 ガガンボカゲロウ科)

Dipteromimus tipuliformis



安曇野市：情報不足

長野県： -

-

DD

環境省： -

-

●特徴：体長は 13～16mm。体は乳白色で、腹部には斜めの黒条があります。前翅は細長くガガンボの翅のようですが、後翅は小さく特異な形をしています。脚は長く、尾は3本です。成虫は溪流沿いの葉上などに静止していることが多いです。

●生息環境：河川源流域に生息します。幼虫は森林内の細流などに生息します。

●国内の分布：本州から九州、その他離島に分布します。

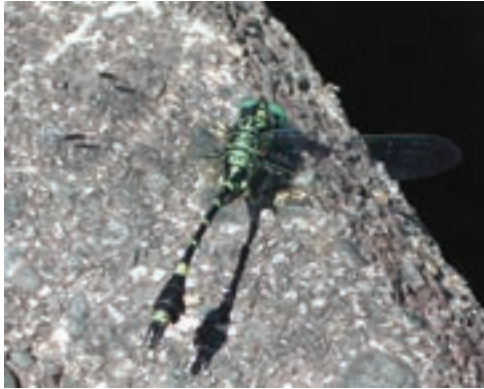
●市内の分布：2002年に黒沢川で確認されています。これは長野県内においても唯一の情報で、本種における最北の記録でもあります。個体数が元々少なく、確認が難しい種です。

●減少要因：個体数が少ないため、生息地の環境変化による生息状況への影響が大きいと考えられます。

参考文献 No. -

オナガサナエ (トンボ目 サナエトンボ科)

Onychogomphus viridicostus



生息環境



安曇野市：情報不足

長野県： —

—

DD

環境省： —

—

●**特徴**：体長 55～66mm。体は黒地に黄色の条班があります。成虫は6～8月に出現します。羽化直後は水辺の近くの森林などで過ごしますが、産卵期には水辺に戻ってきます。雌は浅い瀬の上でホバリングしながら打空産卵しますが、打水産卵することもあります。

●**生息環境**：成虫は河川中流域の礫河原などで礫上に静止していることが多いです。幼虫は流れのある瀬の石の下などに生息します。

●**国内の分布**：本州から九州、その他離島に分布します。

●**市内の分布**：2000年代に光城山付近で確認されています。

●**減少要因**：河川開発や水質悪化による生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No.

-

ヒメアミメカワゲラ (カワゲラ目 アミメカワゲラ科)

Arcynopteryx jezoensis



生息環境



安曇野市：情報不足

長野県：情報不足

DD

DD

環境省： —

—

●**特徴**：体長 10～13mm。体は光沢のある黒色で、卵黄色の斑紋があります。末端腹節と尾は暗黄色をしています。長翅の個体に混じって短翅型が発見されています。翅は透明で翅脈は前翅が暗褐色、後翅が黄褐色です。成虫は4月頃に出現します。

●**生息環境**：山地帯の比較的開けた空間のある溪流に生息します。

●**国内の分布**：北海道から本州に分布します。

●**市内の分布**：1990年代に黒沢川黒沢の滝周辺で確認されています。

●**減少要因**：河川開発による生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No.

52

ヒラタクチキウマ (バッタ目 カマドウマ科)

Anoplophilus longicercus



生息環境



安曇野市：情報不足

長野県： —

—

DD

環境省： —

—

●**特徴**：体長 12～16mm。体は黒褐色で、頭胸部は明褐色から黄褐色となる場合も多いです。胸部と腹部の背面に黄白色の点刻紋があります。触角は非常に長く、複眼は小さくて、翅はありません。雑食性で、夜間に活動します。

●**生息環境**：亜高山帯の常緑針葉樹林に生息します。

●**国内の分布**：本州（中部地方）に分布します。

●**市内の分布**：穂高・三郷・堀金の亜高山帯に分布し、落葉広葉樹の天然林もしくは自然度の高い二次林に生息すると考えられます。

●**減少要因**：森林伐採による生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No.

-

カヤコオロギ (バッタ目 マツムシ科)

Euscyrthus japonicus



生息環境



安曇野市：情報不足

長野県： —

—

DD

環境省： —

—

●特徴：体長 8～9mm。体は細長く、黄褐色で、黒褐色の縦帯があります。前翅は短く、発音器を欠いているため、雄も鳴きません。

●生息環境：河川敷や明るい森林の林床などに生息します。

●国内の分布：本州から九州に分布します。

●市内の分布：1930年代には山麓部・平野部の草原に生息していたと考えられます。

●減少要因：生活様式の変化により草原が減少したことや農業散布による生息地の悪化や減少が考えられますが、詳しいことはわかっていません。

参考文献 No.

4

オオガロアムシ (ガロアムシ目 ガロアムシ科)

Galloisiana kiyosawai



生息環境



安曇野市：情報不足

長野県：留意種

N

DD

環境省： —

—

●特徴：体長約 24mm。体色は白黄色から暗褐色で、ガロアムシやヒメガロアムシよりかなり大きいことで識別されます。ガロアムシ科は翅が退化し、不完全変態で成虫になるまで数年かかるといわれています。成虫、幼虫ともに小昆虫などを捕食します。

●生息環境：亜高山帯から高山帯に生息しますが、主な生息場所は高山帯のガレ地と考えられます。一生を通して浅い地表下で生活します。

●国内の分布：本州に分布します。燕岳から大天井岳にかけての稜線で1953年に発見された標本をもとに新種となりました。

●市内の分布：穂高・堀金地域の高山帯のガレ地に生息していると考えられます。

●減少要因：登山者の踏みつけによるお花畑の減少などによる生息地の悪化や減少が考えられます。主に地表下で生活しており、確認が困難であることから、生息状況は不明です。

参考文献 No.

139

フタオセンブリ (アミメカゲロウ目 センブリ科)

Sialis bifida



生息環境



安曇野市：情報不足

長野県： —

—

DD

環境省： —

—

●特徴：前翅長 12～13mm。全身は黒色で茶色の横帯があります。堀金の烏川上流域で1996年と1997年に採集された個体をもとに、新種として記載されました。

●生息環境：河川に生息すると考えられますが、どのような場所を好むかは不明です。

●国内の分布：本州に分布します。

●市内の分布：烏川上流域で確認されていますが、詳しいことはわかっていません。

●減少要因：新種記載以降の調査は十分でないため、生息状況は不明です。

参考文献 No.

36, 52, 82

キオビクロスズメバチ (ハチ目 スズメバチ科)

Vespula vulgaris



生息環境



安曇野市：情報不足

長野県：情報不足

DD

DD

環境省：—

—

●特徴：体長 10～18mm。体は黒色で、鮮黄色の斑紋があります。腹部第1節背板には矢印型の黒斑があります。女王バチは5～6月頃に営巣を開始し、雄バチと新女王バチは9～10月に出現します。土中や樹洞に営巣します。威嚇性、攻撃性はやや強いです。

●生息環境：山地帯の落葉広葉樹林から亜高山帯の常緑針葉樹林に生息します。

●国内の分布：北海道、本州に分布します。

●市内の分布：穂高・三郷・堀金の山地帯から亜高山帯に分布し、自然度の高い二次林にある落葉広葉樹林に生息していると考えられます。

●減少要因：森林伐採や土地開発、農薬散布などによる生息地の悪化や減少が考えられますが、詳しいことはわかっていません。

参考文献 No. 69

タカネキアシナガレアシナガバエ (ハエ目 アシナガバエ科)

Diostracus nakanishii



イラスト

生息環境



安曇野市：情報不足

長野県：—

—

DD

環境省：準絶滅危惧

NT

●特徴：体長約5mm。脚は黄色で、翅は細長く黄色味を帯びます。ナガレアシナガバエ属の幼虫は、溪流性または岩清水性です。成虫は、溪流や小滝周辺の飛沫のかかる岩上や大滝の裏側の濡れた岩面などを生息場所として、岩面に生息する水生昆虫を捕食します。

●生息環境：亜高山帯から高山帯の溪流などに生息します。

●国内の分布：中部山岳地帯（北アルプス・南アルプス）に分布します。

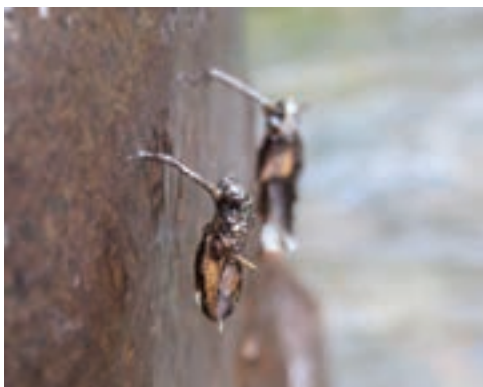
●市内の分布：穂高・三郷・堀金の亜高山帯から高山帯に生息していると考えられます。

●減少要因：生息地が局地的であるため、詳しいことはわかっていません。

参考文献 No. —

キタガミトビケラ (トビケラ目 キタガミトビケラ科)

Limnocentropus insolitus



生息環境



安曇野市：情報不足

長野県：留意種

N

DD

環境省：—

—

●特徴：開長 30～35mm。体は黒色で、触角は太くてやや短く、翅は黒褐色です。成虫は4～7月頃に出現し、溪流沿いを飛翔します。幼虫は水生で、植物片でつくった長円錐形の筒巢を長い柄で河床の石礫に固着します。肉食性で、他の小動物を濾過捕食します。

●生息環境：山地帯の溪流に生息します。幼虫は溪流の早瀬に生息します。

●国内の分布：本州、四国に分布します。

●市内の分布：山地帯の溪流に生息しています。

●減少要因：砂防ダムなどにより河道が安定すると生息地として不適になります。また、あまり河道がかく乱されても不適となります。

参考文献 No. 36

フタオレウスグロエダシャク (チョウ目 シャクガ科)

Biston thoracicaria



生息環境



▶耕作地
▶農産地



安曇野市：情報不足

DD

長野県： —

—

環境省： —

—

●特徴：開長 27～36mm。前後翅とも暗灰褐色で、斑紋は不明瞭です。栃木県では年 2 回の発生で、5 月と 7 月に成虫の発生が確認されていますが、地域によって年 1 化の可能性もあります。幼虫は広食性で、リンゴ、スズカケノキなどを食べます。

●生息環境：リンゴやスズカケノキ（プラタナス）などを食べていることから、山麓部・平野部の農地や公園のような環境に生息している可能性があります。

●国内の分布：北海道から九州に分布します。

●市内の分布：1930 年代に豊科地域で採集された標本があります。

●減少要因：情報が少ないため生息地や個体数の状況について詳しいことはわかっていません。

参考文献 No. 52

メンガタスズメ (チョウ目 スズメガ科)

Acherontia styx crathis



生息環境



▶耕作地
▶農産地



安曇野市：情報不足

DD

長野県： —

—

環境省： —

—

●特徴：開長 85～120mm。前翅は一様に黒色ですが、後翅は黄色で黒い帯が 2 本あります。胸部背面に黒褐色の人面模様があります。成虫は蜜を摂食するため、ミツバチの巣に侵入することがあります。幼虫はナスやジャガイモなどの葉を食べます。

●生息環境：農地や養蜂場などの人為的環境やその周辺に生息します。

●国内の分布：本州から九州、南西諸島、その他離島に分布します。

●市内の分布：1930 年代に穂高地域有明で採集された標本があります。

●減少要因：情報が少ないため生息地や個体数の状況について詳しいことはわかっていません。安曇野市は本来の分布域ではない可能性もあります。

参考文献 No. 4

ウスズミケンモン (チョウ目 ヤガ科)

Hylonycta carbonaria



生息環境



▶森林



安曇野市：情報不足

DD

長野県： —

—

環境省：準絶滅危惧

NT

●特徴：開長 45～50mm。前翅の地色は灰褐色で、斑紋は不明瞭ながら外横線、環状紋及び腎状紋が認められます。後翅は白色で前縁及び翅脈がやや暗色化します。成虫は年 2 回発生し、5 月と 7～8 月にみられます。幼虫はクヌギの葉を食べます。

●生息環境：山麓部・平野部のクヌギが生育する二次林に生息します。

●国内の分布：本州から九州に分布します。

●市内の分布：1930 年代に穂高地域有明で採集された標本があります。

●減少要因：情報が少ないため生息地や個体数の状況について詳しいことはわかっていません。

参考文献 No. —